

法人 年報

第 17 号



令和 3 年度
(2021年度)

医療法人 博仁会
社会福祉法人 博友会
学校法人 志村学園

目

次

巻頭言	1
法人経営理念	
医療法人 博仁会	2
社会福祉法人 博友会	3
法人の沿革	4
志村大宮病院概要	6

第一部

1. 博仁会 組織図	9
2. 博友会 組織図	10
3. 志村学園 組織図	11
4. 委員会一覧	
博仁会	12
博友会	13
5. 年間行事	
博仁会	14
博友会	15
6. 事業実績（博仁会）.....	16
事業実績（博友会）.....	25
7. 部門別実績報告	
〔博仁会〕	
看護局	31
一般病棟科	32
緩和ケア病棟科	33
外来科	34
回復期リハビリテーション病棟科	35
療養病棟科	36
志村地域医療連携センター	37
リハビリテーション事業部	38
病院リハビリテーション科	39
機能訓練センター フリュージェル	40
リハビリテーション事業部 訪問リハビリグループ	41
画像検査科	42
志村大宮病院認知症疾患医療センター	43
老健入所科	44
おおみやホームヘルプステーション	45
おおみや訪問看護ステーション	46
フロイデひたちなか訪問看護ステーション	47
ケアプランセンター	48

常陸大宮市南部地域包括支援センター	49
ひたちなか市北部地域包括支援センター	50
コミュニティケアサービス部	51
在宅介護支援センターおおみや	53
栄養科	54
薬剤科	55
診療サービス課	56
管理部	57
経理部	59
人事課	60
法人サポート部	61
〔学校法人志村学園〕	
茨城北西看護専門学校	62
〔博友会〕	
博友会事業実績報告	63
事務サービスグループ	64
栄養サービスグループ	65
御前山フロイデガルテン	66
御前山デイサービスセンター	67
ごぜんやまホームヘルプステーション	68
ごぜんやま訪問入浴サービスセンター	69
在宅介護支援センターごぜんやま	70
ごぜんやま総合ケアプランセンター	71
フロイデグループホーム桂	72
フロイデ総合在宅サポートセンター美和	73
フロイデ総合在宅サポートセンター城里	74
フロイデ工房しろさと	75
大宮フロイデドルフ	76
フロイデ総合在宅サポートセンター友部	77
フロイデアシストハウス大宮	78
フロイデ工房なか	79
ロッチェなか	79
8. 各委員会活動報告	
〔博仁会〕	
接遇向上委員会	80
医療介護安全推進委員会	82
感染対策委員会	84
褥瘡対策委員会	85

〔博友会〕

サービス向上委員会	86
感染予防委員会	87
教育委員会	88
地域広報委員会	89
食事委員会	90
業務改善委員会	91
リスクマネジメント委員会	92
防災管理委員会	93
車両安全管理委員会	94

第二部

1. 学術活動

(1) 理事長執筆取材講演実績	97
(2) 学会発表	101

2. 各種行事

第21回全法人目標・成果発表大会	102
茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会	103
Café fun garden	104
ミニ産直市	105

巻 頭 言

令和 3 年度法人年報発刊に当たって

医 療 法 人 博 仁 会

社会福祉法人 博 友 会

学 校 法 人 志 村 学 園

理 事 長 鈴 木 邦 彦

令和 3（2021）年度も当グループは新型コロナウイルス感染症対応に追われました。

その中で、志村大宮病院は 10 月に創立 70 周年を迎えました。当院は昭和 26（1951）年 10 月に、水戸市の志村病院の分院として、私の母方の祖父志村國作により開設されました。昭和 28（1953）年 5 月には父鈴木芳男が 2 代目院長に就任しています。昭和 32（1957）年 10 月には医療法人博仁会も設立され、父が理事長となりました。私は平成 5（1993）年 7 月に戻りましたが、平成 8（1996）年 4 月から院長に、平成 10（1998）年 2 月より理事長に就任して今日に至っています。長年に渡って当院の発展に貢献した両親でしたが、父は平成 23（2011）年 11 月 2 日に満 90 歳で、母は令和元（2019）年 5 月 28 日に満 86 歳でそれぞれ亡くなりました。私たち子どもに対して惜しみない愛情を注いでくれた両親に心から感謝しています。

ところで令和 3 年 7 月～9 月には、新型コロナウイルス感染症で 1 年延期となった東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本選手が 27 個の金メダルを含む大活躍をしました。当グループでは、同年 10 月に水戸メディカルプラザに看護小規模多機能型居宅介護を、フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなかにフロイデひたちなかホームヘルパーステーションをそれぞれ開設いたしました。令和 4 年（2022）年 4 月にはフロイデケアタウンひたちなかの第 2 期工事も着工いたしました。令和 5（2023）年 4 月のオープンを目指して準備を進めてまいります。

現在も新型コロナウイルス感染症への対応はもちろん必要ですが、令和 6（2024）年 4 月には診療報酬、介護報酬、障害福祉サービスのトリプル改定と第 8 次医療計画の開始および医師の働き方改革の実施という大きな節目を迎えます。社会保障・税一体改革の 2 本柱である地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想の実現、およびかかりつけ医機能の充実・強化は三位一体の取り組みが求められています。

私は茨城県医師会会長として、新型コロナウイルス感染症対応とともに、県と協力して地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想の実現にも取り組んでいます。とくに地域包括ケアシステムの構築に向けては、県より県医師会に委託されている地域ケア推進センターを中心に、市町村と郡市医師会が連携して、市町村単位の地域包括ケアシステムの構築を目指しています。そのためには、高度急性期大病院の集約化と地域密着型中小病院の分散化が必要です。私は日本医療法人協会副会長も務めていることから、四病院団体協議会を母体として、令和 4 年 3 月に一般社団法人日本在宅療養支援病院連絡協議会を設立させていただきました。

当グループは今後とも患者・利用者様の安心と職員の幸せとともに、広く地域社会への還元を目指して事業に取り組んでまいります。

医療法人 博仁会

【経営理念】

私たちは、お客様が住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために、必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

【経営目標】

私たちは、県央・県北西部のリハビリセンターと高齢者・障害者総合ケアシステムの確立を実現します。

【綱領】

1. 顧客様に対する気配りを念頭におく。
1. 顧客様に対して笑顔で接し、接遇向上を常に心掛ける。
1. 品質は全職員の融和と協力によって機能が発揮される。
1. 保健と福祉は医療・介護の一環である。
1. 地域に対する配慮を大事にする。

【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、いつでもサービスの改善を心がけることにより、ご利用者様ならびにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供いたします。

【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

社会福祉法人 博友会

【経営理念】

私たちは、お客様が住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

【法人目標】

1. 社会福祉法人として地域におけるセーフティネットとしての役割を十分に発揮し、地域に根差した事業展開をする。
2. 法人運営のための収益確保とすべての拠点の事業継続計画の策定。
3. 効率化と科学的介護への取り組みの実施。
4. 働き方改革への制度体制の準備。
5. 「人財」としての人材定着を推進する環境づくりの整備。

【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、ご利用者様並びにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供するとともに、品質マネジメントシステムの継続的な改善に努め、常にサービスの質の向上を目指します。

【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるように、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

法人の沿革

昭和26年 (1951)	志村大宮病院設立	平成17年 (2005)	地域リハビリテーション広域支援センター開設
昭和28年 (1953)	鈴木 芳男 理事長・院長兼任		亜急性期病床開設
平成 8 年 (1996)	鈴木 邦彦 院長就任		フロイデ在宅サポートセンター大宮中央開設
平成10年 (1998)	鈴木 芳男 会長就任 鈴木 邦彦 理事長・院長兼任		フロイデ総合在宅サポートセンター美和開設
	※		フロイデ在宅サポートセンター大宮北開設
平成 7 年 (1995)	おおみや訪問看護ステーション開設	平成18年 (2006)	フロイデ総合在宅サポートセンター緒川開設
平成 8 年 (1996)	老人保健施設大宮フロイデハイム開設 大宮デイケアセンター開設 大宮リハビリテーションセンター開設 在宅介護支援センターおおみや開設		常陸大宮市南部地域包括支援センター開設
平成10年 (1998)	志村デイケアセンター開設（現在の志村デイサービスセンター） おおみやホームヘルパーステーション開設	平成19年 (2007)	プライバシーマーク認証取得 フロイデ総合在宅サポートセンター山方開設
平成11年 (1999)	おおみや総合ケアプランセンター開設		フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台開設
平成12年 (2000)	療養型病棟「チロル館」開設 社会福祉法人 博友会 設立	平成20年 (2008)	フロイデ総合在宅サポートセンター城里開設
平成13年 (2001)	介護老人福祉施設「御前山フロイデガルテン」開設		医療法人 博仁会 志村大宮病院附属志村クリニックごぜんやま開設
平成14年 (2002)	茨城県指定「地域リハ・ステーション」開設 茨城県指定「おおみや訪問リハ・ステーション」開設	平成21年 (2009)	フロイデ工房しろさと（障害者就労支援施設）開設 茨城県指定「小児リハ・ステーション」開設
平成15年 (2003)	病院機能評価「複合 A（一般・長期療養）」認定取得 フロイデグループホーム桂開設 茨城県北西総合リハビリテーションセンター開設 ・回復期リハビリ病棟「スイス館」 ・総合リハビリテーション施設「ヨーデルリハビリテーションセンター」	平成22年 (2010)	学校法人志村学園 茨城北西看護専門学校開設 フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田開設 みとけやき台総合ケアプランセンター開設
平成16年 (2004)	ISO9001:2000認証取得	平成23年 (2011)	地域密着型介護老人福祉施設「大宮フロイデドルフ」開設 院内保育所「フロイデキンダーガルテン」開設
		平成24年 (2012)	フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなか開設 ひたちなか総合ケアプランセンター開設 コミュニティカフェ「バンホフ」開設

平成25年 (2013)	フロイデ総合在宅サポートセンター友部開設 やまがた総合ケアプランセンター開設 病院機能評価Ver.6.0認定取得 志村フロイデ地域包括ケアセンター開設	付加機能 リハビリテーション機能 (Ver.3.0)	
平成26年 (2014)	フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台小規模デイサービスつどいの家開設	令和元年 (平成31年) (2019)	フロイデグループホームひたちなか いばらきテクノエイドセンター みんなの休憩所 フロイデ水戸メディカルプラザ
平成27年 (2015)	志村大宮病院新本館「ドイツ館」竣工 ・緩和ケア「エーデルワイス病棟」開設 フロイデ総合在宅サポートセンター大宮開設 フロイデアシストハウス大宮開設 ひたちなか市北部地域包括支援センター開設 くるみんマーク(子育てサポート認定企業)認定	令和2年 (2020)	フロイデ水戸メディカルプラザ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
平成28年 (2016)	院内売店 KIOSK PLATZ 開設 志村検査・健診センター 開設	令和3年 (2021)	フロイデひたちなかメディカルプラザ 着工
平成29年 (2017)	認知症対応型通所介護志村デイサービスセンター(さくらデイサービス)開設 茨城県指定 認知症疾患医療センター開設 在宅介護支援センターおおみや 開設 機能訓練センターフリューゲル 開設 フロイデ総合在宅サポートセンター友部 開設 フロイデアシストハウス大宮 開設 フロイデひたちなか訪問看護ステーション 開設 フロイデ工房なか 開設 ロッチェなか 開設 療養型病棟「チロル館」が医療療養病棟「チロル館」へ変更		
平成30年 (2018)	病院機能評価 一般病院1 3rdG:Ver.1.1 認定取得 副機能 リハビリテーション病院 3rdG:Ver.1.1 副機能 緩和ケア病院 3rdG:Ver.1.1		

志村大宮病院概要

理事長・院長	鈴木 邦彦
所在地	〒 319 - 2261 茨城県常陸大宮市上町 313 番地 T E L 0295 - 53 - 1111 F A X 0295 - 52 - 2705
診療科目	内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・神経内科・心療内科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・婦人科・小児科・眼科・リハビリテーション科・放射線科・歯科口腔外科・精神科・糖尿病外来・人間ドック・企業健診
常勤医師	20 名
非常勤医師	51 名
医療設備	全身ヘリカルマルチスライス C T、M R I、P S G システム、 超音波診断装置（腹部・心臓・泌尿器科・婦人科）、 内視鏡装置（上部・下部消化管・十二指腸・気管支・咽頭・膀胱）、 デジタル X 線テレビ装置、その他リハビリテーション装置
病床数	許可病床数 178 床 一般病棟 48 床 地域包括ケア病床 12 床 緩和ケア病床 20 床 回復期リハビリテーション病棟 50 床
看護体制	一般病棟 看護 10 : 1 緩和ケア病棟 看護 7 : 1 回復期リハビリテーション病棟 看護 13 : 1 医療療養病棟 看護 20 : 1 介護 20 : 1
指定医療機関	在宅療養支援病院 認知症患者医療センター 高次脳機能障害地域支援拠点病院 茨城県地域リハビリテーション研修支援センター 茨城県地域リハビリテーション広域支援センター 茨城県地域リハ・ステーション 労災保険指定医療機関 指定自立支援医療機関（精神通院医療） 生活保護法指定医療機関 難病指定医療機関 在宅難病患者一時入院事業 委託契約医療機関 訪日外国人旅行者受入れ医療機関 胃がん検診 登録検診実施機関・登録精密検査医療機関 肺がん検診 登録精密検査医療機関 大腸がん検診 登録精密検査医療機関 子宮頸がん検診 登録検査実施機関 日本医療機能評価機構 主たる機能：一般病院 1 副機能：リハビリテーション病院 副機能：緩和ケア病院 付加機能：リハビリテーション機能 ISO9001（品質マネジメントシステム）：2015 認証取得 プライバシーマーク登録 日本リハビリテーション医学会認定研修施設 DPC 対象病院

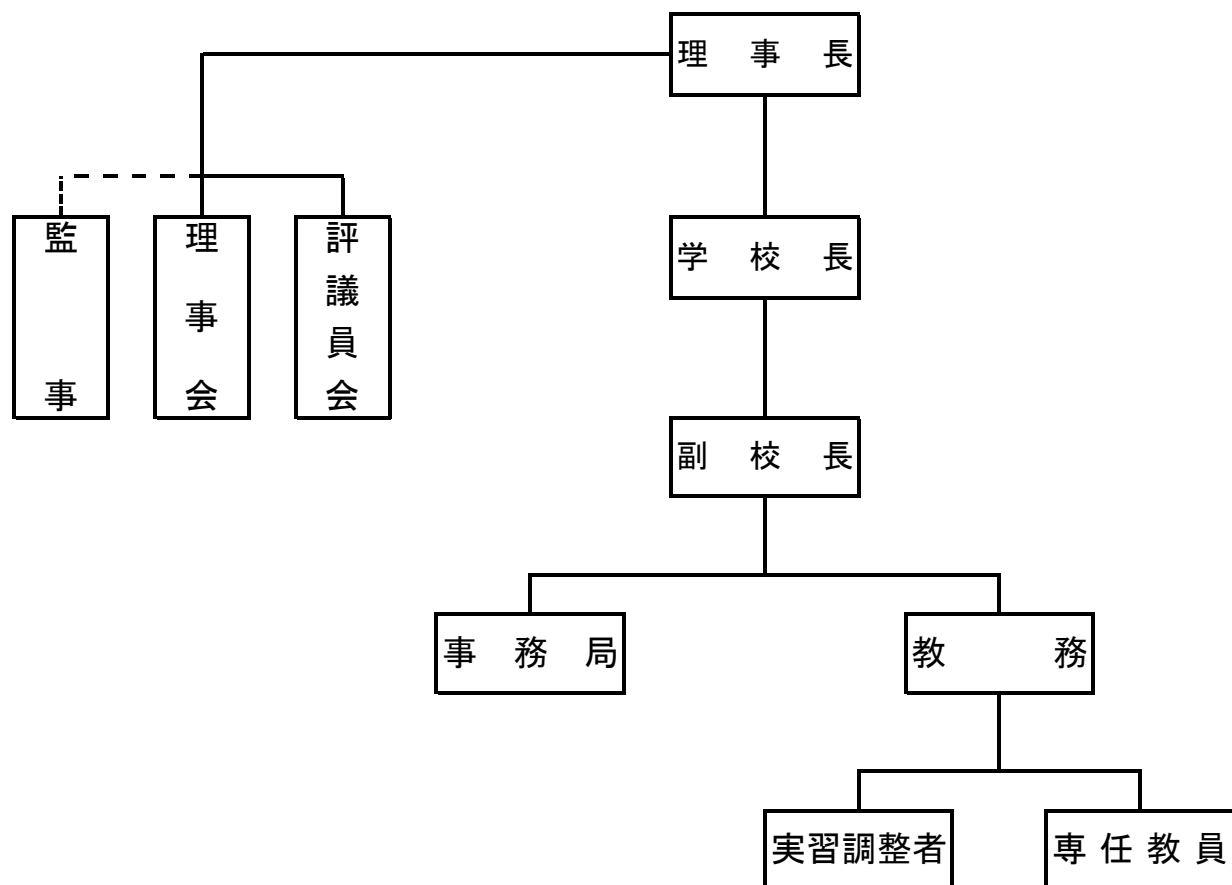
■ 第 一 部 ■

1. 博仁会 組織図





3. 志村学園 組織図



4. 委員会一覧（博仁会）

委員会	委員長	計	開催日	役割
医局会	鈴木 邦彦	23 名	第 4 月曜	医師、コメディカルのコミュニケーションを取り、情報を共有する場。
医療介護安全推進委員会	鈴木 邦彦	20 名	第 4 火曜	医療介護事故の分析及び再発防止などの検討。委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直し。医療介護安全管理のための啓発、教育、広報。
院内感染対策委員会	鈴木 邦彦	29 名	第 4 火曜	院内感染に対して、院内感染の予防と感染症発生時に適切かつ迅速な対応を行う。
接遇向上委員会	鈴木 邦彦	78 名	第 3 月曜	職員がプロ意識を持ちご利用者に「心からの満足していただけるサービス提供」を行うため、接遇マナー向上・教育活動とご利用者のニーズを収集し、更には接遇向上のための企画立案活動を行う。
看護・介護教育委員会	加藤 令子	9 名	第 3 水曜	職員に対して法人内外における教育の機会を設け、資質の向上ならびに研究の推進をはかる。
安全衛生委員会	鈴木 邦彦	25 名	第 2 火曜	労働災害の防止、責任体制の明確化、職員の安全と健康を確保、快適な作業環境の形成促進。
医療ガス安全委員会	鈴木 邦彦	7 名	1 回 / 年	保守点検実施責任者に点検を行わせる。新築、増築、改修工事、及び修理等実施の際の安全確保。院内各部門への、医療ガスに関する知識の普及、啓発。
NST	鈴木 邦彦	12 名	毎週月曜	ご利用者様のよりよい栄養管理を迫及する。
褥瘡対策委員会	西村 雅美	42 名	第 3 火曜	院内における褥瘡発生を予防し、褥瘡に対し発症早期より適切なケア・治療を行えるような体制を整える。

4. 委員会一覧（博友会）

委員会	主幹	計	開催日	役割
運営委員会	鈴木 邦彦	25 名	第 3 金曜	各管理者が集い実績報告ならび運営に必要な検討事項を協議し決定する。
感染・褥瘡予防委員会	宮路 満智子	30 名	第 1 火曜	各事業所での感染予防・褥瘡予防のために必要な情報伝達や職員教育を行う。
地域広報委員会	森 達也	18 名	不定期	地域共生社会を実現する為に地域に参画し交流を図る。また地域のニーズや課題の解決に目を向け施設の役割や連携を図り情報発信を行う。
食事委員会	鈴木 真弓	21 名	第 3 水曜	安全で美味しい食事の提供のために嗜好調査・アンケート結果等を分析し、食事の質の向上や顧客にニーズに応える為の活動を行う。
教育委員会	室井 英雄	19 名	不定期	職員に対して法人内外における教育の機会を設け、資質の向上ならびに研究の推進を図る。
防災管理委員会	佐藤 信也	21 名	年 4 回	消防訓練や職員の防災教育を図り、災害時適切な行動ができるように備える。
サービス向上委員会	清水 良則	26 名	第 2 火曜	職員がプロ意識を持ちご利用者に「心からの満足していただけるサービス提供」を行うため、接遇マナー向上・教育活動とご利用者のニーズを収集し、更には接遇向上のための企画立案活動を行う。
リスクマネジメント委員会	藤田 章宏	25 名	第 3 月曜	各事業所で発生したヒヤリハット及び事故の集計・分析を行う。重大な事故が発生しない為の予防活動、指導を行う。
権利擁護委員会	岩間 武寿	19 名	年 4 回	介護施設として必要な権利擁護等の活動に対し、体制や環境の整備・職員教育を行う。
業務改善委員会	黒澤 貴明	20 名	不定期	サービスの質の向上及び顧客満足度の向上を目的に業務改善を推進し、職場環境や業務効率の改善を図る環境づくりを行う。
車両安全管理委員会	宮田 匠	14 名	第 3 月曜	職員の車両運用と交通安全教育を図り、安全運転・車両管理の意識を高め、車両事故ゼロを推進する。

5. 年間行事（博仁会）

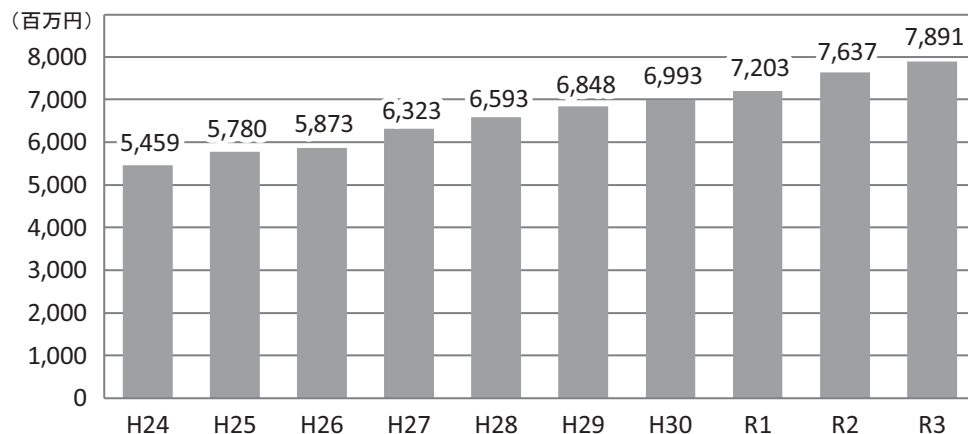
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医局会	13	22	21	20	24	28	19	16	14	18	15	15
全体朝礼	6	22	8	6	3	7	5	2	7	17	1	1
地域清掃活動	6	22	8	6	3	7	5	2	7	17	1	1
サービス改善ミーティング	3	7	8	6	4	9	5	12	11	15	15	29
医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会	3	7	8	6	4	8	5	9	7	5	8	8
各部門連絡ミーティング	3	7	8	6	4	10/5	11/9	12/7	1/5	18	3/8	4/5
地域包括ケアミーティング	11	7	18	14	17	18	16	17	24	15	15	12
経営戦略会議	11	7	18	14	17	18	13	17	24	28	26	26
食事改善推進プロジェクト	13	11	8	13	17	14	12	9	14	18	8	8
PST ミーティング	13	22	21	20	24	28	19	16	14	18	15	15
薬剤・DPC ミーティング	13	22	21	20	24	28	19	16	14	18	15	15
クリティカルパス推進委員会	14	12	9	14	11	8	13	10	8	12	9	9
コア6 ミーティング	14	12	9	14	11	8	13	10	8	12	9	6
待遇向上委員会	14	12	9	14	11	8	13	10	8	12	9	6
茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング	16	28	23	15	20	24	22	19	21	28	25	25
褥瘡対策委員会	16	21	18	14	20	17	15	19	17	21	18	18
事務ミーティング	16	28	19	21	20	23	13	20	30	28	3/1	19
フロイデ水戸メディカルプラザ運営ミーティング	16	27	24	30	25	16	20	12	23	20	17	17
感染対策小委員会	22	27	24	22	26	23	22	25	23	27	24	24
呼吸器センターミーティング	27	6/1	23	8/3	9/8	10/12	11/2	30	21	25	3/1	29
認知症連携ミーティング	27	6/1	23	8/3	9/8	10/6	11/2	30	21	25	20	29
消化器ミーティング	-	-	-	-	-	-	11/2	30	21	25	20	29
経営会議	27	27	25	8/3	9/1	28	26	30	24	28	26	26
タウンマネジメントミーティング	16	28	19	21	20	23	13	17	11	15	25	19
志村学園ミーティング	16	28	19	21	9/8	28	11/11	30	21	28	20	15

5. 年間行事（博友会）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体朝礼	6	11	1	6	3	7	5	2	7	17	1	1
地域清掃活動	6	11	1	6	3	7	5	2	7	17	1	1
医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会	5	7	8	6	4	8	5	9	7	5	8	8
各部門連絡ミーティング	5	7	8	6	4	13	5	8	7	18	8	8
経営会議	26	27	25	27	31	28	26	30	24	28	26	26
運営ミーティング	5/6	24	21	27	30	27	28	22	23	17	28	29
事務サービスグループミーティング	28	26	23	28	25	21	27	24	22	26	24	23
栄養サービスグループミーティング	9	10	8	6	6	6	2	9	4	12	3	3
御前山フロイデガルテンミーティング	27	28	22	29	23	17	29	29	29	14	10	10
御前山デイサービスミーティング	18	23	20	18	22	19	17	21	18	23	19	19
ごぜんやまヘルパーステーションミーティング	21	-	23	28	25	29	27	24	22	26	24	23
ごぜんやま訪問入浴サービスミーティング	21	-	23	28	25	29	27	24	22	26	24	23
ごぜんやま総合ケアプランセンターミーティング	21	-	23	28	25	29	27	24	22	26	24	23
グループホーム桂ミーティング	21	25	7	27	10	21	7	24	15	12	17	15
サポートセンター美和ミーティング	3	8	5	3	7	4	2	6	4	8	5	5
サポートセンター城里ミーティング	7	12	9	14	10	8	6	10	8	12	9	9
育成・就労支援グループミーティング	23	28	25	30	27	24	29	26	24	28	25	25
大宮フロイデドルフミーティング	27	26	23	28	25	29	27	24	22	26	23	23
サポートセンター友部ミーティング	12	10	7	12	9	13	11	8	13	10	14	14
フロイデアシスト大宮ミーティング	28	25	29	27	31	28	26	30	28	25	22	29

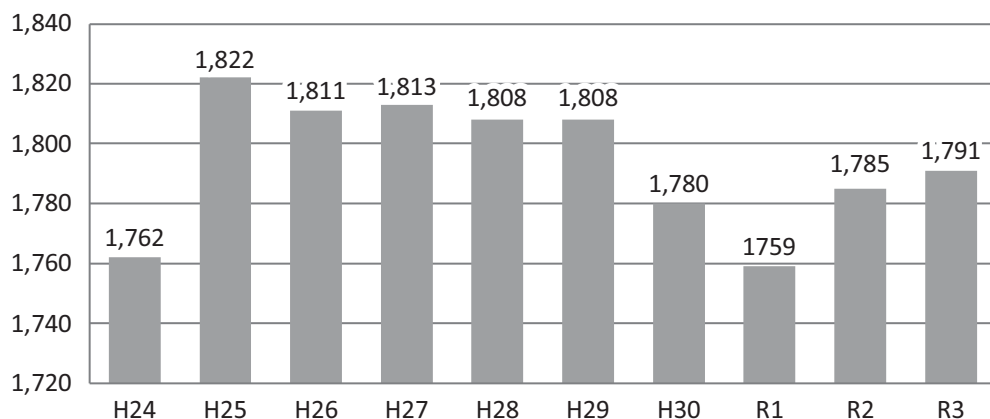
6. 事業実績（博仁会）

◎全体実績推移



◎一般病棟科患者数推移

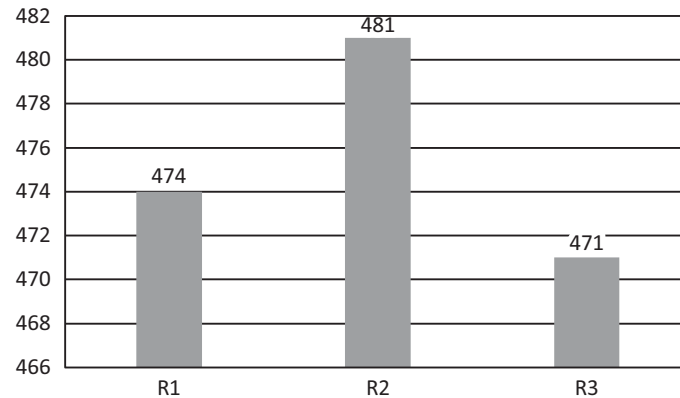
患者数推移



項 目	目 標	実 績
当日収入患者数	59 名／月	58.9 名／月
平均在院日数 DPC 効率係数 1.0 の維持	19.0 日以下 1.0 以上	18.3 日 1.0
重症度、医療・看護必要度	22.1%以上	33.5%／月
メディカルショートステイの受け入れ	年間 12 件	年間 1 件
摂食機能療法算定	15 件／月	9.4 件／月
認知症ケア加算	200 件／月	320 件／月
退院前・後訪問指導料	3 件	1 件
地域包括ケア病床在宅復帰率 70%以上の確保	70%	80.8%
排尿自立支援加算	12 件／年	17 件／年
入退院支援加算 1	20 件／月	23.8 件／月
救急・在宅等支援病床（初期加算）	35 件	59.8 件
残業時間の削減	48 時間削減／月	131 時間削減／月

◎緩和ケア病棟科の実績

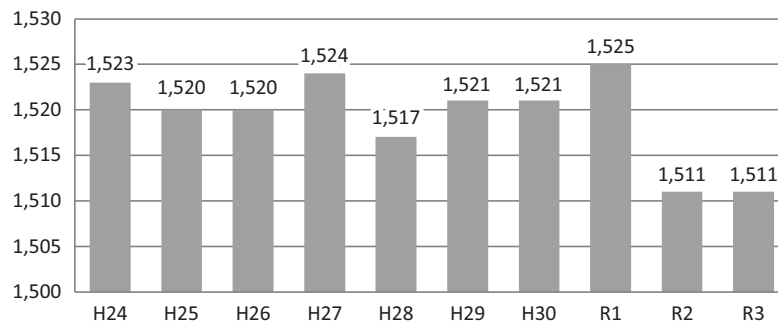
患者数推移



項 目	目 標	実 績
緩和ケア対象患者の確保 病床利用率	17 床／月	15.9 床／月
緩和ケア入院基本料 1 在宅復帰率 待機期間	16％／年 平均 10 日	18.6％／年 平均 5.4

◎回復期リハビリ病棟科の実績

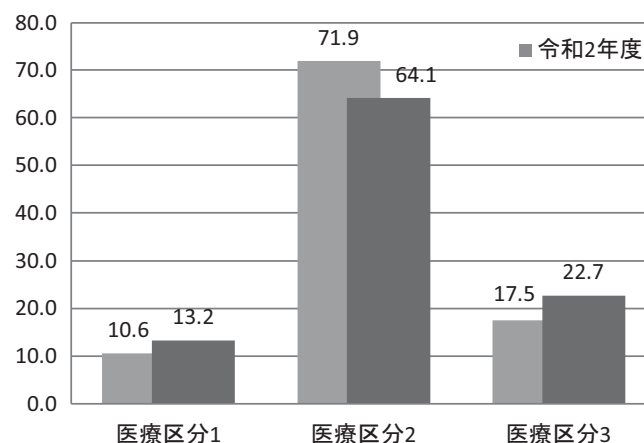
患者数推移



項 目	目 標	実 績
回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の算定 重症患者比率 重症患者回復比率 在宅復帰率 リハビリ実績指数	30％以上 30％以上 80％以上 43 以上	37.8％ 47.8％ 85.2％ 45.78
病床利用率	100.0％	99.5％
摂食機能療法		68.8 回／月
残業時間削減		年間 1217 時間削減
人材育成：摂食嚥下認定看護師 合格・医療安全管理者研修 合格・ケアマネジャー試験 合格		

◎療養病棟科の実績

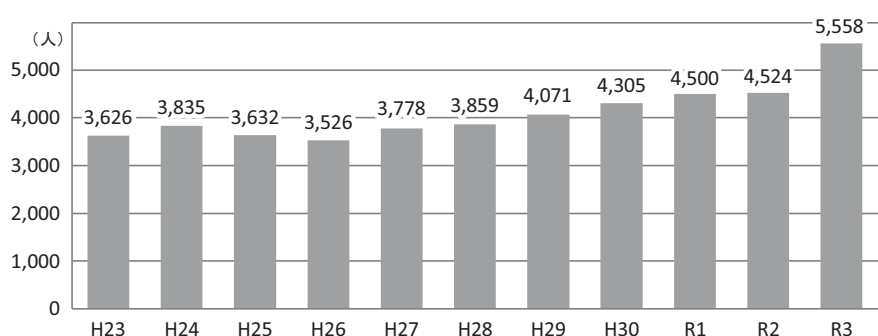
患者数推移



項 目	目 標	実 績
病床利用率	100.0%	98.1%
医療区分 2・3 割合	85	
認知症ケア加算	2,400 件	2,869 件
栄養サポートチーム加算	60 件	59 件
褥瘡対策	600 件	434 件
ケアの質の向上 院外発表 【第 9 回慢性期リハビリテーション学会】 毎月勉強会（看護・看護補助者）を開催 患者・家族の満足度向上（四季に応じたイベント）3 回開催／年 新入職員（看護）配属 1 名、看護学校実習受け入れ 外国人介護技能実習生（2 名）評価試験 N2 講座受講、受験		

◎外来科の実績

患者数推移（月平均）



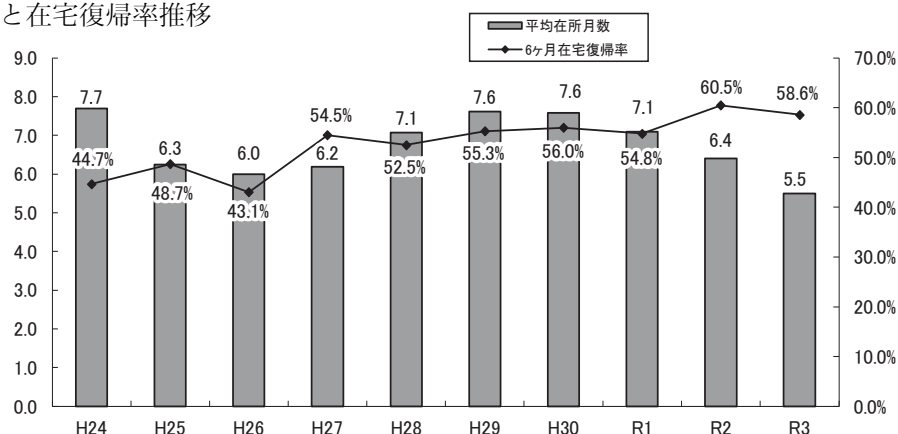
項 目	実 績	達 成 率
外来月平均実人数	4,245 名	124.9%
健康診断センター件数の増加	379 件／月	112.5%
訪問診療件数の増加 泌尿器科訪問診療	116 件／月 5.8 件／月	77.3% 104.5%
呼吸器センター件数の増加	106.8 件／月	106.8%
救急車受入件数	114 件	95%
地域包括診療料 1	24 件	100%
新型コロナウイルス感染予防対策：个人防护具の着脱徹底 発熱検査外来実施 新型コロナワクチン接種実施 新型コロナウイルス感染症メディカルチェック		
安全な医療サービスの提供：インシデント・アクシデント報告書レベル 3 以上 3 件		
働き方改革 超過勤務時間 6.78 時間／月		

◎志村地域医療連携センター

項 目	目 標	実 績
紹介件数	1,920 件	1,739 件
一般病棟 1 日当たりの在院患者数の安定	58 名	57.3 名
緩和ケア紹介患者数の増加	120 件	134 件
入退院支援加算の増加	360 件	464 件
発熱検査外来 受付対応 774 件		

◎老健入所科の実績

平均在所月数と在宅復帰率推移



項 目	目 標	実 績
平均在所人数の安定確保	80 名以上	79 名
超強化型老健の維持 在宅復帰率・在宅療養等指標 短期集中リハビリ	85 点以上 560 件	76 点 549 件
品質目標 ・季節に応じたイベント 6 回開催 ・パンフレット制作 ・在宅復帰支援 看護・介護が平均 23%同行 ・外国人技能実習生の専門級試験に 2 名合格		

◎認知症疾患医療センター実績

項 目	目 標	実 績
総相談件数	1,272 件	1,792 件
相談から外来新患者数	150 件	181 件
医療機関からの紹介件数	66 件	56 件
認知症専門診断管理料 1 算定数	36 件	33 件
医療・専門機関との連携数	240 件	307 件
認知機能検査実施数	300 件	284 件
・MCI 支援事業（脳活性化教室フロイデブレインクラブの開催）・認知症予防カフェ事業 ・日常生活等支援業務の強化・地域の認知症関連事業への職員派遣		

◎画像検査科

項 目	目 標	実 績
一般撮影件数	11,200 件	10,457 件
C T 撮影	2,100 件	1,927 件
M R I 撮影	1,020 件	910 件
MDL（胃部バリウム）	645 件	591 件
夜間・休日オンコール 9 件 対応率 100% Call～到着 38 分		
勤務体制の管理 残業削減 削減率 8.5%（前年度比）		
CT・MRI 共同利用への取り組み 検査依頼 15 件 実績 39 件		
医師負担軽減の取り組み「読影の補助」 問い合わせ 82 件 進言 25 件		

◎ホームヘルパーステーションの実績（おおみや・ごぜんやま）

項 目	目 標	実 績
訪問件数	26,850 件	26,462 件

◎訪問看護ステーションの実績（おおみや・ひたちなか）

項 目	目 標	実 績
訪問件数	8,366 件	9,139 件

◎ケアプランセンターのケアプラン作成実績

項 目	目 標	実 績
おおみや総合ケアプランセンター	3,120 件	3,079 件
やまがた総合ケアプランセンター	1,578 件	1,553 件
フロイデみと総合ケアプランセンター	2,650 件	2,650 件
ひたちなか総合ケアプランセンター	2,065 件	1,987 件

◎地域包括支援センターの介護予防プランの作成実績

項 目	目 標	実 績
常陸大宮市南部包括支援センター	1,110 件	1,341 件
ひたちなか市北部包括支援センター	960 件	886 件

◎在宅介護支援センターおおみやの実績

項 目	目 標	実 績
介護予防把握事業、高齢者見守り安否確認事業	995 件	995 件

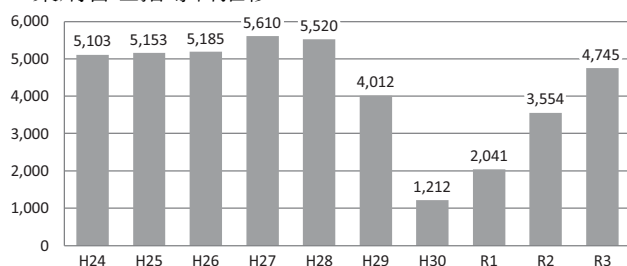
◎コミュニティケアサービス部の利用者数実績

項 目	目 標	実 績
大宮デイケアセンター	23,864 人	23,249 人
志村デイサービスセンター	3,443 人	3,246 人
フロイデ総合在宅サポートセンター緒川	9,582 人	8,772 人
フロイデ総合在宅サポートセンター山方 通所 小多機	10,140 人 6,935 人	9,308 人 6,670 人
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台 通所 小多機	10,383 人 10,220 人	10,254 人 9,921 人
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台 つどいの家	2,817 人	2,493 人
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田 通所 小多機	10,383 人 10,585 人	9,499 人 10,196 人
フロイデ水戸メディカルプラザ 通所 看多機 住宅型有料 訪問介護 訪問看護 診療所 カフェ来店客数 フィットネス登録者数 定期巡回	16,978 人 10,585 人 7,300 人 3,831 人 5,110 人 2,761 人 15,006 人 630 人 7,300 人	16,978 人 10,197 人 7,181 人 3,687 人 5,659 人 3,603 人 19,096 人 376 人 6,072 人

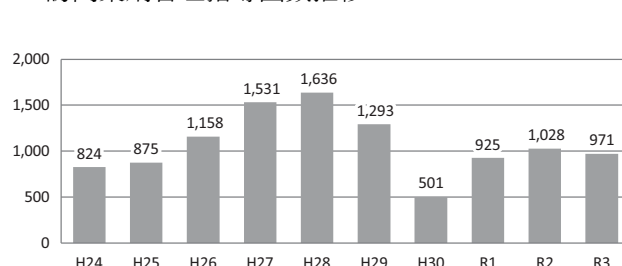
フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなか 通所 認知症デイ 小多機 グループホーム 共用型認知症デイ	21,498 人 3,469 人 10,585 人 6,570 人 1,560 人	20,551 人 3,127 人 10,300 人 6,545 人 1,492 人
フロイデ総合在宅サポートセンター大宮 通所 小多機	10,700 人 10,585 人	10,582 人 10,202 人

◎薬剤科の実績

薬剤管理指導料推移



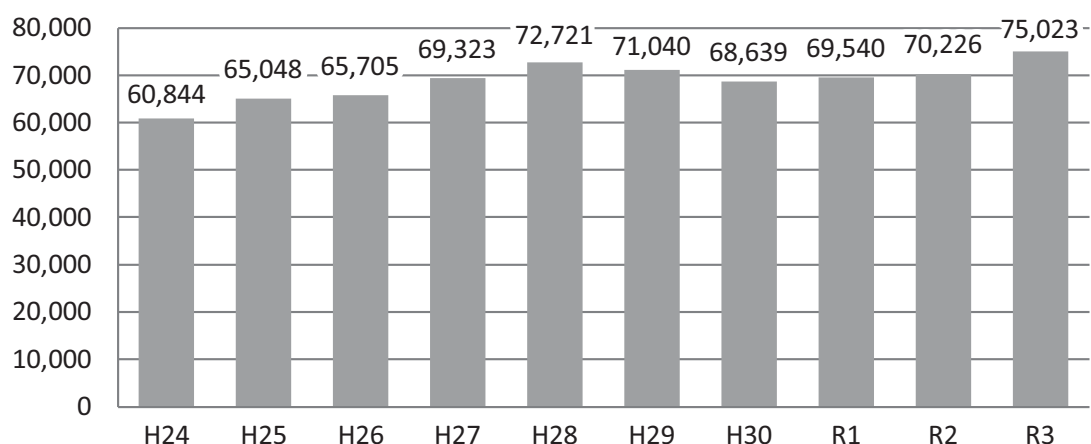
訪問薬剤管理指導回数推移



項 目	目 標	実 績
薬剤管理指導	4,200 件	4,745 件
訪問薬剤管理指導	1,080 件	971 件
院内後発品割合	90%	94.1%

◎栄養科の実績

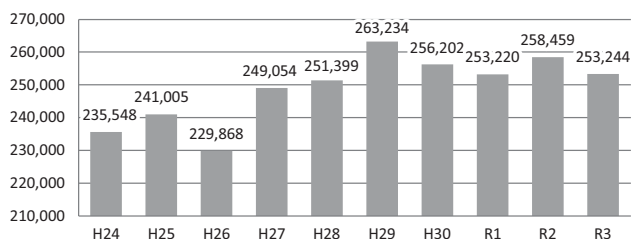
配食件数実績推移



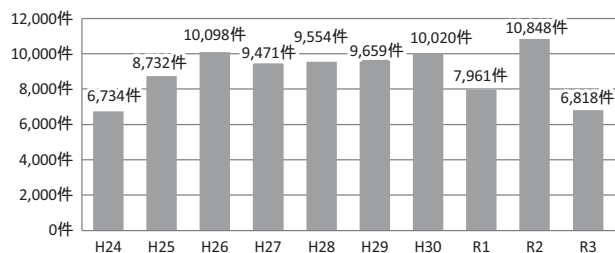
項 目	目 標	実 績
配食件数	106,820 食	111,938 食
居宅栄養管理指導 施設 個人	840 件 120 件	778 件 70 件
栄養指導（個人）	840 件	541 件
食事推進プロジェクト バイキング月 1 回の実施・新メニュー・改善活動 28 品目		
食材・飲料・備品等の見直し、コスト削減 年間 988,388 円削減		
食事支援の充実（選択メニュー、エーデルワイス誕生会、経口摂取移行への取り組みなど）		
おおみや認定栄養ケア・ステーション 介護予防教室、レシピ作成、ヤクルトコラボメニュー企画		

◎リハビリテーション事業部の実績

リハビリ訓練単位推移「年間訓練単位」



訪問リハビリ単位推移



項 目	目 標	実 績
病院におけるリハの提供	259,515 単位	253,244 単位
訪問リハビリ提供数	6,850 件	6,818 件
PT、OT による摂食機能療法	440 件	282 件
ST による摂食機能療法	215 件	303 件
リハ総合計画評価料 1	680 件	679 件
リハ総合計画評価料 2	545 件	542 件
運動量増加器加算	36 件	21 件
専門知識・技能の習得 日本理学療法士協会 登録理学療法士前期研修修了 4 名 後期研修修了 3 名 日本作業療法士協会 基礎研修プログラム修了 1 名 日本言語聴覚士協会 基礎研修プログラム修了 2 名 研究論文投稿 1 稿 臨床実習指導者の育成 PT 3 名、OT 2 名		
学術活動（全国レベル 計 4 演題） 日本在宅医療連合学会大会 リハ・ケア合同研究大会 in 苫小牧 回復期リハ病棟協会研究大会 慢性期リハ学会		
学術活動（県レベル 計 14 演題） 茨城県理学療法士会 医療圏新人症例発表会、茨城県理学療法士学会、茨城県作業療法学会、茨城県総合リハケア学会		
研修会・学会への参加 日本理学療法学会 4 名 日本作業療法学会 2 名 日本言語聴覚学会 1 名 日本心理臨床学会 1 名		
職能要件書に沿った教育プログラムの実施 新人教育プログラム 59 テーマ 新人症例検討会 2 回 職種別教育 各職種 2 テーマ		
呼吸器リハに関する知識・技術の向上を図る勉強会 2 回		
リスク管理能力の向上を図る勉強会 2 回		
リーダー・係長の管理能力向上を図る勉強会 1 回		
老健 G の新人教育体制の強化 教育体制の文書化		

◎人事課の実績

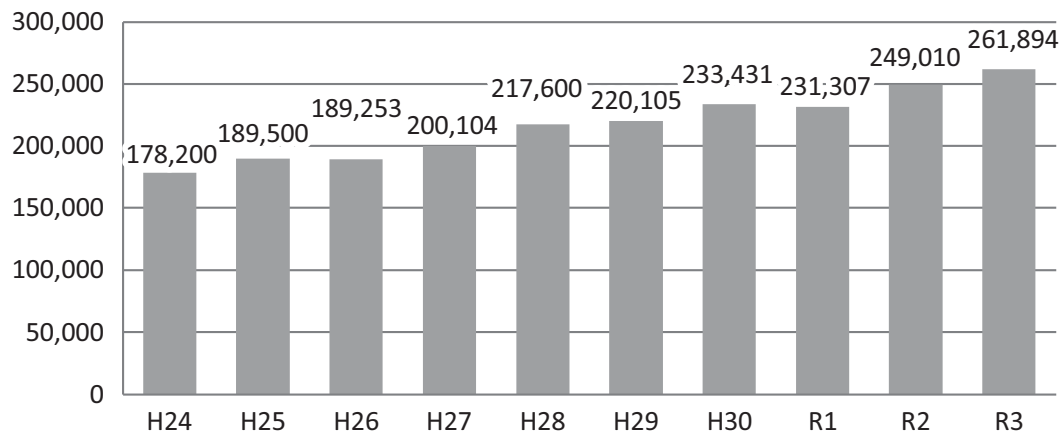
新人事制度の構築：新賃金制度、新人事考課制度、就業規則その他規程の変更
医師の働き方改革に向けて：就業規則制定・運用開始、有給休暇の計画的付与、働き方改革に適応した雇用契約書作成、宿日直許可基準として現状洗い出し
労務管理の質の向上・効率化

◎診療サービス課の実績

DPC の収益維持	DPC 期間内の早期退院調整（入院期間Ⅰ・Ⅱ） 在院日数管理と入院期間Ⅰ・Ⅱ退院管理、効率性係数 1.0 以上の維持
検査・健診センター受診者数増加	特殊健康診断・OP 検査の拡充、各企業業種別の簡易健診の開始 日本総合健診医学会の認定による質の向上
新型コロナウイルス感染症対応	発熱・検査外来の運用 G-MIS：医療機関情報、HER-SYS：感染者報告、ワクチンの運用 ワクチン予約管理、接種実績、補助金及び接種協力金申請

◎営業課の実績

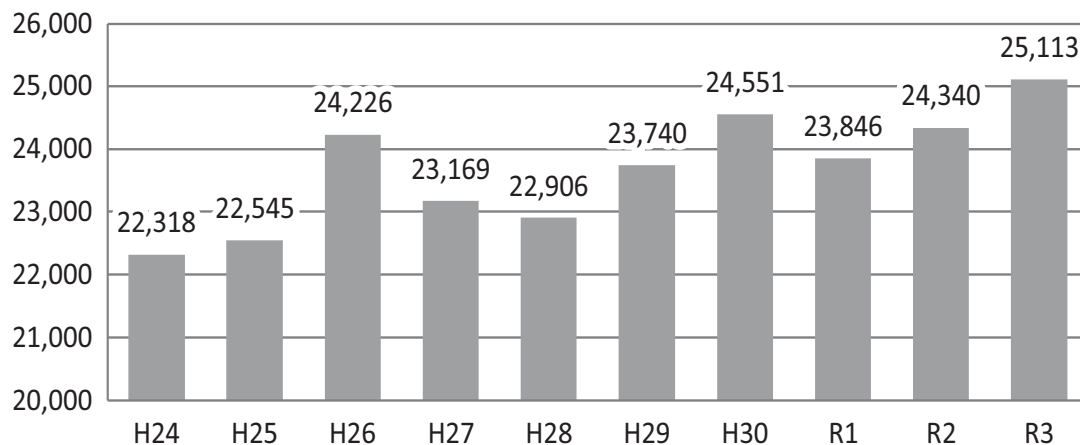
いばらき総合介護サービス収入推移



項 目	目 標	実 績
いばらき総合介護サービス売上高	261,894 千円	258,131 千円
いばらき総合介護サービス収益	12,276 千円	11,095 千円
介護事業部売上高	192,067 千円	189,570 千円
カフェ事業部売上高	23,391 千円	24,256 千円
アパート事業部売上高	7,522 千円	7,575 千円
売店事業部売上高	41,396 千円	39,202 千円
住宅改修件数	72 件	64 件
レンタル利用者数	7,668 人	7,890 人
レンタル新規利用者数	168 人	168 人
各事業のプロモーション活動の徹底 ブランド化委員会の開催 志村フロイデグループ緊急地域支援体制の整備		

◎管理部の実績

年間コスト削減実績



コスト低減の強化 ・目標：25,000 千円／年間 実績：25,113 千円／年間 100.5 5 % ・照明器具の LED 化（スイス館・チロル館）による照明料金 35.2%削減 ・新電力による高圧電力の契約見直しによる電気料金削減 平均 8.5%削減 ・エコドライブによるガソリン消費量の削減・事故の低減による修理費の削減 ・水道料金削減 ・レンタル料金の契約見直しによるコスト削減
情報システムの整備・情報発信 ・基幹システムのセキュリティ対策ソフトバージョンアップ ・プライバシーマーク認証取得 ・Wi-Fi 利用増加に伴う院内 NW 見直し ・広報誌「おげんきですか」年 2 回発行 ・グループウェアサイボアーズの運用強化 ・HP コンテンツの充実 ・電子カルテ、介護システムリプレースに向けたシステムの選定
施設整備推進 ・外来化学療法室の整備と TV 放送受信サービス ・ドイツ館・スイス館エアコン設備修理 ・ディープフリーザー設置用専用電源工事 ・車両の入れ替え実施
院内保育所「フロイデキンダーガルテン」 ・病児保育の登録者増、利用者増 ・子ども子育て支援事業費補助金申請 ・保育士の確保
介護職員初任者研修・実務者研修講座開催
保健所立入検査（書面審査）、申請届出

◎経理部の実績

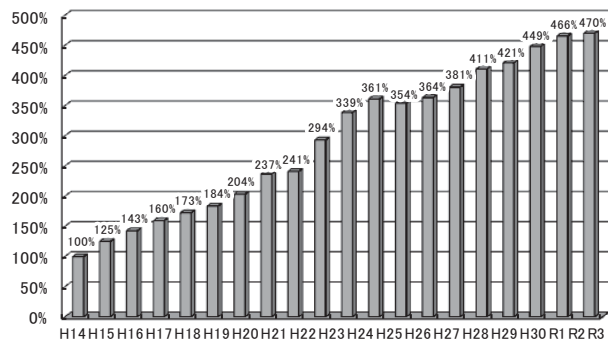
管理会計を法人全体に浸透させ、利益率向上により経営の安定化を進めていく
短期借入金返済等により負債勘定残高を減少させていく
預金残高を注視し、資金繰状況を管理していく

◎法人サポート部の実績

新規事業開設の支援 ・アシストハウスひたちなか着工前申請（事前協議書等） ・フロイデ看護小規模多機能ホーム水戸堀町（転換） ・フロイデひたちなかホームヘルパーステーション（新規開設） ・訪問リハビリステーション（大宮フロイデハイム 新規開設）
日本地域包括ケア学会 第 3 回大会 ・参加者：1,053 名 オンライン＋アーカイブ配信
日本在宅療養支援病院連絡協議会設立支援 ・一般社団法人設立・登記
病院を中心としたまちづくりの推進 ・茨城北西まちづくり研究会 2 回 藤山浩氏・小杉栄次郎氏 ・高知県梼原町視察
病院団体の運営支援 ・茨城県医療法人協会勉強会 経営勉強会年 3 回 運営勉強会年 2 回
全世代全対象型地域包括ケアに向けた活動 ・生活困窮者 就労準備支援申請 15 事業所

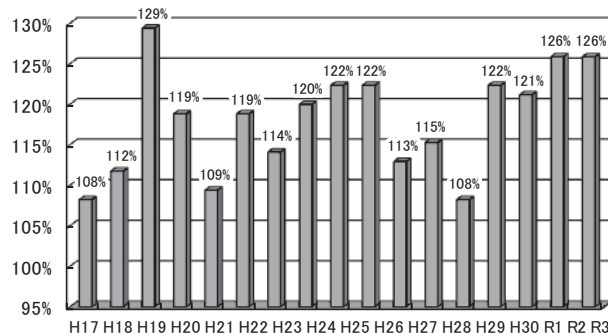
6. 事業実績（博友会）

◎全体実績



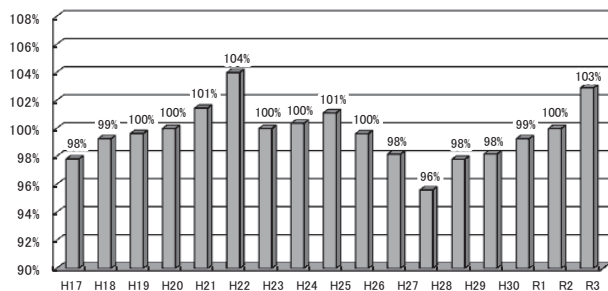
◎御前山デイサービスセンターの実績

御前山デイサービスセンターの収入推移



◎御前山フロイデガルテンの実績

御前山フロイデガルテンの収入推移



利用率（60床） 目標：21,900件
実績：21,817件 / 年
達成率：99.6%

家族面談 医師を交えた家族面談 8回 / 年
終末期ケアの充実 看取り介護意向・希望者 14名
(医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の把握を実施)

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

サービス提供件数 目標：10,657件
実績：10,779件
達成率：101.1%

年間新規者数 目標：47名
実績：32名
達成率：68.1%

個別機能訓練加算Ⅰ 目標：6,379件
実績：6,259件
達成率：98.1%

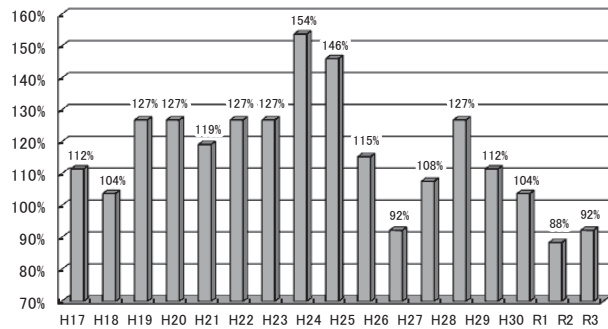
個別機能訓練加算Ⅱ 目標：960件
実績：937件
達成率：97.6%

科学的介護推進体制加算 目標：1,308件
実績：1,319件
達成率：100.8%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎ごぜんやまホームヘルプステーションの実績

ごぜんやまホームヘルプステーションの収入推移

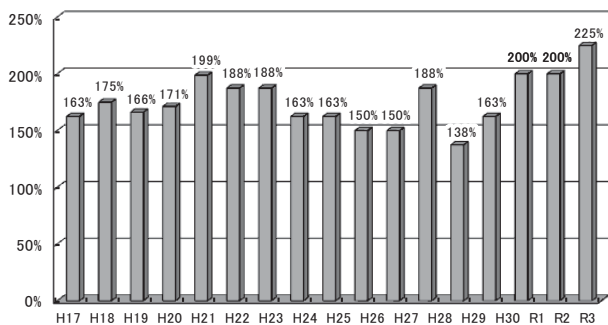


サービス提供件数 目 標：6,500 件
 実 績：7,074 件
 達成率：108.8%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎ごぜんやま訪問入浴サービスセンターの実績

ごぜんやま訪問入浴サービスセンターの収入推移



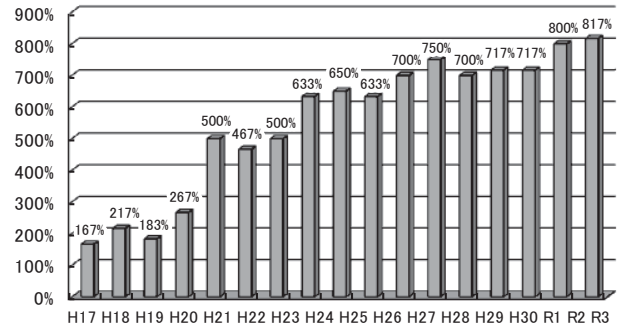
サービス提供件数 目 標：1,200 件
 実 績：1,299 件
 達成率：108.3%

新規利用者獲得 目 標：48 件
 実 績：50 件
 達成率：104.2%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎ごぜんやま総合ケアプランセンターの実績

ごぜんやま総合ケアプランセンターの収入推移



ケアプラン作成件数 目 標：3,607 件
 実 績：3,354 件
 達成率：93.0%

入院時情報連絡加算 目 標：72 件
 実績：58 件
 達成率：80.6%

退院・退所加算 目 標：36 件
 実 績：11 件
 達成率：30.6%

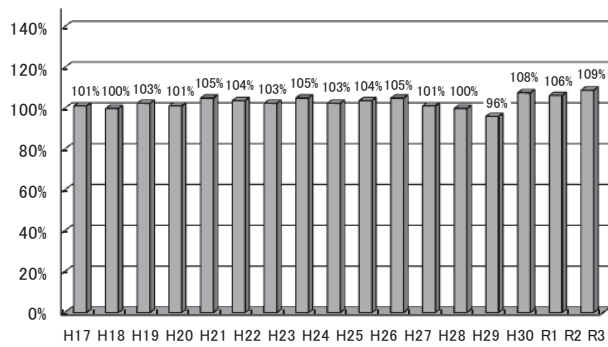
特定事業所加算 目 標：3,263 件
 実 績：3,008 件
 達成率：92.2%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

関係機関との連携 常陸大宮市・城里町・那須烏山市にてケアマネ連絡会の参加

◎フロイデグループホーム桂の実績

フロイデグループホーム桂の収入推移



利用率（18床）
目 標：6,570 件
実 績：6,318 件
達成率：96.2%

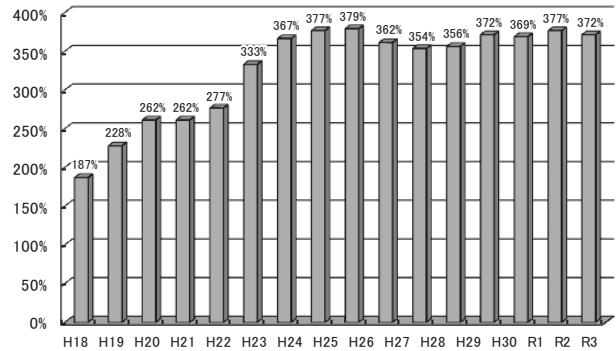
顧客満足度の向上 アンケート調査実施

地域密着を考えた施設運営 地域向け認知症サポ
ート講座 4回/年

家族面談 18名意向確認
(医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の
把握を実施)

◎フロイデ総合在宅サポートセンター美和の実績

フロイデ総合在宅サポートセンター美和の収入推移



サービス提供件数
認知症対応型共同生活介護
目 標：3,285 件
実 績：3,218 件
達成率：98.0%

通所介護 目 標：10,383 件
実 績：10,212 件
達成率：98.4%

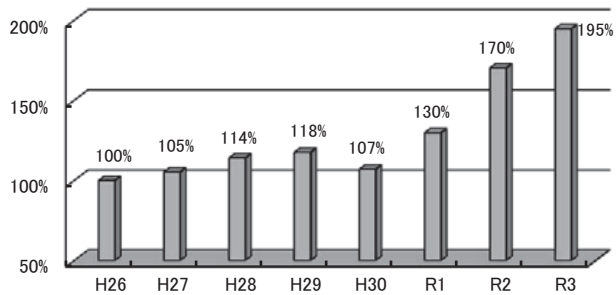
個別機能訓練加算Ⅰ 目 標：6,200 件
実 績：5,620 件
達成率：90.6%

個別機能訓練加算Ⅱ 目 標：930 件
実 績：868 件
達成率：93.3%

地域密着を考えた施設運営
地域住民参加型消防訓練の
実施
(地域イベント等参加・事業所 PR)
地域向け認知症サポート講
座 9回/年

顧客満足度調査 接遇アンケート実施

◎フロイデ総合在宅サポートセンター城里の実績
フロイデ総合在宅サポートセンター城里の収入推移



サービス提供件数

通所介護
目 標：10,383 件
実 績：9,038 件
達成率：87.0%

個別機能訓練加算Ⅰ
目 標：8,306 件
実 績：6,460 件
達成率：77.8%

個別機能訓練加算Ⅱ
目 標：876 件
実 績：768 件
達成率：87.7%

科学的介護推進加算
目 標：1,620 件
実 績：1,460 件
達成率：90.1%

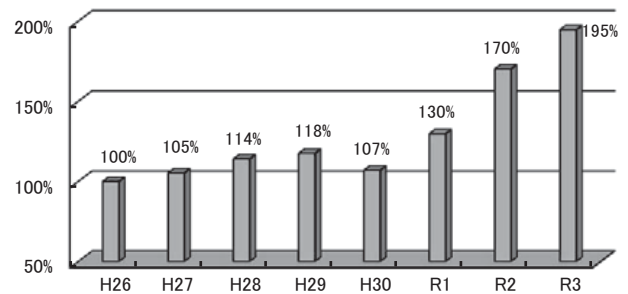
小規模
目 標：10,585 件
実 績：10,221 件
達成率：96.6%

配食
目 標：4,020 件
実 績：4,206 件
達成率：107.8%

地域密着推進活動
地域向け認知症サポート講座 3 回 / 年

顧客満足度の向上
アンケート調査実施

◎障害者支援（フロイデ工房・フロイデ工房なか・ロッティなか）の実績
障害者支援収入推移



サービス提供件数

就労支援（城里）
目 標：5,057 件
実 績：5,865 件
達成率：116.0%

就労支援（那珂）
目 標：2,581 件
実 績：2,817 件
達成率：109.1%

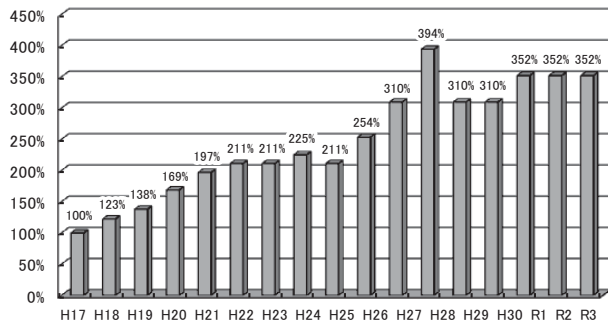
児童発達支援
目 標：2,095 件
実 績：2,243 件
達成率：107.1%

顧客満足度調査
接遇アンケート実施

就労支援実
績面接会参加 4 名うち
2 名就職

◎栄養サービスグループの実績

栄養サービスグループの収入推移



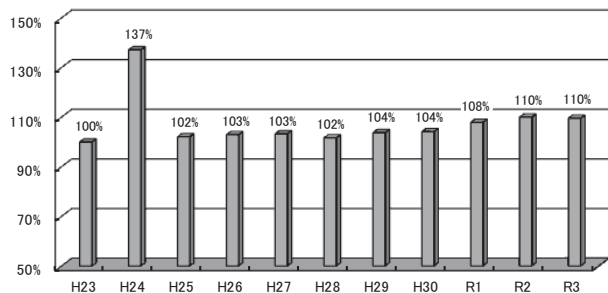
配食提供 目 標：33,210 食／年
実 績：32,709 食／年
達成率：98.5%

食事改善プロジェクト 嗜好調査の実施
配食サービスアンケート
お楽しみ献立の実施

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎大宮フロイデドルフの実績

大宮フロイデドルフの収入推移



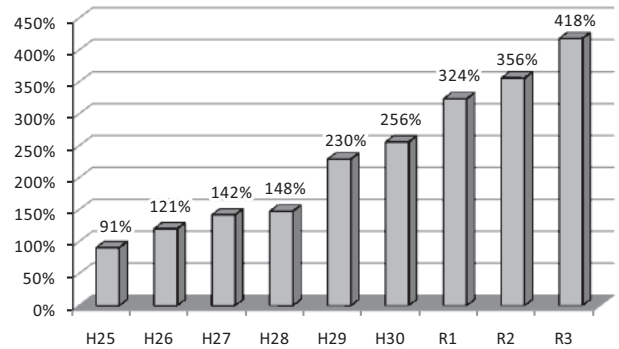
利用率（49 床） 目 標：17,885 件
実 績：17,599 件
達成率：98.4%

家族面談 電話など家族面談・意向確認
終末期ケアの充実 看取り介護意向・希望者 4 名
(医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の把握を実施)

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎フロイデ総合在宅サポートセンター友部

フロイデ総合在宅サポートセンター友部の収入推移



サービス提供件数
通所介護 目 標：10,383 件
実 績：10,744 件
達成率：103.5%

看護小規模 目 標：10,585 件
実 績：10,078 件
達成率：95.2%

訪問看護 目 標：5,110 件
実 績：5,601 件
達成率：109.6%

定期巡回 目 標：3,827 件
実 績：1,596 件
達成率：41.7%

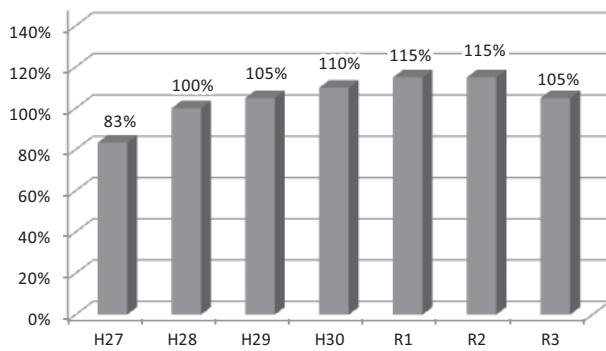
高齢住宅 目 標：7,300 件
実 績：7,295 件
達成率：99.9%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

医療・介護連携 地域ケア会議オンライン参加
地域連携パスオンライン

◎フロイデアシストハウス大宮の実績

フロイデアシストハウス大宮の収入推移



サービス提供件数 目 標：8,030 件
 実 績：7,024 件
 達成率：87.5%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎事務サービスグループの実績

未収金の確実な回収

3 月末回収率 目 標：0 % 0 名
 実 績：1.13% 2 名 (7 件)

スタッフ問題意識向上

目 標：業務改善年間 50 件以
 上
 手引書等の作成年間
 60 件以上
 実 績：業務改善年間 17 件報
 告
 手引書等の作成年間
 17 件報告

職員満足の向上 目 標：担当業務部門内勉強会
 9 件以上

実 績：担当業務部門内勉強会
 9 件実施

働きやすい職場環境作り

離職率 8.13%

働き方改革対応

働き方改革関連法遵守就業規則
 等整備
 人事考課制度の再構築

7. 部門別実績報告 博仁会 看護局

看護局長 高宮 一枝

新型コロナウイルスも2年目となり、様々な新情報に右往左往しながらも、その時々判断と対応スキルが重要であると再認識した1年でした。

今年度の看護部門方針は、

- ・SFG、地域に貢献する看護部をめざす ～経営と看護管理の融合～
- ・教育体制の整備 ～看護管理者、看護職員のキャリアラダー導入による看護の質管理～
- ・看護ローテーションシステムの再構築としました。

財務の視点においては、「安定した経営と看護管理の融合」とし経営に参画できるよう努力してまいりました。

1. 病床稼働率100%を目指すところ、全病棟合算において98%という結果でした。
2. 入退院支援室の活躍としては、地域連携センターにおいて急性期病院・クリニック訪問を行い各部門の実績報告を行い、患者様の紹介をいただきました。週1回、サポート部、リハビリ事業部、連携センター、看護部の管理者が参加し、問題点を見だし調整のための病床調整会議も功を奏したものと考えます。
3. サポートチームの活躍に関しては、摂食嚥下、認知症、排尿自立・ケア、緩和ケア等それぞれのチームがラウンドを行いアセスメントを十分に行い良質なケアを心がけ、加算に結び付けることができました。
4. 部門を越えた協力体制の構築については、新型コロナ等の罹患・濃厚接触者となり欠員が発生した部門に、看護応援体制を構築し部門を越えた関わりと協力ができました。

顧客の視点としては、各サポートチームが「看護ケアの質管理」に力を入れ、患者様のニーズに沿ったケアの提供ができました。

業務プロセスの視点では、

1. メディカルショートステイの推進として、医療依存度の高い患者様のレスパイト入院は1件のみでした。在宅部門への働きかけが不足であったと考えます。
2. 仕事と子育て両立支援センターは、4月17日に相談窓口を開設し、両立中の5人のママ達为中心となり「working papa・mama」チームを立ち上げました。子育て中の職員の声を拾うアンケート調査を行い院内メールのホルダを用い公開する事で、法人に働きかけることができました。これからまた新しい活躍が始まります。
3. 新型コロナ対策の推進は、病院・施設ラウンドを行い注意喚起を促し、職員の意識改革に繋がった事と思います。
4. ローテーションシステムの再考では、卒後5カ年計画の見直しを行いました。地域包括ケアシステムの推進として、5名の看護師が在宅・施設系部門に出向し活躍しました。

学習と成長の視点として、

1. キャリアラダー・看護管理マネジメントラダー導入については、評価表の作成はできたものの未導入となりました。次年度の導入を目指します。
2. 資格取得の推進・支援として、摂食嚥下障害認定看護師1名合格。
3. 地域看護師の育成として、訪問看護・看護小規模多機能施設出向5名。
4. 看護局の活動として、「グループ全体の看護師教育の推進」として「看護の倫理綱領」の勉強会を行いました。

新型コロナウイルスが社会、医療・福祉にもたらす影響は未だ計り知れない状況です。私達は、健康と生活を守る砦となれるよう、引き続き努力してまいります。

7. 部門別実績報告 博仁会

一般病棟科

科長 小林 雅美



医師・看護師・薬剤師・リハビリ・栄養士・MSWによる多職種カンファレンス



病棟スタッフ

【目標】

- ①医療安全・感染対策・褥瘡予防等への職員意識を向上させ、安全で安心なケアサービスを提供する
- ②施設・在宅サービスとの連携、入退院の調整、支援に努め、地域包括ケアシステムの中での病院の役割を果たす。
- ③研修等での知識の習得、振り返りにより、ケアの質の向上を図る。

【取り組みと実績】

ケアの質向上においては医療安全や感染対策、褥瘡対策等の各委員会や栄養、認知症、排尿自立等の各サポートチームの活動と、それらに関する職員教育の取り組みを継続しました。忙しい業務の中、誰もがそれぞれの委員としての役割を果たしています。認知症ケア加算1を取得しており、増加傾向にある認知症患者様に対してより良いケアができるよう対応しております。私達は入院されると同時に退院に向けてのプラン作成やアドバンスケアプランニングについての説明をさせていただいており、地域包括ケアシステムの中でシームレスなケアを提供することに努めました。一般病棟は地域包括病床を8床から12床に増床し地域で求められる在宅医療を支える体制作りに励んでいます。入院時には施設や在宅スタッフから情報を取得し、在宅に戻るにおいてはケアマネージャーをはじめ訪問看護や訪問介護、デイサービス等の在宅サービスのスタッフと連携を図り、状態に合わせて退院後のサービスを検討しています。

また、呼吸器内科の専門医が常勤勤務しており、呼吸器疾患センターを病棟内に併設しています。呼吸器疾患（肺炎や慢性閉塞性肺疾患、肺がんなど）の患者様に対し質の高い医療の提供をしています。

また、脳血管疾患（脳梗塞や脳出血など）や整形外科（骨折などの手術後）など急性期病院からのリハビリ目的の患者様の受け入れを行い、回復期リハビリ病棟へと繋げています。皮膚科の常勤医、非常勤医がおり皮膚科疾患（带状疱疹、褥瘡など）の入院も受け入れています。

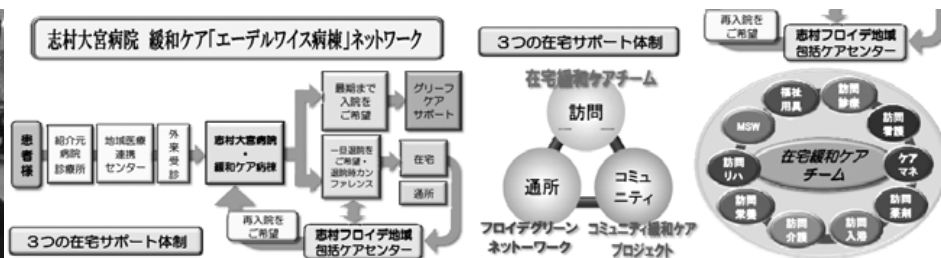
どのような状況でも地域の患者様のために病棟職員はケアの提供を惜しみません。令和3年度は月平均で平均在院日数18.3日、看護必要度33.5%、年間での病床利用率98%でした。アンケートでは多くのご協力をいただき、様々なご意見と励ましや温かい言葉を多くいただきました。ご意見は真摯に受けとめ改善対応させていただきました。

今後も、地域住民の方々が安心して暮らしていただくための地域包括システムの構築に貢献できるよう、安心して安全なケアを提供してまいります。

7. 部門別実績報告 博仁会

緩和ケア病棟科

科長 加藤 令子



【概要・特徴】

緩和ケアエーデルワイス病棟は「がんとの闘いを終えた患者様が住み慣れた自宅近くで穏やかに過ごせる病棟」として設立され6年が経過しました。入院されている患者様とご家族様の思いを大切にしながら援助を提供させて頂いています。また、時代が流れ、在宅医療が充実された今、緩和ケア分野においても在宅復帰に焦点が当てられ自宅療養へ移行する方も増えてきました。緩和ケアエーデルワイス病棟に入院された方の約6人に1人は「エーデルワイスネットワーク」を活用し自宅退院されています。今後も、病院・自宅、分け隔てなく「その人らしさ」を尊重し、自宅を選択された方でも、お困りごとの際には迅速な対応を心がけます。そして、自宅は少し離れた病室で電話がナースコールと捉えて安心して療養して頂けるように誠意をもって支援させて頂きます。

【令和3年度目標】

- ① 患者様とご家族様の架け橋となり彩りある入院生活を提供します
- ② CPを充実させQOL向上できる支援をします
- ③ 病棟内教育システムを確立させ専門性を高めます

目標①：感染対策のため面会時間・人数を制限せざる得ない状況下、ご家族様に安心して頂くために日記をつけるようにしました。日記には、レクリエーションや季節のイベント、誕生日会等の写真や患者様の入院生活の中でささやかな事を記載し、ご家族様に高評価を得ています。

(面会制限に伴う取り組み)

・日記ファイル

日々の生活・院内ディ・各種イベント・クックレク等の写真を使用しながら、患者様と看護師が日記をつけ、ご家族様来院時に見て頂く。

・ご家族様からのメッセージカード

ご家族様から患者様へメッセージを書いて頂く。

・ビデオレター

ご希望がある方に対し撮影。

・ナースカー外出

ナースカーを使用し自宅等に外出。

・結婚式

結婚式場の方と連携を図り十分な感染対策をした上で実施。

目標②：医師と担当看護師が患者様(又はご家族様)のお話を伺い「その人らしさ」を大切にするために出来る事を考えて支援します。「お亡くなりになる前、1カ月に受けられた医療は満足したか？」(日本ホスピス緩和ケア協会：インターネット遺族調査)に対し94.9%の方が満足とご回答頂いています。

目標③：新人看護職員を迎え入れ2年目になります。昨年度作成したマニュアルを変更したものを基に新人看護職員のペースを考慮しながら、看護の喜びを感じられる指導を心がけました。結果、新人看護職員離職率0%でした。

【実績】

緩和ケア入院基本料1	
待機期間	5.5日
在宅復帰	18.6%

平均在院日数	51.0日
平均稼働率	80.9%

今後も患者様・ご家族様の思いに寄り添い、地域に根ざした緩和ケア病棟として一心精進してまいります。

7. 部門別実績報告 博仁会

外来科

科長 小倉 十三子

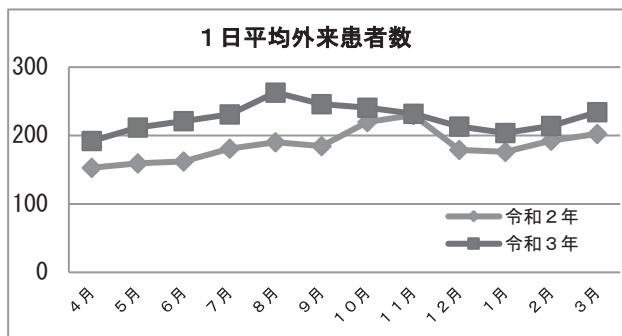
【概要】

地域に根ざした病院の入り口として接遇に力を入れ気配り、目配り、心配りを態度で表現し患者・家族様に寄り添い、声を傾聴するように心がけています。外来科職員は、看護師4名、准看護師8名です。

診療部は常勤医師、非常勤医師と診療科目も非常に多く、また、専門外来として、がん外来化学療法、睡眠時無呼吸症候群外来、頭痛・しびれ外来、心療内科、血液内科外来、緩和ケア外来、発熱・検査外来等があります。

【目標・実績】

1. 外来患者延べ数 120.2%
2. 外来実人数 9.124.9%
3. 外来患者単価増収 95.5%
4. 健康診断センター件数の増加 112.5%
5. 訪問診療件数 77.3%
6. 泌尿器科訪問診療 104.5%
7. 外来科呼吸器内科患者数 106.8%
8. 救急車受け入れ件数 95%
9. 地域包括診療料1 100%
10. 新型コロナワクチン接種
3月から実施 9874名/年
11. 新型コロナウイルス感染症
メディカルチェック実施
12. がん外来化学療法1名定期治療実施
13. 発熱・検査外来継続



【トピックス】

新型コロナワクチン接種を2月に医師会と行政の説明を受け、外来接種実施にあたり、患者受付、診察、接種の方法、場所、動線を医師と診療サービス課、外来科と検討しました。マニュアル作成、場所の確認、動線、待機場所を設定し、3月から医療従事者から接種開始となりました。

また、新型コロナウイルス感染症メディカル

チェックを保健所から依頼があり8月から検討しマニュアルを作成、職員の動線を医師と確認、メディカルチェックの準備が整い、保健所からの受け入れをおこないました。

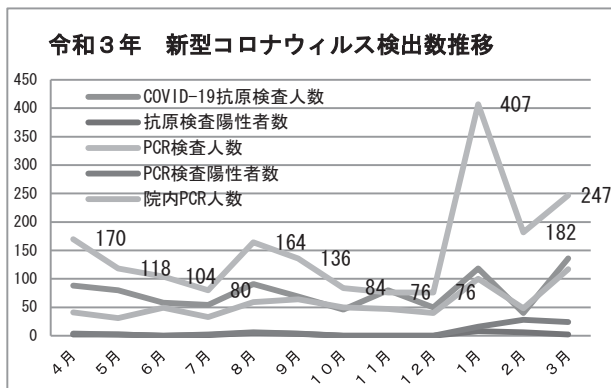
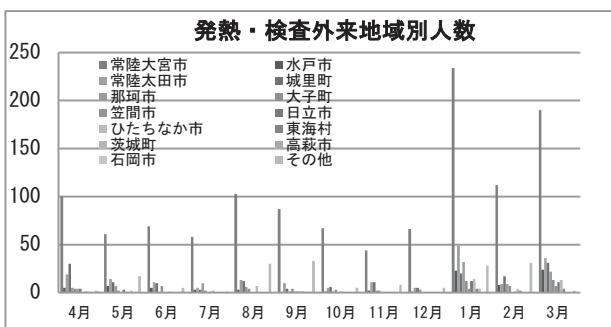


鈴木院長が最初に接種を受ける様子



徹底した感染対策

がん外来化学療法は、呼吸器センター医師のデモンストレーションをおこない、外来看護師2名の研修を重ね、化学療法マニュアル作成、外来科の設備工事をおこない1月から受け入れを可能にしました。1名の化学療法治療を実施しております。



化学療法について説明する様子

7. 部門別実績報告 博仁会

回復期リハビリテーション病棟科

科長 井上 美紀



病棟スタッフ



2Fステーションでの業務



患者様とのふれあいの様子



感染対策をして面会

【令和3年度 回復期リハビリテーション病棟（以下回りハ病棟）部門目標】

1. 良質で効果的かつ実績あるリハビリ看護・介護ケアの提供～選ばれる回復期リハビリ病棟として～
2. リハビリ科等との協働による患者様一人一人のADLの拡大～「できるADL」と「しているADL」の格差の縮小～
3. 回りハ病棟ワンチームかの実現と適正人員配置によるサービスの質向上と時間外労働の継続的削減

【活動実績】

1. 良質で効果的かつ実績あるリハビリ看護・介護ケアの提供～選ばれる回復期リハビリ病棟として～
コロナ禍でご家族の面会制限が続きましたが、流行の終息時にはディルूमにスクリーンを設置し面会を行いました。感染予防に留意しながら患者様ご家族の気持ちに寄り添うよう努めています。

50床という病床数の年間平均利用率は99.5%でした。当病棟を信頼し、選んでいただいた患者様ご家族様、ご紹介いただいた急性期病院の諸先生方に感謝いたします。

また、「回復期リハビリテーション入院料1」の算定要件につきましても安定した実績を残すことができました。

2. リハビリ科等との協働による患者様一人一人のADL拡大～「できるADL」と「しているADL」の格差の縮小～

療法士と行っている「できるADL」を生活レベルで安全に「しているADL」にするためには練習が必要です。今年度も患者様が自主的に病棟スタッフと繰り返し練習を行う（SSP）ことで「しているADL」向上に取り組み、実績指数にも貢献しました。

3. 回りハ病棟ワンチーム化の実現と適正人員配置によるサービスの質向上と時間外労働の継続的削減

回りハ病棟は2フロアとなっており固定チームナーシングでした。昨年度よりどちらの階でも安心して勤務できる環境作りをしてきました。ところがコロナ感染予防のため各階の異動を最小限にすることになり実現には至りませんでした。そこで今年度も係長・主任を中心に継続的に業務の見直しを行い、病棟スタッフの年間時間外労働時間削減目標 972 時間を大きく上回り 1217 時間の削減となりました。

質の高いサービスを提供し続けるには職員教育は必須です。今年度は、日本看護協会摂食嚥下認定看護師 1 名、看護補助者 1 名がケアマネジャー資格を取得しました。今後も学びを支援していきます。

次年度もコロナ禍であっても安全に細心の注意をはらい、患者様ご家族様の思いに寄り添い、選ばれる病院として研鑽を積んでまいります。

「回復期リハビリテーション入院料1」算定要件と令和3年度実績

	算定要件	実績	達成率
重症患者比率	30%以上	37.8%	126.1%
重症患者回復比率	30%以上	47.8%	159.2%
在宅復帰率	70%以上	85.2%	121.7%
リハビリ実績指数	40 以上	45.78	114.6

7. 部門別実績報告 博仁会

療養病棟科

科長 加藤 紀和子



科長と技能実習生



spo2 管理モニター

【目標】

令和3年度 部門目標は

1. 患者層の変化に柔軟に対応した、安全で質の高い看護の提供をする
2. 多職種と連携し、生活の視点に沿った退院支援と医療療養病棟としての役割を果たす
3. 専門職として、一人一人が学習課題と役割を担うための、看護・介護技術を習得する

【実績】

療養病棟では、入院基本料1を維持するため、医療区分Ⅱ、Ⅲの割合85%の目標に対し月平均86.8%と達成維持することができました。

重症度が高い患者様を安全に受け入れることが大きな年間目標でありましたが、夏のデルタ株を乗り越えた後より冬のオミクロン株の感染力に悩まされ、忘れてはならない1年となりました。1月中旬よりコロナウイルス感染症が蔓延し、病棟内クラスターが発生、患者罹患者31名、うち罹患中他界された方は7名、職員罹患者5名の発生がありました。コロナ禍の死亡退院は想像を絶するもので、心痛むお看取りでした。レッドゾーンである部屋毎にてPPEフル装備装着しケアにあたり、建屋内レッドゾーン管理であったため、みえない敵「コロナウイルス」の恐ろしさを目の当たりにしました。患者・家族、職員の感染管理、健康管理、メンタル面の心配がありました。

法人、多方面からのご助言や励ましのお言葉、実践応援があり、「いつか収束する日がくる」と職員皆が一丸になり対応にあたりました。収束後は14床の空床を約10日間でベッドコントロールし満床としました。

クラスターが収束した後、感染対策における病棟課題がのこったのも事実です。看護、介護とも20：1の基準配置、3フロアであるなか、流れ作業のよ

うな業務がありました。感染対策において振り返り見直す機会となり、業務改善をしました。

療養病棟での医療依存度が高い区分は、中心静脈栄養管理、気管切開・吸引酸素療法などの呼吸管理、褥瘡ケア、難病（ALS、パーキンソン等）の受け入れです。しかし区分内容より、管理の質も求められてきています。

昨年度 spo2 モニターを導入し、循環・呼吸状態の看護師による管理を強化しました。循環・呼吸に関連するリスクの減少、早期判断、対応する指標となり、看護の病気、症状に対する管理向上、さらに区分管理の見直しにつながっていると分析しています。

昨年度、病棟では病院部門で初めて介護技能実習生2名の受け入れを行いました。技能実習指導員(教育)、生活指導員を中心に病棟全体で環境設定をしながらサポートしております。1年経過してみると、日本の生活をはじめ、たどたどしかった日本語も単語から短文、文章、時には茨城弁？まで、受け継がれております。個人のペースもありますが、重症度が高い患者様のケアを通して、実のある研修、ケア習得に繋がっていると評価しています。

病棟内職員教育では、看護師、介護福祉士、技能実習生ともにそれぞれ看護協会主催、茨城県介護福祉士会主催、N2、N1 講座等の研修会、講習会、オンライン研修等に参加し各自がスキルをあげ、専門職としての意識を高めることができました。また、学会発表にオンラインで参加、発表する機会もありました。

医療療養としての役割を再認識し、新たな業務や共通認識できる業務改善に取り組み、急性期からの治療継続、リハビリ、長期療養と幅広いニーズの方が入院される中、常に患者様の立場を考え意思決定支援を行い、医療療養としての機能・役割を担っていきたいと考えます。

7. 部門別実績報告 博仁会

志村地域医療連携センター

センター長 川崎 真弓



連携センタースタッフ



相談の様子

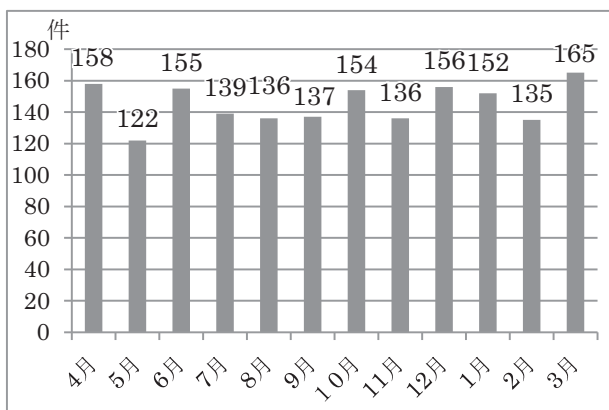
【実績】

1) 活動目標

- ① 法人内連携強化
法人施設を含めたベッドコントロール⇒
情報共有会議の充実・活用
- ② 急性期病院との連携強化
- ③ 各病棟の在院患者数の安定・患者数の確保
コロナ感染症の影響での患者紹介数の減少
をおさえる

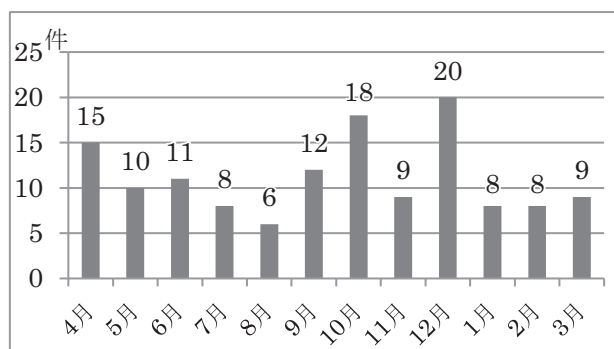
2) 主な業務内容

- ① 病院・診療所からの紹介患者の受け入れ
(入院・外来)
- ② 他病院及び診療所からの患者紹介
- ③ 紹介元病院・診療所への紹介患者報告
- ④ 退院支援・退院調整
- ⑤ 地域医療連携機関、介護・福祉機関への広報活動
- ⑥ 紹介患者様の統計と実績報告
- ⑦ 令和3年度 紹介患者数推移(全体)
総数 1,745件 月平均 145件



緩和ケア病棟紹介患者推移

総数 134件 月平均 11件



法人内連携につきましては、毎朝の情報共有会議において、各病棟、各施設の受け入れ状況の把握ができ、患者様・ご家族様が安心して、納得できる移動調整がスムーズに行えるようになりました。

急性期病院との連携につきましては、対面での情報交換が難しくはなりましたが Zoom などを活用し、連携を行うことができています。

紹介患者数につきましては、令和2年度と比較しますと全体で約2%の減少がありました。しかし、緩和ケア病棟への紹介は約10%の増加がみられています。

緩和ケア病棟においては、コロナ禍においてもできる限りの面会緩和をおこなってまいりましたので、少しでも面会をしたいという家族が当院を希望されました。その影響は大きいと考えられます。

今後も患者様、御家族様との相談業務を充実させ、各病院・施設から信頼される連携センターとなるため努力してまいります。

7. 部門別実績報告 博仁会

リハビリテーション事業部

部長 寺門 貴

1. 令和3年度部門方針

- ・全体最適を考えた部門運営の風土構築
- ・サービス提供継続のためのコミュニケーションの推進
- ・地域リハビリテーションの普及・啓発

2. 活動内容

①組織横断的なリハ専門職の有効活用

病院リハビリ科の目標達成に対する兼務体制を継続し、サイボウズ上で兼務体制に関する情報共有を行った。また、リハビリ事業部運営Mで状況確認を行い全体最適化を図った。

②在宅リハビリテーションにおける資源の理解を深める

重点グループは、老健G、訪問リハビリG、サテライトGであり、介護保険サービスにおける全てのサービスを理解するための教育体制を再考した。また、障害福祉分野でのリハ専門職の活躍の場が広がったことにより、障害福祉サービスにおける全てのサービスの理解も必要になるため、障害者総合支援法の理解やサービス事業の特徴、適応等の理解についても次年度以降の活動計画に活かしていきたい。

③茨城県地域リハビリテーション強化対策事業関連

(1)広域支援センター・地域リハステーション

1) 茨城県県北西部地域リハビリ連絡協議会の開催

令和4年2月21日オンライン開催

参加者35名

2) 茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会

令和3年8月27日第39回定例会

令和3年11月17日第40回定例会

令和4年2月24日第41回定例会

3) 常陸大宮市一般介護予防教室（あつまーれー教室）

担当部署：リハビリテーション事業部、CCS部、栄養科、歯科衛生士

開催地区：8地区 参加者数 99名（男性28名 女性71名）

4) 常陸大宮市前期高齢者向け運動教室（元気アップ教室）

担当部署：リハビリテーション事業部、CCS部
開催数：10回 参加者数13名（男性0名 女性13名）

5) 認知症予防教室（スマイル教室）

担当部署：リハビリテーション事業部、（協力）南部地域包括支援センター

開催数：5回 参加者数11名（男性2名 女性9名）

6) 常陸大宮市認知症初期集中支援チームへ派遣

7) 常陸大宮市保育所等訪問への派遣

市内保育所へ訪問指導 延べ3回 指導児童数：延べ10名

8) 常陸大宮市こどもセンター開設準備

9) 那珂市発達相談センターへ派遣

延べ派遣回数：39回

10) 大子特別支援学校へ派遣

延べ派遣回数：2回

7. 部門別実績報告 博仁会

病院リハビリテーション科

科長 川崎 仁史

【方針】

- ①地域におけるリハビリテーション関連職種の育成に貢献できる教育支援体制の整備に努める
- ②対象者へのリハビリテーション提供機会の損失がないよう、安全管理と感染予防に努める
- ③病期間のシームレスな移行を図り、リハビリテーション全体としてのアウトカムの向上に努める

【事業内容】

1) リハビリテーションの提供について

疾患別リハビリテーションの提供実績は、出来高算定とはならない地域包括ケア病床および緩和ケア病棟での提供を含めると年間で253,244単位であった。出来高算定可能であった個別リハビリテーションにおける疾患別の内訳は表1の通りであった。個別リハビリテーションにおけるPT/OT/ST別の内訳は表2の通りであった。

理学療法および作業療法においては、昨年度に引き続いて摂食機能療法を実施する体制を継続した。また、上肢用ロボット型運動訓練装置(ReoGo-J)、機能的電気刺激装置(ウォークエイド)、ロボットスーツHALといった機器を積極的に取り入れたリハビリテーションを実施した。言語聴覚療法においては、院内の食支援チーム(Eating-Support-Team; EST)へ積極的に関与し、摂食機能療法の対象となる患者を広く抽出するための体制を構築・運用した。

2) 業務内容について

科全体での取組事項として、働き方改革に対応するための業務効率化の一環として、「業務ごとの標準実施時間の設定」「家屋調整案作成業務の見直し」を実施した。また、COVID-19によるリハビリテーション提供機会の損失が生じないよう、職員の出勤可否判断を統一化するための体制を構築し、運用した。これらの他、がん患者リハビリテーション料の施設基準を維持するために研修修了者を新たに4名育成するとともに、言語聴覚士の採用に向けた取組を昨年度に引き続いて継続した。

回復期リハビリテーション病棟においては、昨年度に引き続いて「トイレ動作能力」に着目したADL改善に向けた取組を行い、リハビリテーション実績指数年間平均45という結果を残した。

3) 人材育成について

①認定資格等取得者

日本理学療法士協会新人教育プログラム修了2名
認定理学療法士取得 9名

臨床実習指導者資格取得 5名(PT: 5名,
OT: 0名)

②学術活動

リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫2021
演題発表

第56回日本理学療法学会 1演題発表

第9回慢性期リハビリテーション学会 1演題発表
回復期リハビリテーション病棟協会第39回研究大会
in 東京 1演題発表

茨城県理学療法士会常陸太田・ひたちなか医療
新人症例発表会 3演題発表

第25回茨城県理学療法士学会 2演題発表

第6回北関東信越ブロック学会・第13回茨城県
作業療学会 4演題発表

【次年度に向けて】

令和4年度は診療報酬改定の年となる。病院リハビリテーション科に深く関わる内容として、「回復期リハビリテーション病棟における重症患者割合の増加(4割以上)」「経口摂取再開に向けた支援体制の強化」が必要となるため、これらを達成するための具体的方法を立案し、実行していく必要がある。また、改定においては特段の変更がなかったが、質の向上(アウトカムの向上)は常に求められる重要な要素であるため、リハビリテーション実績指数の更なる向上を目指すための取組も必要になると考えている。これらに加え、業務の効率化を図っていくための基礎となる「業務ごとの標準実施時間の設定」を行うことができたため、これを活用することにより、具体的な成果を挙げられるよう取り組んでいきたい。更に、すべての業務の基盤となる「新人教育体制」について、病院リハビリテーション科だけでなく、リハビリテーション事業部全体としての体制強化を図っていきたい。

7. 部門別実績報告 博仁会

機能訓練センター フリューゲル

管理者 寺門 貴

1. 令和3年度部門方針

- ①安定的な事業継続を可能にするために黒字を維持する
- ②社会リハビリテーションの普及啓発とニーズの発掘
- ③サービスの質向上のために自己研鑽に努める

2. 事業内容

令和2年度の収益について、年間収入は2千3百万円台と目標には達しなかった。しかし、年間を通して広報・営業を強化したことにより、年間での登録者は一月平均24名、延べ284名と前年度を上回ることができた。

年間の新規契約は11件で満期修了者は8名であった。また、一般就労へ1名移行した。1日あたりの平均利用者数13名以上という目標を明確に掲げたことにより、翌月あるいは翌々月に何名の契約が必要か計画的な契約を意識することで、より広報・営業活動の強化につながったと考えられる。年間延べ利用者数は2,218名、月平均184.4名であった。利用者層は脳内出血、脳梗塞の利用者が多い傾向にある。紹介元は障害者相談支援事業所から相談されるケースが多い。今年度は広報強化の効果もあり、新規の障害者相談支援事業所からの相談も多くなった。また、居宅介護支援事業所からの相談も多く、中途障害者が介護保険サービスだけでなく障害福祉サービスを活用しながら自立した生活を目指したり、就労移行を希望するケースが増えている印象がある。

利用者の年齢層は50歳代が一番多く、その次に40歳代、30歳代と続く。活動量が増えてきたことからリスクマネジメントをより強化する必要性がでてきた。利用者が安全に訓練に集中できる環境も重要であり、今年度のインシデント・アクシデント件数は、レベル0：0件、レベル1：1件、レベル2：3件、レベル3a以上は0件であった。インシデントから重大事故を防止するためにレベル0が多く報告できる体制を構築していきたい。また、今年度はレベル3a以上が0件と昨年度の4件から大幅に減少した。年間2回KYT（危険予測トレーニング）

を実施していることもあり、職員の危険予測に対する認識強化が図れたと考える。

業務プロセスの観点から、紹介数を増やすことが重要な取り組みになることから、フリューゲル広報誌 Vol.2 を7月に発行した。相談支援事業所や居宅介護支援事業所を中心に自立訓練（機能訓練）の実際について広く広報を行った。特に今号は介護保険サービスとの比較を重視して、介護保険サービスとの差別化を理解していただける内容とした。

新型コロナ感染拡大防止として、感染症BCPを策定した。事業所内での陽性者は発生しなかったが、職員、利用者共に濃厚接触者になる機会があった。事業所内での感染対策も強化しており、定期的な手洗いチェックや朝・日中の検温、十分な換気など、各自意識を高く持って生活を送っていただけたことが功を奏したと考える。



機能訓練センターフリューゲルの様子

7. 部門別実績報告 博仁会

リハビリテーション事業部 訪問リハビリグループ

係長 佐野 桂太郎

【概要・特徴】

訪問リハビリテーション部門は、住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活を営むため、ご利用者様・ご家族様の想いにより添いリハビリテーションを提供している。また、主に志村大宮病院を拠点とした県北地区と、水戸メディカルプラザを拠点とした県央地区、各訪問看護ステーションからそれぞれの地域へサービスを提供しており、病院退院から切れ目のないリハビリテーションの実施を目指している。

【部門方針】

- ①新規・終了のバランスをとり収支の安定を図る
- ②「リハビリテーションマネジメント」を主体とした多職種連携の充実
- ③生活リハ科の教育体制を充実させ人材育成に努める

【事業内容】

1) 訪問リハビリテーション提供件数について

令和3年度の訪問リハビリテーション提供件数は、訪問看護からのリハビリテーション提供を含め、年間12,386件であった。令和2年度より1,538件増となり、月ごとにおいても大宮地区では1.5名、水戸地区では1.9名登録者増となった。

大宮地区では訪問範囲が広範囲に亘るため、ルートを効率化し1日の訪問件数の安定化を図り件数増となった。水戸地区では、訪問リハ専従ス

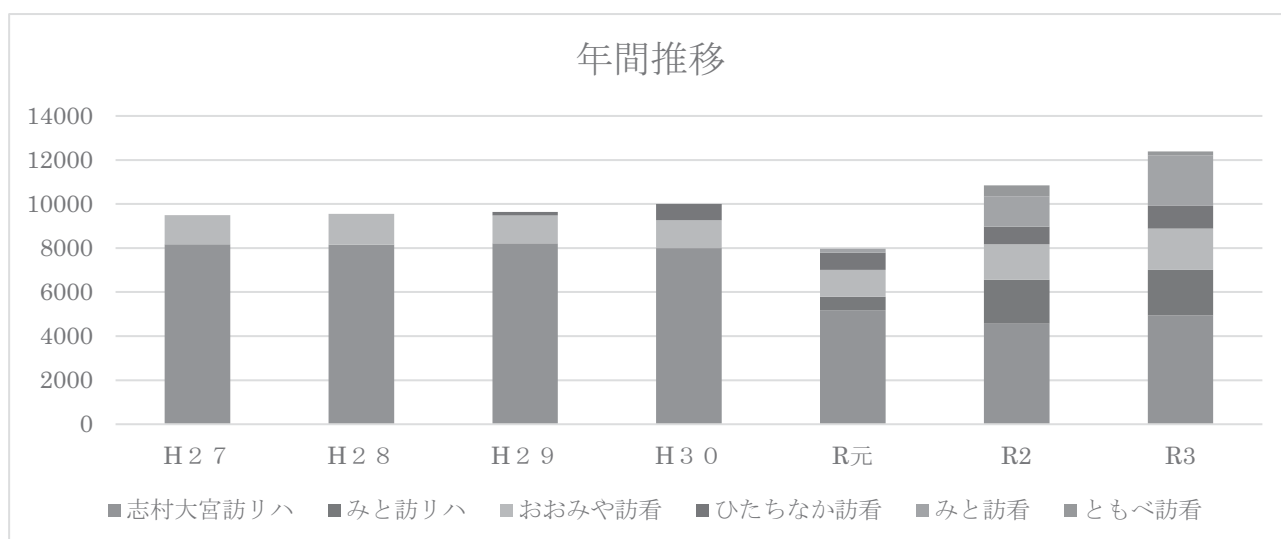
タッフ3名に加えデイケアスタッフは訪問リハと兼務体制をとり、施設内におけるセラピストのモバイル化を実現し訪問件数増となった。

2) リハビリテーションマネジメント加算 B2 算定について

リハビリテーションマネジメント加算 B2 は「リハビリテーションマネジメント」を主体とした多職種連携の充実させるため、①訪問リハ事業所が主体とした「リハビリテーション会議」の実施。②ご利用者様に対し訪問リハ事業所医師によるリハ計画の説明。③ LIFE へのデータ提出が必要となる。

①に関してはコロナ渦において実施方法の検討が必要となり、ケアマネジャーとの最小限の人数で行う、または文書での確認を行うなど工夫をしてきた。②に関しては、訪問リハ計画を立案・説明するための診察が必要となり、大宮地区では大仲先生・月村先生を事業所医とし、外来ご担当の先生方のご協力もあり、年間平均 84 名算定となっている。水戸地区では山本先生をはじめ、ご担当いただいている先生の往診スケジュールを調整しながら、年間平均 26 名算定し、徐々に算定者数は増加している。③に関しては、LIFE の前身となる VISIT よりデータ提出に参加していたため、リハビリテーションマネジメント加算 B2 算定へスムーズに移行することができた。

年間推移



7. 部門別実績報告 博仁会

画像検査科

浅見 公一

【概要】

志村大宮病院画像検査科は、診療放射線技師 4 名、放射線助手 1 名、臨床検査技師 3 名で構成されています。画像検査センター（診療放射線技師）と臨床検査（臨床検査技師）にわかれ、それぞれの国家資格が担う分野を担当しています。

画像検査センターでは一般撮影（レントゲン）、CT 検査、MRI 検査、X 線透視検査が施行され、臨床検査では心電図、骨密度検査、超音波検査、聴力検査、肺機能検査、ABI 等、多岐にわたる検査が施行されています。

【実績】

・画像検査センター

一般撮影	10457 件
CT 検査	1927 件
MRI 検査	910 件
MDL（胃バリウム）	591 件

・臨床検査

心電図	5413 件
聴力検	2712 件
肺機能検査	192 件
超音波検査	133 件
骨密度検査	266 件



【トピックス】

令和 3 年度は COVID-19 の感染対策をより強化した年となりました。まず、8 月には「メディカルチェック」の取り組みが広く浸透し、当院においても感染対策委員会と連携し、関係部署との連携方法の確認、一般患者様との動線の隔離方法の検討、検査後の検査フロアの管理を整理し、受け入れ態勢を整えました。メディカルチェックの主な目的は、XP と CT 所見を点数付けし、その他の要因と合わせて、自宅療養か入院療養かの判断材料とすることが目的の検査です。これに合わせ「COVID-19 陽性

者 CT 撮影（メディカルチェック）フローチャート」を策定しております。

また、年度後半の 1 月からの第 6 波では COVID-19 陽性者検査が増大したため、画像検査科職員が感染した場合の「COVID-19 陽性者発生時対応業務規範」を策定し運用いたしました。

その中で、飛沫を伴う、肺機能検査と VF（嚥下機能検査）は一時受け入れ停止期間もあり実績は減少しましたがその他の検査は増加傾向にあります。特に健康診断に関わる検査は協会けんぽ登録後は特に伸長しております。（表 1）

近年の取り組みとして「CT・MRI 共同利用」も地域の先生にご認識いただき始めており、実績が少しずつ伸びてきております。（表 2）

今後も感染対策を徹底し、実績向上を目指しつつ、関係部署の皆様と協力しながら時勢の潮流に柔軟に対応してまいります。

表 1：MDL（胃バリウム検査）年度別実績

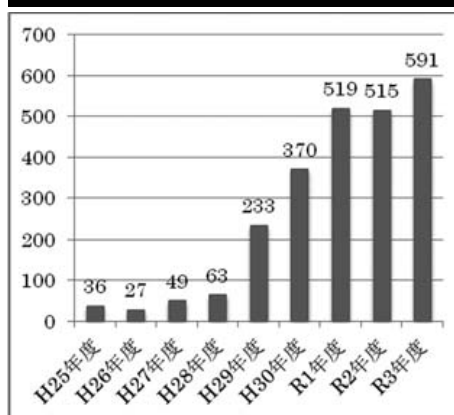
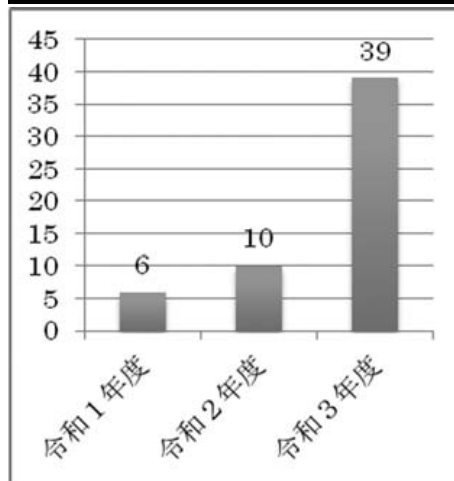


表 2：CT・MRI 共同利用実績



7. 部門別実績報告 博仁会 志村大宮病院認知症疾患医療センター

大和 雄太



MCI 支援：フロイデブレインクラブの様子

認知症予防カフェの様子

【概要】

本部門は、平成 29 年度に当院が茨城県より認知症疾患医療センターの指定を受けるのにあわせ開設された、認知症支援を専門とする部門です。常陸太田・ひたちなか医療圏における認知症診療の拠点の 1 つとしての役割を果たすとともに、新型コロナウイルスによる活動自粛が進む中でも、感染対策を講じながらこれまで同様、地域における認知症啓発や認知症予防における取組みを行ってきました。

【業務内容】

- ・専門医療相談
- ・鑑別診断・治療
- ・行動・心理症状（BPSD）・身体合併症への対応
- ・研修会の開催・情報発信

【令和 3 年度部門方針】

- ①認知症診療体制・支援体制の強化
- ②認知症予防事業の強化
- ③新型コロナウイルス蔓延下における認知症地域支援の維持

【令和 3 年度実績】

年間受診相談件数 1792 件
年間新規受診患者数 181 名

【本年度の取り組み】

- ・『診断後等の認知症の人や家族に対する相談支援』への対応

新たに認知症疾患医療センターの取り組みとして位置づけられた「診断後等の認知症の人や家族に対する相談支援」への対応を開始しました。受診の結果、認知症の診断が出た方が、介護保険サービスの利用開始に至るまでの間、定期通院中の患者様やそのご家族に適宜お声がけをし、心理的な支援や疾患

や治療に関する説明、患者様への接し方などに関するアドバイス等を行っております。

- ・軽度認知障害 (MCI) の方を対象にした支援事業の開始

昨年度より準備を進めていた、MCI と診断された方の認知機能の維持や活性化を目的とした通いの場「脳活性化教室フロイデブレインクラブ」の本格的な運営を開始しました。本事業は同法人のフロイデハイムデイケアとの共催となっており、利用者の方へリハビリテーション専門職監修のプログラムを提供することが可能となっています。それに加え、認知症疾患医療センターによる医療的なサポートや相談対応も適宜受けることが可能です。これまで MCI の診断を受けた方の多くについて、経過観察とするか患者様自身の認知症予防活動に任せるしかなかった状況に対し、本事業はそこに新たな選択肢を提供するという社会的な意義も持っています。

- ・新型コロナウイルス蔓延化での地域活動の継続

本部門は、地域の高齢者サロンや認知症カフェが新型コロナウイルスの影響で活動自粛となることにより、地域高齢者の認知機能低下が進むことを懸念していました。そのため昨年度に引き続き本部門では、これまで行ってきた地域への取り組みである「認知症予防カフェ」について、事前予約制への変更や感染拡大状況にあわせた参加人数の制限など、一層感染症対策に配慮しつつ、開催を継続してきました。

7. 部門別実績報告 博仁会

老健入所科

科長 鈴木 三智子



【特徴・主な業務内容】

大宮フロイデハイムは超強化型の老人保健施設です。

病院と在宅をつなぐ中間施設でもあり、その人らしい人生を送れるよう、多職種協働してサポートする地域包括ケアシステムの中心的役割を担っています。

法人内で多様多彩な在宅サービスを展開していることで、老健から在宅復帰した後も希望に沿った支援につなげる事ができています。

【目標】

- ①自立支援・重度化防止について多職種協働し科学的介護情報システムに対応していく。
- ②事業継続計画（BCP）の策定。感染症や災害への対応力を強化していく。
- ③リハビリテーションマネジメントを充実させ、在宅支援・在宅復帰につなげていく。

【トピックス】

・新しく導入した機器

老健は在宅を目指すリハビリ目的のご利用者が多い為かベットサイドでの転倒が多く見られます。その転倒を最小限にするため、見守りセンサーを全ベットに導入しました。



睡眠の状態や呼吸の状態の評価にも使用出来ることや起き上がり・離床時にもアラームが鳴るため、利用者の安全に関して有効に活用しています。

- ・3年前から外国人技能実習生を受け入れています。本年度はモンゴルから2名の実習生も加わり現在は5名の実習生が日々真剣に学んでいます。
- ・大宮フロイデハイムのパンフレットが出来上がりました。



【実績】

平均在所人数	月平均	79.0 名
在宅復帰・在宅療養支援等指標	月平均	76.8 点
短期集中リハビリ実施加算	月平均	549 件
認知症短期集中リハビリ実施加算	月平均	85 件
ショートステイ個別リハビリ実施加算	月平均	162 件

7. 部門別実績報告 博仁会 おおみやホームヘルパーステーション

係長 皆川 あゆみ

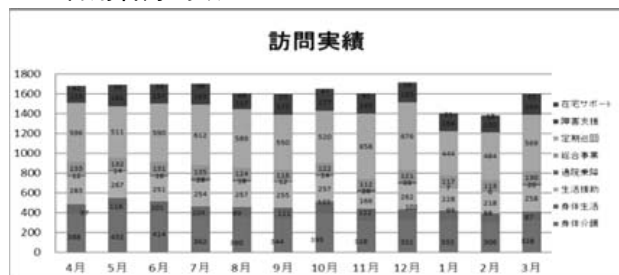
【概要】

令和3年度は、一人暮らしの高齢者が、認知症状の悪化や日常生活動作（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）の低下のため、自立した生活が困難になり要介護状態が悪化し、結果的に施設入所となる利用者が多かった。ヘルパーは、利用者の日常生活における精神面を安定させること、また健康状態や生活環境の小さな変化に気付くことが大切であると感じ、情報共有を密にし、早期の対応に繋げられるよう努めてきました。

事業目標は①「自立支援」を目的とした専門性の高いサービスの提供 ②柔軟な対応と質の高いケアの提供 ③ニーズに対応する個別ケアの充実の3つを掲げ、取り組みをしてまいりました。

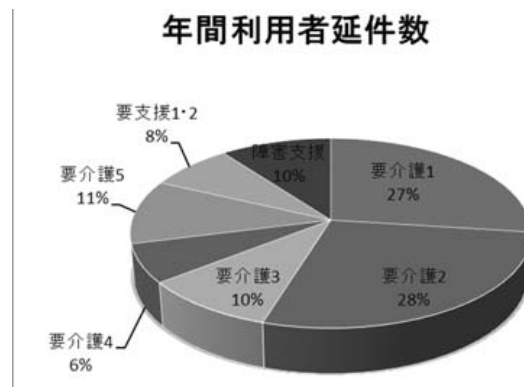
元来、訪問介護サービスは、介護保険法に基づいて提供されるものであり、「利用者の持っている力を活かし、利用者が望む生活を送れるように支援することが目的である」と示されています。内部研修では「自立支援」「重度化防止」について知識を深め、利用者とヘルパーが、共に日常生活に関する動作を行うことで、利用者のできることを増やすことが大切であると学びました。柔軟な対応と質の高いケアの提供では依頼にはできるだけ応えていくための連絡体制を整備し、利用依頼には迅速に対応できるよう努力してきました。タブレット導入により、在宅サービス間の連携がさらに強化され、タイムリーな対応が、ご利用者様・ご家族様、ケアマネージャー等に高い評価をいただきました。

1. 利用者月別数



令和3年度の訪問件数は一月当たり1620件（定期巡回含む）前後で推移し、昨年度とほぼ変わらず行うことができました。定期巡回では利用者の確実な服薬介助や、頻回な安否確認で利用者の不安の軽減ができたと思われます。また、在宅サポートは病院受診時の院内の付き添い等を行ってもらえることで安心して受診ができた、概ね高い評価がいただけました。

2. 介護度別利用者（件）



令和3年度では、要介護1、要介護2の利用者のサービスが多くみられました。訪問介護では、要介護者が在宅での生活を継続していくための「環境整備」を図る役割、本人や家族の「意欲を喚起」する役割、「生活リハビリを通じた自立度の維持・改善」を図る役割も期待されています。その為自立支援のための「見守りの援助」を進め在宅での生活が長く継続できるように提供してきました。また、在宅での看取りに対応するケースも見られ、少しでも自宅で過ごしたいとの希望に添えることもできました。

【目標】

- 1、「自立支援」に向けた視点を学び、援助提供に活かす
 - ・「見守り援助」の視点を学び、利用者様の状況を踏まえた自立支援や身体的機能の低下予防にどのようなつながっているのかを理解した上で、自立支援に向けた援助を提供する。
- 2、関係機関との連携強化による在宅生活継続の維持
 - ・少しでも長く在宅生活を継続する為に、日常生活における健康面、精神面を安定させることや、小さな変化に気づき、関係機関へ情報提供し連携を強化していく。
- 3、変化する利用者ニーズに対応する個別ケアの充実
 - ・こまめなカンファレンスを行い、個々人に合わせた計画書を作成し、計画に沿ったサービスの提供に努める。

7. 部門別実績報告 博仁会

おおみや訪問看護ステーション

管理者 舟木 悦子

【概要】

訪問看護は、何らかの疾病をかかえながらも、住み慣れた地域・自宅で自分らしく暮らしていきたい…という、ご利用者様・ご家族様の想いに少しでも寄り添えるようなサービスを提供しています。

ご利用者様は医療依存度の高い方が増加しています。自宅で生活されているご利用者様・ご家族様に安心して在宅での療養生活を続けて頂ける様、365日・24時間連絡のとれる体制・他職種との協働・連携をとりながらフットワークの良いステーションをモットーに業務に取り組みました。地域包括ケアセンターによるワンストップサービスの強みをいかす事で新規獲得にも繋がっています。

【目標】

- ① ご利用者様、ご家族様が自宅で安心して療養生活が出来るよう質の高いサービスの提供。
- ② 訪問件数増での収益の確保。
- ③ 法人内・各医機関・関係事業所との連携強化

【実績】

訪問実績は 5,788 件で、年間目標の 5,391 件を達成する事が出来ました。

指示書を頂いている医療機関は 30 か所以上あり、母体病院はもとより、さまざまな病院、クリニックより紹介を受ける事が出来ました。依頼を断らないという事も訪問件数増に繋がったと考えます。

ご自宅での看取りを希望されるご利用者様、ご家族様への支援の結果、在宅で多数の方の看取りをさせて頂きました。ご家族様の満足度の高いケアを提供出来ていると考えます。又、紹介して頂いた病院へご利用者様の経過を報告し、連携室の方との関係作りとなっています。

当ステーションは、精神疾患を有する利用者が現在 10 名以上おり、年々増加傾向にあります。精神科訪問看護基本療養費算定要件の研修へ参加し精神科訪問看護の質の高いケアの提供を目指します。

高齢化が進んでいる、北富田地区へコミュニティナースとして健康相談会の実施、イベントの参加をし訪問看護を知って頂く機会をもちました。

来年度も、積極的に看護学生や看護協会主催の潜在看護師の研修受け入れを行い、訪問看護の魅力を知って頂き、訪問看護スタッフの増加に繋がたいと考えます。今後更に訪問看護に対する期待は大きい為、スタッフの更なるスキルアップを目指し、質の高いケアの提供が出来るよう努力致します。

7. 部門別実績報告 博仁会 フロイデひたちなか訪問看護ステーション

富永 信子

【概要・特長】

訪問看護は、住み慣れた地域、自宅で自分らしく安心して暮らしていただくために病状の観察はもとより、病状の急性増悪、認知症の対応、リハビリテーション、入退院支援やターミナルケアなどご利用者の在宅生活を守るため、夜間を含めた24時間365日対応をしています。

【主な業務】

かかりつけ医がサービスを必要と認めた在宅のご利用者を対象に主に下記のサービスを行います。

- ① 病状の観察
- ② 食事、排泄、清潔等の日常生活援助
- ③ 医学的な処置、管理
- ④ リハビリテーション
- ⑤ 介護者への指導、相談、健康管理
- ⑥ かかりつけ医への報告、指示の確認（連携）
- ⑦ 他のサービス事業者との連絡、報告、連携
- ⑧ 終末期の看護

【実績】

訪問件数	年間：3,351件 月平均：279.3件
新規利用者	年間：48件
緊急・24時間対応加算	全利用者の73.6%
ターミナルケア加算（看取り）	年間8件

【トピックス】

上記の実績でも分かる通り、在宅での看取りが前年より増えています。これはコロナ禍の影響により入院や施設入所すると面会が制限されるため、特に癌末期など在宅での療養や看取りを望まれるご利用者・ご家族が増加傾向にあります。更に入院期間の短縮から医療ニーズの高いご利用者も増えており、専門性の高いケアが求められています。

超高齢化社会を迎え、多種多様な地域課題やニーズが生まれる中、地域包括ケアを推進していく上で訪問看護の役割は更に重要であると考えます。

7. 部門別実績報告 博仁会 ケアプランセンター

志村フロイデ地域包括ケアセンター長
木戸田 真

【概要】

令和3年度のケアプランセンターは、①ご利用者の状態に応じたサービスの提供②ICT活用による利用者情報の共有とケアの実践③障害者福祉サービスの拡大の3つを部門方針として取り組んでまいりました。

- ① ご利用者の状態に応じたサービスの提供
法人内サービスの連携を強化し、病院、在宅、施設、サ高住等、状態に合わせた柔軟なサービスが提供できる体制づくり、SFG情報共有会議の運営
- ② ICT活用による利用者情報の共有とケアの実践、タブレット導入による在宅サービス間の連携強化、医療⇄介護の情報連携体制の整備
障害者福祉サービスの拡大



7. 部門別実績報告 博仁会 常陸大宮市南部地域包括支援センター

管理者 鈴木 俊三

【概要】

地域包括支援センターは、介護保険法に基づき、全国の市町村が実施する地域支援事業のうち包括的支援事業を実施する機関です。常陸大宮市では、南北2か所に設置されており、南部は旧大宮町を担当圏域とし、当法人が業務委託を受託しています。

令和4年3月31日現在、市全体の人口39,788人、高齢化率38.0%、うち南部は、人口24,790人、高齢化率32.9%となっています。

昨今、水害やパンデミックなど、不測の事態を見据えた地域の団結と創意工夫が、より一層求められる時代となり、包括が果たすべき役割はますます多様化しています。専門職としての技量だけでなく、住民のニーズに寄り添う熱意と柔軟な発想力を持ち、住民主体の地域づくりに貢献できる機関を目指したいと思います。

人員配置	主任介護支援専門員	1名（新規資格取得）
	看護師	1名
	社会福祉士	2名
	介護支援専門員	1名
	認知症地域支援推進員	1名（新規資格取得）



【業務内容】

業務内容は、市が策定した委託仕様書に基づき、①介護予防ケアマネジメント、②総合相談支援業務、③権利擁護業務、④包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、⑤支援ネットワークの構築、⑥地域ケア会議の実施、⑦認知症施策等があり、複合的な課題を抱えた地域の高齢者のワンストップ相談窓口として活動しています。

当法人では、医療機関、介護保険施設、在宅サービス事業所、認知症疾患医療センター、在宅介護支援センター等があり、それぞれの機関の特徴を生かした連携がはかりやすく、利用者様にとって大きな利点となっています。

【目標】

- (1) 全世代・全対象型の総合相談拠点として、地域住民や関係機関に広く認知され、積極的に活用されるとともに、必要な資源やネットワークを構築することができる。
- (2) 地域のニーズに応じた住民主体の活動・参加の拠点づくりを推進し、事業の枠組みを超えた伴走型支援を継続することができる。
- (3) 認知症の人と家族が安心して暮らせるまちづく

りをめざし、認知症に関する知識の普及・啓発だけでなく、住民主体の活動・参加の仕組みを構築することができる。

【実績】

総合相談件数 414 件（内訳・重複あり）

介護保険：263	障害者：2	入退院支援：51
高齢福祉：38	生活困難：14	ケアマネ支援：48
認知症：101	独居：103	情報入手：79
権利擁護：31	介護力不足：66	クレーム：3
子育て：0	全世代対象：16	その他：68

困難事例ケース検討会議	41回
地域ケア会議	19回
ケアマネジメント支援会議	5回
虐待対応ケース会議	15回
成年後見制度ケース会議	8回
出前講座(元気アップミニ講座)	4回
第二層協議体	12回



【トピックス】

- (1) 全世代・全対象型総合相談拠点として、難病・障害・生活困窮・孤立など複合的課題を抱えるケースの相談支援に取り組み、在宅医療介護連携の強化、就労・教育支援など制度の狭間を超えるネットワークの構築、フードバンクなどインフォーマル資源の活用をはかりました。
- (2) パンデミック終息後の地域活動再開に向け、生活支援体制整備事業2層協議体の活動再開や、地域の区長や民生委員との意見交換に務め、一般介護予防普及啓発やサロン立ち上げ支援に取り組み、次年度以降に続く「小さな小さな拠点づくり」の足がかりとなりました。
- (3) 認知症施策では、新たな活動として、認知症の診断や治療を受けてない段階で認知機能の低下が気になるかたを対象とした予防教室「スマイル教室」を創設。実施後のフォローアップにより、認知症専門外来や認知症予防教室「ブレインクラブ」、介護保険サービスの利用につなげました。



7. 部門別実績報告 博仁会 ひたちなか市北部地域包括支援センター

センター長 榊 卓巳



【概要・特徴】

ひたちなか市北部地域包括支援センターは、介護保険法に基づく地域支援事業を担い、ひたちなか市から当法人が受託しております。事業を担う中で、スマイルと似顔絵を活用しながら「地域住民がアクセスしやすく、いつも傍にいる地域の仲間」と感じてもらえるよう努めております。

【事業内容】

- ① 介護予防ケアマネジメント
- ② 総合相談
- ③ 権利擁護
- ④ 包括的・継続的ケアマネジメント
- ⑤ 認知症総合支援事業

市役所が策定した5つの業務内容を担い、地域の相談窓口として活動しております。主に高齢者の相談窓口となりますが、近年複雑化するケースに対応出来る様、地域の各相談窓口と連携を図りながら、課題の解決に努めております。

【重点課題・TOPICS】

○センターの認知度向上および相談機能拡充

相談機能を十分に発揮しつつ、地域力を強化するために、医療介護福祉事業所はもちろん、ケースワークを通して市内の郵便局やスーパーなど生活に密接する多業種との協働を日頃より行っております。また活動毎のリーフレットを、市の公式 SNS を用いて情報拡散を図るなど、広い年代と繋がるべく日々努力しております。

○コロナ禍と共生する地域事業

地域支援事業はコロナ禍において非常に困難な情勢でしたが、市内の実情および感染拡大状況に合わせ、認知症総合支援事業を軸として「出来る方法を



模索する」を念頭に、フレキシブルな活動を展開しております。例としては、認知症カフェの屋外開催、RUN 伴イベント（当センターから実行委員長を輩出）等があり、地域住民および事業所と協働イベントの企画運営を担いました。

○オンライン対応および環境強化

小地域ケア会議や認知症家族会などの再開に向け、いち早くオンライン開催の主催者を担えるよう、早急な課内学習を行い、実践しております。加えて、市内関係者の中で活動を先行した事で、実績を踏まえた市内各事業のオンライン対応に向けた提案や、主催者のテクニカルサポートと幅広く展開しました。

【実績】

- ・総合相談延べ件数：1,484 件
- ・介護予防ケアマネジメント件数：3,270 件
（内、委託件数 2,348 件）
- ・地域活動実践延べ回数：124 回
- ・地域活動実践延べ人数：1844 名
（認知症地域支援推進員の活動を含む）

7. 部門別実績報告 博仁会

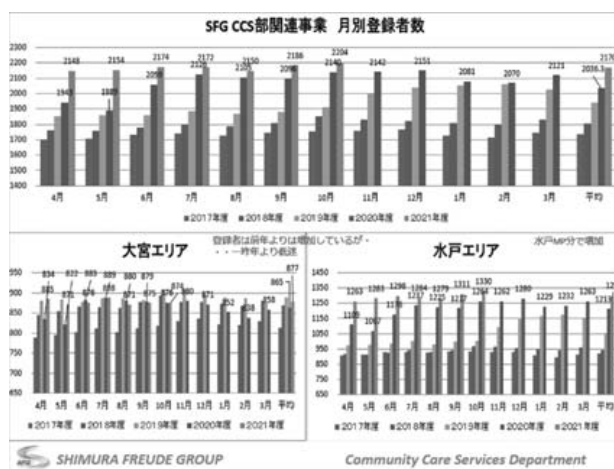
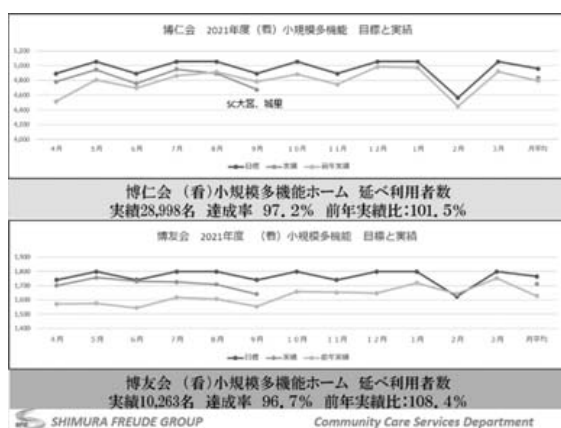
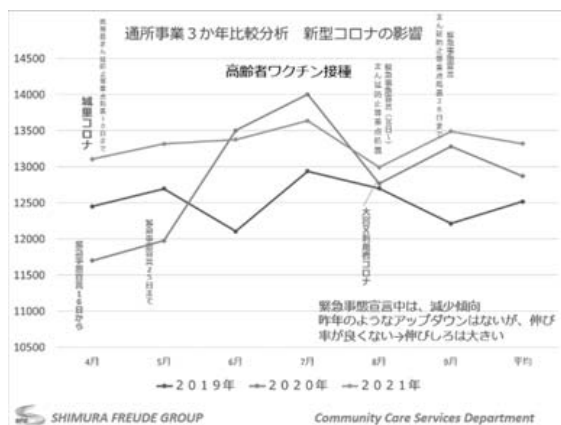
コミュニティケアサービス部

部長 宮川 直彦

I. 【部門目標】

1. フロイデケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進～ WITH コロナ禍の日々の生活を支える支援～
2. 介護保険制度改定における、LIFE データ提出及びフィードバックの活用の実践
3. 業務の効率化と人材育成
LIFE データ提出に伴う業務の効率化と補助金を活用した機器の導入等

II. 【事業成果】



通所系サービス(通所介護・通所リハビリテーション)では、昨年に続き新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言や蔓延防止重点処置が行われたことにより、利用控えやご利用者の中で感染者が発生したことにより大幅に利用者数が減少する事業所もありました。目標達成はできませんでしたが、昨年比で103.2%の結果となりました。

昨年に続き、感染症で引きこもりになっている利用者様に対して生活支援(特に買い物支援)を充実させたサービス運営を行いました。

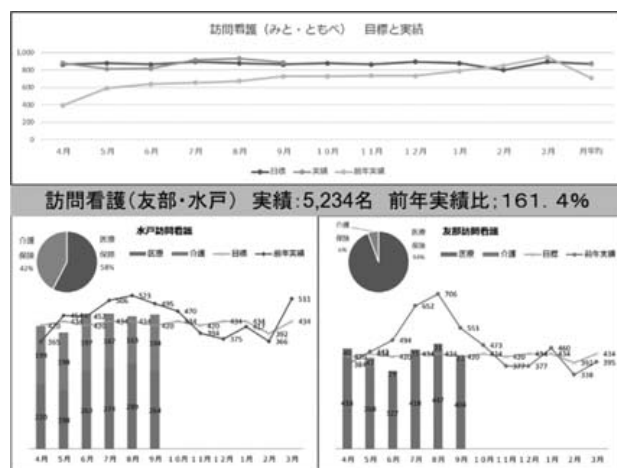
また、長期にわたるこのような状況で、認知症の進行や身体機能の低下がみられ、お休みにいられている方への支援の強化が必要でありました。その為、昨年から実施しております自宅で行える運動動画の作成を引き続き行い、少しでも自宅で行っていただけるような声掛けなども実施いたしました。

(看) 小規模多機能ホームでも、目標数を達成はできませんでしたが、前年比を博仁会で101.5%。博友会で108.4%と超えることができました。

全体の登録者数でみますと、新型コロナの影響で大宮エリアは、昨年よりは増加したものの一昨年の登録者数まで戻っておりません。

水戸エリアに関しましては、水戸メディカルプラザの半日型の通所リハビリテーションの登録者が順調に伸びたことで大幅な増加となりました。半日の通所リハビリテーションも水戸市内で少しずつではありますが認知され、増加傾向にあります。3職種(PT・OT・ST)そろっており、訪問リハビリとの連携も強化しております。

また、併設のカフェで昼食のお弁当・総菜を注文することで、半日でもバランスの取れた食事の提供が可能であり、人気となっております。



訪問看護ステーションに関しましては、おかげ様で数多くのご依頼をいただいております。人財確保も務めておりますが、相談件数に追いつかずご迷惑をおかけしているケースもございます。地域で羽ばたく看護師がより多く集まることを祈っておりますし、一緒に活動いただける看護師さんを引き続き募集しております。

Ⅲ【主な活動】

ケアタウン水戸に関しましては、フロイデ水戸メディカルプラザの小規模多機能ホームを7月より看護小規模多機能ホームへ転換し、より医療依存度の高い方まで対応できるサービスへと変更を行いました。

ケアタウン友部におきましては、SC友部に定期巡回随時対応型訪問介護・看護サービスを開始。フロイデアシストハウス入居者様はじめ、自費サービスで提供しておりました生活支援などは、保険制度の活用が可能となり、よりきめ細やかなサービスを行えるようにいたしました。

ケアタウンひたちなかでは、令和5年4月開設予定のフロイデひたちなかメディカルプラザの準備もかねて、訪問介護ステーションを既存の訪問看護事業所に開設致しました。

介護報酬改定への対応といたしまして、運営基準の改定が多くありました。特に感染症対応・教育及びBCP作成を進めました。猶予期間は残り1年ですので、BCP作成におきましては、法人内でのクラスターの経験なども取り入れ、常に変更をかけ活用できる計画にしていきます。

また、今回改定の大きなところでもあります通所系の栄養マネジメントに関いまして、管理栄養士を法人内で分担し、全利用者様へのマネジメントを

継続的に実施できるような体制作りを栄養科と共にを行いました。栄養・口腔・リハビリ（運動）と3本柱をしっかりと維持期におきましても提供できるよう努めて参ります。

2021年度 介護報酬改定の対応									
2021年度改定における運営基準対応									
業務内容	対応	備考	対応	備考	対応	備考	対応	備考	備考
居宅訪問介護・居宅訪問看護	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価
居宅訪問介護・居宅訪問看護（夜間・休日・夜間）	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価
居宅訪問介護・居宅訪問看護（夜間・休日・夜間）	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価
居宅訪問介護・居宅訪問看護（夜間・休日・夜間）	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価
居宅訪問介護・居宅訪問看護（夜間・休日・夜間）	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価
居宅訪問介護・居宅訪問看護（夜間・休日・夜間）	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価
居宅訪問介護・居宅訪問看護（夜間・休日・夜間）	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価
居宅訪問介護・居宅訪問看護（夜間・休日・夜間）	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価
居宅訪問介護・居宅訪問看護（夜間・休日・夜間）	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価	高単価

引き続き、感染対策を行いながらいつまでも安心して暮らせる地域づくりを目指し、医療・介護・福祉そして生活支援と地域の支えになれるように努力して参ります。

令和5年4月には、フロイデケアタウンひたちなか構想の第2ステージといたしまして、有床診療所、看護小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホーム、通所リハビリテーション、就労支援A型など多数の事業開始いたします。また、定期巡回サービス及び看護小規模多機能ホームに関しましては、3月末に開設を目指しております。

ケアタウンひたちなかにおきましては、医療・介護・福祉・生活支援まで提供することが可能となっております。住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域づくりを含めて、準備を進めて参りますので、何卒よろしくお願いいたします。



7. 部門別実績報告 博仁会 在宅介護支援センターおおみや

小野瀬 美幸



【概要】

在宅介護支援センターは、常陸大宮市の長寿福祉課と生活環境課からの業務委託を受託しており、担当地域は（若林・小野・三美を除く）大宮中学校区になります。

【業務内容】

長寿福祉課

- ・高齢者福祉総合相談（高齢者福祉事業の代行申請）
- ・緊急通報システム事業（設置立ち合い・安否確認の訪問）
- ・介護予防把握事業・高齢者見守り安否確認事業（独居・高齢者世帯の訪問）
- ・地域介護予防活動支援事業
- ・介護予防普及啓発事業
- ・生活支援体制整備事業

生活環境課

- ・ふれあい収集事業

【目標】

- ・地域高齢者の実態把握と独居高齢者の支援
- ・市民協働提案事業と連携を図り、地域サロン活動を支援する
- ・常陸大宮市・地域包括支援センター等の関係機関と協力し合い、民生委員を含めた地域住民との連携強化に努める

【実績】

- ・高齢者福祉総合相談件数 88 件
- ・緊急通報システム設置世帯数 66 件
- ・高齢者実態把握年間延べ件数 995 件
- ・サロンの活動支援 8 回
- ・介護予防普及啓発の資料の配布（熱中症予防リーフレット・うちの配布、ヒートショックのリーフレット・アルコールウェットティッシュ、マスクの配布）
- ・生活支援体制整備事業茶話会 9 回
- ・ふれあい収集事業 8 件

【トピックス】

- ・地域サロン活動支援に向けて、担当地域の区長、副区長と地域の情報交換をさせて頂き、通いの場のメニューの情報提供をさせて頂きました。
- ・コロナウィルスの感染対策を徹底し、介護予防教室「運動教室あつまーれー」の開催に繋げる事ができました。
- ・緊急通報システムでは、年度初めに試験通報を実施し、全てのボタンを押して消防署へ繋げ、台帳の更新を行いました。

7. 部門別実績報告 博仁会

栄養科

科長 並木 道子

【令和3年度部門方針】

- ① 食事や調理に関する知識、技術の向上による食事支援の充実
- ② 個人の状態に合わせた栄養ケア計画と実施（病院、施設、在宅）
- ③ 多職種連携による低栄養の予防と栄養状態、食環境の改善に取り組む

【実績】

①に関しては、今年度1名が調理師の資格を取得しました。科内での取り組みとしては、今年度も毎月1回テーマを決めて「お楽しみ献立」を実施しました。季節や行事に合わせたテーマや郷土料理など、年間12回様々なテーマで献立を工夫し、喜んでいただくことができました。また、毎月2品の新メニューの開発を目標とし、栄養士、調理師が協力しながら28品目の開発、改善に取り組みました。

②に関しては、病棟においては管理栄養士の担当制をとり、栄養サポートチームや多職種カンファレンスに参加し患者様への栄養ケアの充実に努めました。また、今年度から介護報酬改定により介護施設においても栄養アセスメントを行うこととなり、入所、通所とも管理栄養士を配置し低栄養の予防や改善に取り組んでおります。在宅に向けての活動としては、配食サービスの利用件数が今年度も増加し年間75,023食（1日平均206食）となりました。独居や高齢者世帯の方から食の支援へのニーズが増えております。増加の要因として、新型コロナウイルス

感染症の影響で外出を控えたり、遠方にお住まいの家族がなかなか来ることができず心配して、安否確認を含めた当サービスの利用へとつながったことが考えられます。今後も、住み慣れた地域で安心した食生活が送れ、家族の安心へつなげられるサービスを心掛けて取り組んでいきたいと思っています。

また、在宅支援として、訪問栄養指導も行いました。今年度は、在宅栄養専門管理栄養士の資格を1名取得しました。今後、地域包括ケアが進んでいく中で、在宅での栄養、食事支援にも力を入れていきたいと思っています。

③に関しては、病院、老健では栄養サポートチームをはじめ、摂食嚥下チーム、認知症ケアチームなどのチーム医療に関わりました。また、院外においては、おおみや認定栄養ケア・ステーションとして活動し、レシピ作成や介護予防教室などでの講師、ヤクルト(株)や常磐大学とのコラボレーションメニューの開発を行いました。

今後も、病院、施設、在宅など、どこにいても食事や栄養に関するサービスが受けられ、安心して生活ができるように、スタッフひとりひとりがスキルアップしながら取り組んでいきたいと思っています。

7. 部門別実績報告 博仁会 薬剤科

河野 高宏

【概要】

志村大宮病院薬剤科は薬剤師 5 名、助手 5 名で構成されております。病院内の調剤と薬品管理を行っています。内服・注射調剤、製剤業務、医薬品管理、外来化学療法、医薬品情報管理、病棟業務、服薬管理指導、チーム医療への参画、訪問薬剤指導、薬学実習生受け入れ、看護学校教育など業務は多岐にわたっており、薬剤に関することは全て関与し薬が安全に使用できるよう業務を行っています。

【実績】

病棟薬剤管理指導	4745件
訪問薬剤指導	971件
薬剤師病棟配置加算	3628件
無菌製剤処理料	3856件
薬剤総合調整加算	26件
薬剤情報連携加算	172件

【トピック】

令和 2 年度よりがん外来化学療法を開始しました。陰圧アイソレーターデュアルケモ®、株式会社トーショーの抗がん剤監査システム RedMan®、AddDis® を導入しレジメン管理や薬剤調整が安全に行えるシステム構築を行いました。実際の運用においてもトラブルなくシステムが稼働しており当院の少ない薬剤師数でも十分に対応でき高度なレジメンも安全に調製が可能となりました。

新型コロナウイルス感染症のワクチン業務や中和抗体などの薬剤の用法・用量に関する診療支援も行いました。各医療機関へのワクチン配送や、腎機能などによる治療薬の投与可否や投与経路に関する薬学的管理を行い安全な薬物療法が出来たと考えられます。幸い薬剤科内でコロナ陽性者も出ておりませんので薬剤の供給が途切れることなくできたのは非常に良かったと思います。今後も感染リスクに注意するように周知・徹底し業務を続けてまいります。

昨今の薬剤供給不足に対応するために採用医薬品の整理も積極的に行っています。同効薬をより効果が高いものへ統一や変更、刻印を識別しやすいものへの変更、口腔内崩壊錠へ積極的切り替え、配合剤の採用など患者が服用しやすくアドヒアランスが向上するようにしています。院内後発品医薬品の割合は 94%を超えており堅調に維持しています。

退院時の薬剤情報連携に加算がつくこととなり、薬剤サマリーを作成し薬局薬剤師に情報提供を行っています。情報連携したことにより調剤薬局薬剤師や他病院から正しい薬物療法を継続できたとのフィードバックがありました。以前であれば退院後元の処方に戻ってしまうことも多くありましたが、処方変更の経緯などを記載することで調剤薬局薬剤師が処方変更意図に気づき処方医へ疑義照会がスムーズにできたと思われます。今後も分かりやすいサマリーを心掛け退院患者全例に作成していきます。

7. 部門別実績報告 博仁会

診療サービス課

熊谷 淳夫

【令和3年度診療サービス課の目標】

①病院情報の指標公表 ②健診センター利用者の増加対策 ③オンライン診療の導入 ④外来化学療法の運営強化 ⑤病院送迎バスの充実対策の実施

【主な実績】

1) 「病院情報」の公表

病院情報公表とは、DPC データから全国統一の定義と形式に基づき医療機関自ら作成し、市民向けに情報公開を進め、病院の様々な機能や診療状況などを数値化し、時間的変化を評価・分析することにより、医療の質の向上に役立てることを目的としています。

使用するデータは、DPC 様式1（カルテからの情報）、様式4（医科保険診療以外のある症例調査票）、D ファイル（包括診療明細情報）のデータを使用し算出しています。

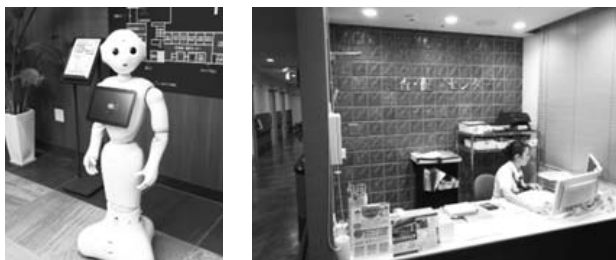
【公表内容】

- ① 年齢階級別退院患者数
- ② 診療科別症例数の多いものから3つ
- ③ 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数
- ④ 成人市中肺炎の重症度別患者数等
- ⑤ 脳梗塞のICD10別患者数
- ⑥ 診療科別主要手術の術前、術後日数症例数の多いものから3つ
- ⑦ その他（DICの請求率等）

2) 健診センター利用者の増加

企業健診受診者の増加のため企業への宣伝強化、半日人間ドック、簡易人間ドック、オプション検査設定など受診者のための新たなサービスの提供、協会けんぽ生活習慣病予防健診指定の更新を行っています。

また、健康診断の質の向上のため、一般社団法人日本総合健診医学会と公益社団法人日本人間ドック学会に入会しています、健診の質の向上と、精度管理に一層努めています。



3) オンライン診療の導入

当院では、オンライン診療の導入しています。オンライン診療とは、遠隔診療とも呼ばれ、予約から診察、会計まですべてお手持ちのスマート

フォンやパソコンなどインターネット回線に接続している機器による診察方法です。

『オンライン診療のメリット』

- ・受付や会計の待ち時間が短縮される。
- ・自宅や外出先で診察が受けられる
- ・院内処方の場合くすりが自宅に届く
- ・院内感染・二次感染のリスクがない



4) 厚生労働省「令和3年度医療の質の評価・公表等推進事業」への参加

本事業は、国民の関心の高い特定の医療分野について、医療の質の評価・公表等を実施し、その結果を踏まえた分析・改善策の検討をおこなうことで、医療の質の向上及び質の情報の公表を推進することを目的としています。当院は全日本病院協会の依頼を受け本調査に協力しています。

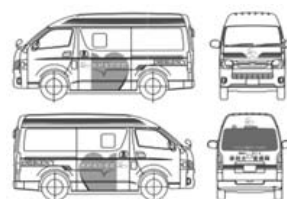
【事業内容】

- ① 特定の医療分野について、評価・公表等を行う具体的な臨床指標を選定する。
- ② 関連する複数の医療機関から臨床データを集計・分析し、具体的な臨床指標の作成を行い、ホームページ等を通じて国民に対して公表する。
- ③ 臨床データ提供のあった医療機関の関係者等による委員会を開催し、国民に有用な臨床指標の公表のあり方等に関する諸問題について分析・改善策の検討を行う。
- ④ 本事業終了後は、上記①、②の実施状況、その実施の際に生じた問題点、③の分析・改善策の検討結果等を整理し、厚生労働省に報告する。

※本調査の結果は、全日病のホームページに掲載されています。

5) 病院送迎バスの充実

当院では、病院送迎バスの充実の一環として、「ナースカー」の運行を行っています。ナースカーは、入院患者さんの送迎と、外来で通院困難な患者さんの送迎を行う専用の車両です。



7. 部門別実績報告 博仁会

管理部

部長 熊谷 淳夫

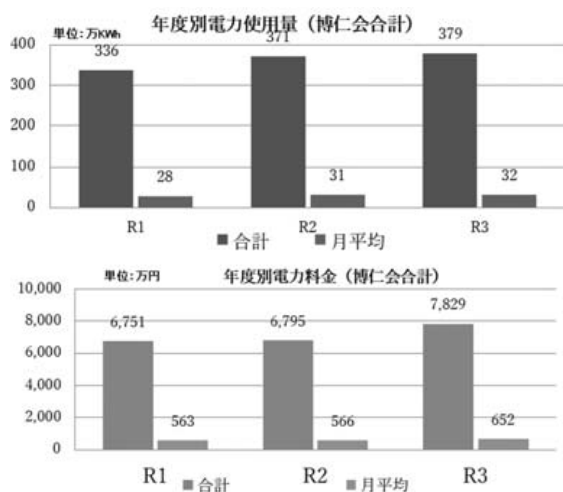
【目標（グループ全体の3カ年目標達成のための活動の推進）】

- ① 利益率向上に向けたコスト削減の強化
- ② 施設整備の推進
- ③ 情報発信の強化
- ④ 健康経営優良法人2022（大規模法人部門）取得に向けた取組み
- ⑤ スイス館・チロル館の照明のLED化により全館LED化の達成

【実績】

① コスト削減強化

コスト削減強化では、令和3年9月以降、LNGなどの輸入価格の高騰をうけ電力会社の燃料費調整額が値上がりしました。当院では、年間電力使用量は昨年と比較して横ばいの状況でしたが、電力料金は、約15%増加し、現在も増加傾向が続いています。これをうけ、当院では電気料金削減のため、節電行動アクションによる電気料金の削減に取り組みました。また、電気料金の削減に有効な、施設照明のLEDを促進いたしました。



LED 照明へ切り替えが済んだ食堂

② 施設整備の推進

- 1) みんなの休憩所開設工事（地域交流スペース）
- 2) 屋上庭園花の植え替え
- 3) 新型コロナウイルスワクチン保管用ディープフリーザー設置電源工事



みんなの休憩所【改修後】



【改修前】

ドイツ館・スイス館・フロイデハイム屋上リハビリ庭園の春・秋2度の植え替えを行いました。一年を通じて花と緑の絶えないリハビリ庭園をご利用者の皆様に提供致します。ドイツ館の開設に合わせ、中庭のライトアップを現在も行っています。



【病院 中庭】



【スイス館 屋上リハビリ庭園】



【大宮フロイデハイム 屋上リハビリ庭園】



【エーデルワイス病棟 屋上庭園】

③ 情報の配信では広報誌『お元気ですか』の発行、情報システムの整備による効率化と情報の共有化を図るため、グループウェアサイボーズによる情報の共有化を引き続き進めています。医療と介護の連携ルールとしてグループウェアサイボーズは、拠点数の増加、職員の増加により巨大化・広域化したSFG（志村フロイデグループ）の情報共有・意思伝達手段として非常に有効なツールとなっています。また、電子カルテについては、医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必須ツールとして医療・介護双方向からの活用を行っています。

④ 健康経営有料法人 2022 取得

志村フロイデグループでは、健康経営に取り組む企業として経済産業省「健康経営優良法人ホワイト500」の取得に向けた取組を平成30年度より行っています。

「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点でとらえ、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織活性化をもたらし、結果的に業績向上につながるとされています。

令和3年度は、健康経営優良法人（大規模法人部門）に再度認定されました。来年度にむけて「健康経営優良法人ホワイト500」の取得に向けさらに活動を行っていきます。



7. 部門別実績報告 博仁会 経理部

課長 帯施 雅信

【令和3年度決算概況】

令和3年度決算では、医業収益が58億6千万円（前期比1億9千万円増、3.4%増）と増収になりました。新型コロナウイルスの影響を受けた病棟あり一時的に減収となりましたが、一昨年度に開設した水戸メディカルプラザの稼働率が上昇したこと、外来患者数増加により病院外来が増収となったこと等により、前期比増収となりました。

対して医業費用では56億2千万円（前期比3千万円増、0.6%増）となりました。これは、職員数増加による人件費増加、電気代上昇による水道光熱費増加等ありましたが、電子カルテ・介護システム等が再リースとなり年1回支払となったので器械賃借料が年3千万円減少したこと、などにより医業費用の増加が抑えられました。ただし翌期以降に電子カルテ等入替えを進めてますので、器械賃借料の増額が予想されます。

医業収益が伸び医業費用が抑えられたため、医業利益は2億3千万円と前期比1億6千万円の増益となりました。恒常的な営業外収益・営業外費用を加減し、経常利益は3億8千万円、当期純利益は2億7千万円となりました。

次に貸借対照表をみますと、流動資産では現預金が前期比4億8千万円増加しました。来期以降にケアタウンひたちなかオープンを控え、開業資金用の積立を増額していったためです。

固定資産では、ひたちなか建築資金を借入金で調達し建設仮勘定に計上となりました。従来計上していましたリース資産をリース負債ともどもオフバランス化しましたので、それほど伸びませんでした。

対して負債勘定では、ひたちなか借入金が増えましたが、リース負債のオフバランス化や借入約定返済が進んだこともあり、前期比減少となりました。

総資産勘定は増加しましたが、負債勘定が減少したことにより、自己資本比率は42%と前期比3.6%増加しました。

【今後の活動予定】

来期はケアタウンひたちなか2期建築工事を予定しております。この一大プロジェクトが法人業績に貢献できるようチームで取り組んでおります。本事業を進めて法人全体の業容拡大に努めてまいりたいと考えております。

今後、ひたちなか建築に伴い多額の借入金が予定されていますので、資金繰り状況をみて短期借入金の返済を進め、負債勘定が過大にならないよう管理していきます。

まだ新型コロナウイルス感染症が続いており、これから想定外の出費が予想されます。預金残高をみて資金繰り状況により一層注力してまいります。

7. 部門別実績報告 博仁会

人事課

課長 斎藤 常司



入社式



研修

【業務概要】

人事課は7名の職員で構成しております。

業務は「職員」に関する業務全般となり、月例業務から季節的業務など多岐な業務にわたります。

【主な業務】

- ・募集、採用
- ・勤怠管理
- ・給与計算
- ・社会保険
- ・職員研修（新卒者・中途採用者）
- ・技能実習生の受け入れ

【トピックス・実績】

1. 人事諸制度の変更

昨年度から継続的に取り組んでいる「働き方改革」の推進に向け、多様化した労働環境の変化に合わせコンサルタント指導の下、人事諸制度の変更に向けて取り組んできました。

大きな制度となる賃金制度と人事考課制度への取り組みは、それぞれチームを編成し活動してきました。人事考課制度については各部門から委員を選出し、人事部門と連携して新制度を創り上げました。

- ・4月 就業規則全般の見直し改定施行
- ・4月 新賃金制度の構築着手
- ・4月 新人事考課制度の構築着手
- ・4月 医師の就業規則の制定施行
- ・12月 医師の年間5日間の計画的有給休暇付与

2. 業務の効率化推進

業務の効率化の推進を目指し従来の用紙による申請から一部電子化へ移行し、用紙のコスト削減、業務時間の短縮などの効率化が図れました。

- ・社会保険等の各種申請を行政電子申請（e-GOV）の利用開始
- ・職員ストレスチェックを外部業者へ委託し、受検方法を用紙からWEB受検へ変更

3. SFG メンタルヘルス相談室の運営

相談室は開設から2年目を迎え活動が定着してきました。

産業医と公認心理師による専門的支援と人事課が連携し、メンタルヘルス不調者の予防、早期対応また休業に至った場合は復帰に向けての支援、復帰後における勤務時間の短縮配慮など継続した、きめ細かな支援活動を行ってきました。

小さなことでも相談したい職員が「いつでも気軽に相談」できる窓口であることを心がけております。

4. 人材確保

志村フロイデグループを支える人材を積極的に採用しました。

- ・新規学卒者 43名
- ・中途採用者 72名

採用活動はコロナ禍において従前の採用活動に加え、オンラインを活用した採用活動が定着してきました。

また、技能実習生を受け入れており技能向上に向けた実習活動と資格取得への支援また、私生活面の両面の支援など行ってきました。

これからも業務の効率化を図り、職員の働きやすい職場環境づくりに課員一丸となり取り組んで参ります。

7. 部門別実績報告 博仁会

法人サポート部

部長 小野 健悦

【概要・特徴】

病院団体の設立や運営支援、全国学会の開催等を担っております。また「病院を中心としたまちづくり」の実現のために常陸大宮市役所各課と協働し、高齢者や障がい者、子育て世代にとって住みやすいまちについて考え、その実現に向けて取り組んでいます。

【実績】

令和3年度は「公的に認められた中小病院唯一の病院機能である在宅療養支援病院をさらに発展させ、超高齢社会のピークを乗り切る役割を果たせるようにすること」を目的として、一般社団法人日本在宅療養支援病院連絡協議会を設立いたしました。



上：一般社団法人日本在宅療養支援病院連絡協議会ホームページ

全国に約1,600ある在宅療養支援病院の活動や学ぶ機会を提供するとともに、令和4年度は診療報酬に係る各種調査実施し、厚生労働省に政策提言をしていくことを目指しております。

また令和3年3月20日には日本医師会を会場として、日本地域包括ケア学会第3回大会を開催いたしました。

「感染症や大規模災害に備えるために地域包括ケアシステムを活用する」と題し、各職能団体、医療機関、介護施設から、先進的な感染症への対応や大規模災害対策についての報告がありました。

参加者は全国から1,000名を超える医療・介護の専門職にオンラインで参加いただき、盛会のうちに終えることができました。



右：日本地域包括ケア学会第3回大会チラシ

7. 部門別実績報告 学校法人志村学園

茨城北西看護専門学校

副校長 吉原 ます子

学生数 全学年 127 名

	1 年	2 年	3 年	合計
看護学科	42 名	33 名	35 名	110 名
介護福祉学科	8 名	9 名		17 名

*教職員 17 名

【部門方針】

- ① 受験生の増加による優秀学生の確保を図る
- ② 教育活動を充実し、国家試験『全員合格!』を達成する
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染者を出さない
- ④ 学校運営の安定を図る
- ⑤ 教育の質向上に向けた取り組みをする

【実績】

1. 「受験生の増加による優秀学生の確保を図る」

前年度の学生確保の反省から、広報活動の充実しに力を入れました。高校訪問は昨年どおり 5 月より開始計画を立てました。しかし、コロナ禍の中十分な高校訪問・オープンキャンパスを実施できない状況でした。

看護学科はオープンキャンパス参加者 120 名の目標を立てました。参加者は 100 名であり、前年度と同数でした。受験者数は 58 名にとどまり、令和 4 年度の入学人数は 37 名であり、定員割れをしてしまいました。

介護福祉学科は 5 月より週 1 回オープンキャンパスを実施し、参加者は 30 名でした。入試においても AO、指定校推薦、公募推薦、一般入試を実施しました。結果、令和 4 年度の入学生は 17 名となりました。

2. 「国家試験『全員合格!』を達成する」

看護学科は今年度も国家試験の合格 100% をめざし、学生を指導してまいりました。入学当初より、学生の自己学習能力の向上を目指し、学生自身で問題解決していけるように、ゼミナール学習を組み入れてきました。3 年生になり、学内実習が多くなる中で、様々な工夫をしてまいりました。最後の実習統合実習は臨地で実施することができました。実習が終了した 12 月より本格的に国家試験対策に取り組みました。今年度も寸暇を惜しみ集中しました。結果 1 名が不合格でした。

介護福祉学科は初めての国家試験に挑戦しました。100% の合格を目指し、2 年生の第 4 段階の介護実習が終了すると、夏季休暇以後はひたすら国家試験対策に取り組みました。結果 1 名が不合格でした。

3. 「新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染者を出さない」

学生が 1 日 3 回の体温、自覚症状、家族の状況をアプリにて登録をすることにより、学生の健康状態の把握に努めました。学生・家族に発熱・症状がある場合は、登校禁止とし公欠扱いとしました。

また、長期休暇明けには、抗原検査を行い陰性であることを確認してから登校としました。

さらに、実習前には PCR 検査を行い、安全・安心を確保したうえで、実習を実施しました。

4. 「学校運営の安定を図る」

学校運営の安定を図るため、まず、入学者の確保と学生を減らさないという目標の下、学年担任制をとり早めに対応し、必要に応じ本人・保護者との面談を実施することやカウンセラーにてメンタルヘルスサポートの実施をしてまいりました。単位未修得科目が多く原級留置になった場合は休学することが多く、復学後に退学するケースが多々見られました。

また、近隣の医療施設に寄付金への協力を呼びかけてはいるのですが、目標値には程遠い状態です。学校管理における経費の削減目標に対しては、講師タクシー代やコピー代の削減を目標どおり達成できました。

5. 「教育の質向上に向けた取り組み」

積極的な学会・研修会への参加とともに、定期的に勉強会（授業方法、学生能力を評価する方法、看護過程の展開など）を行ってきました。また他校の良い方法はどんどん取り入れるために看護学科は日本看護学校協議会・茨城県看護教員連絡会、介護福祉学科は日本介護福祉士養成施設協会にも加入し、教員の連携も図り質の高い教育に努めています。

【総括】

開学して 13 年目、令和 3 年度は 127 名の学生の指導をしてまいりました。年々入学生の学力のなさに驚き、教員一同どう教育したらいいのかと悩む毎日でした。しかし、卒業時の学生は周りの方々にも助けられ、一回りも二回りも大きくなって巣立っています。

入学を許可したからには卒業まで学校の責任と考えています。さらに国家資格取得までが学校の責任と考えています。「国家試験全員合格!」を目指し、教職員一丸となって支援してまいります。

7. 部門別実績報告 博友会

博友会事業実績報告

施設長 鶴藤 正孝

【概要】

社会福祉法人博友会は、常陸大宮市野口平地区に、平成12年10月5日に法人設立、翌、平成13年9月1日に特別養護老人ホームを中心とした介護保険施設を開設したのをスタートとして以来、様々な事業を展開し令和3年10月には設立21年を数え22の事業を展開しております。



【特徴】

当法人は、地域包括（地域密着）を目指して法人一丸となって目標に取り組んでおります。地域営業と法人目標である「経営理念を達成するために必要な収益に確保」をモットーに介護保険施設事業の推進を進めているところです。

【目標：実績】

令和3年度の法人目標及び実績は下記の通りです。

令和3年度の実績につきましては、新型コロナウイルスの対応及び対策に全力を傾けての1年となりました。様々な影響を受けて、最終的には収入および支出の目標未達に繋がりました。

令和3年度目標・実績

	目 標	実 績	達 成 率
令和3年度収入	1,646,025 千円	1,632,134 千円	99.16%
令和3年度支出	1,498,757 千円	1,481,882 千円	98.87%
収 支 差 額	147,268 千円	150,252 千円	102.03%

最後に令和4年度についても新型コロナウイルスの影響は続くことが予想されます。皆様においても先を見通せなく不安を感じると思います。当法人は、ご利用者様が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていただく為の改善や努力を重ねて参ります。これからも地域と共に発展し、皆様から必要とされる法人として存在できるように職員一丸になって取り組んで参りますので、今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

7. 部門別実績報告 博友会

事務サービスグループ

部長 江幡 和子



【概要と主な業務内容】

事務サービスグループは、総勢 10 名で、本部事務・給与人事・経理・総務・介護障害事業事務等、社会福祉法人博友会の法人運営にかかる事務処理業務を担当しています。

今年度は「働き方改革への柔軟な取り組みと職員満足度の向上」を目標として、新給与体系の構築・新人事考課制度の整備に力を注いできました。また、「業務複数体制の見直しと生産性及び対応力の強化」として、各個々の職員の業務の水平展開を目的に二人体制での業務遂行・教育を推進してまいりました。まだまだ道半ばではありますが、ひとり一人が法人運営を支える「人財」として成長できたらと願っております。

【実績】

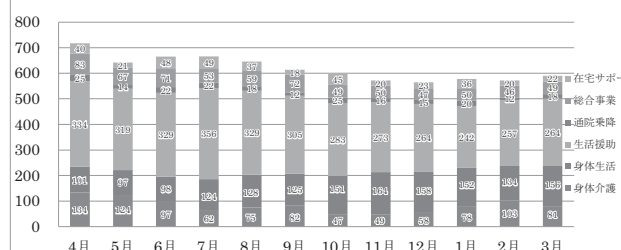
令和 3 年度 収支実績 (内部取引消去後)	経常収益	1,617,739 千円
	経常費用	1,462,727 千円
	経常増減差額	155,012 千円
	特別増減差額	5,552 千円
	当期活動増減差額	160,564 千円

離職率	8.13%
転籍・65 歳以上除く離職率	4.64%

【令和 3 年度のトピックス】

- ・法改正に伴い、「就業規則」「服務規律・賞罰規程」「育児・介護休業等に関する規程」の改定をした。
- ・正職員 A・正職員 B・パートタイマーの等級表を変更し、全面的に給与体系の見直しを行なった。業務内容が同じでフルタイムでの勤務をする職員はすべて「正職員」（本人の働き方によって A・B の区分あり）とし、フルタイムの非正規雇用者を廃止した。（ただし、60 歳以上を除く。）職種手当・資格手当・家族手当・役職手当等はパートタイマーを含め均等待遇とした。
- ・給与体系と人事考課がリンクした人事制度の再構築を目標に、SFG 各部門・職種の業務プロセスを洗い出し、令和 4 年度の人事制度稼働に向けて人事考課内規の整備を実施した。
- ・介護保険改定に対応し、各拠点における事業継続計画書（BCP）を策定した。
- ・コロナの影響を受け、介護技能実習生の新規受け入れはなかった。

訪問実績



7. 部門別実績報告 博友会

栄養サービスグループ

鈴木 真弓

【令和3年度部門方針】

- ① 各関係機関との連携により新規利用者確保による収入・利益の安定を図る
- ② 365日3食、個人対応での食事の提供およびご利用者様ご家族様との信頼関係を構築し、自立支援への対応を図る
- ③ ひとり一人の生産性向上のために職員の資質の向上に努めながら、職員ひとり一人が自身の未来図を描くことができるよう応援する

【令和3年度のトピックス】

介護報酬改定により、博友会全事業所の通所のご利用者様全員の栄養ケアマネジメントに取り組み、口腔・リハビリ・栄養で連携をとり、低栄養予防・改善に努めました。また、入所では週3回の管理栄養士によるミールラウンド、毎月1回の歯科医師・歯科衛生士・介護士・看護師やその他職種の方々と一緒に入所ご利用者様のミールラウンドを実施しました。ミールラウンドでは、多職種でご利用者様の昼食の摂取状況を確認しながら、嚥下の確認、義歯の確認をすることで、食事摂取の方法を変更したり、食事形態をアップすることができたりと、より多くご利用者様の希望を取り入れることができました。

【実績】

令和3年度の博友会全体の食事提供数は、263,599食で1日平均722食でした。

目標達成に向けての取り組みとしまして、年2回の嗜好調査を毎年継続して行っており、嗜好調査の結果をもとに、食材の切り方の変更や調理方法の検討や味付けの好みなどを科内や多職種の方々と検討し、常に食の質の向上に努めてまいりました。

月1回のお楽しみ献立は、ご利用者様も楽しみにされており、食事委員会にてリクエスト献立を調査し、ご利用者様が望まれたメニューを提供することが出来ました。その他、季節の行事に沿ったバイキングを実施し、食事から季節を感じていただくことも出来ました。ご利用者様へのバースデーケーキ、バースデーカードの提供は、毎年恒例となり、楽しい食事のひとつとして実施しております。

在宅支援の栄養サポートとしては、御前山フロイデガルテンから常陸大宮市と那須烏山市の委託事業による配食サービスを実施しており、常陸大宮市以外の地域への配食サービスも行っております。サポートセンター城里からは、城里町への配食サービスを提供しております。令和3年度配食提供数は、御前山・城里合計36,915食で1日平均101食の食事をご自宅へ届けていることになります。また、運転手と連携をとり配達時に安否確認を実施していま

す。遠方にすむご家族様が安否確認を電話ですることでもできますが、配食サービスでは、直接会って会話をして確認することができますので、普段との様子の違いや、体調不良等にも気づくことができました。不在の際や体調不良の際など、離れていてすぐに確認ができないご家族様へ情報を提供することで、早急な対応をすることができ、ご家族様からも感謝の言葉をいただきました。お一人暮らしのかたでも、ご家族様が安心して暮らしていけるよう、地域の方々の栄養サポートとして治療食にも力を入れ、QOLの向上、安否確認につとめ、今後もケアマネージャー、地域包括支援センター、在宅介護支援センターと協力しより多くの方に配食サービスを利用して頂きたいと考えております。

今後も姉妹法人である医療法人博仁会と情報交換・連携を強化していきながら、ご利用者様一人ひとりに合った美味しい食事を提供できるよう努めていきたいと思ひます。

令和3年度 バイキング実施報告書

4月	お花見	アサリの桜ごはん、さわらの野菜梅あんかけ、里芋の豆乳味噌煮、菜の花のお浸し、春キャベツの塩昆布漬け、かきたますまし汁、牛肉とアスパラのバター醤油炒め、レアチーズムースいちご
5月	子供の日	天ぷらそば、卵豆腐あんかけ、マリネサラダ、赤飯稲荷寿司、甘酢ガリ、水まんじゅう
6月	GH桂リクエスト	けんちんうどん、白菜のかにあん、ポテトサラダ、たけのこご飯、ミルクレープ
7月	七夕	七夕そうめん、なすの煮浸し、エビとブロッコリーのサラダ、かつおのとろろのせ、七夕ゼリー
8月	スタミナ強化	ねぎ塩豚丼、揚げ出し豆腐、モロヘイヤの和え物、ウリの塩キムチ漬け、夏野菜スープ、あじのスタミナ焼き、パパロア桃ソースかけ
9月	お月見	栗入り混ぜご飯、カレーのフリッター、里芋とこんにゃくの煮物、サーモンのマリネサラダ、きゅうりの塩昆布漬け、すいとん汁、お月見つくね、お月見大福
10月	秋の味覚	きのこの卵とじそば、レンコンと銀杏の煮物、さつまいもとリンゴのサラダ、さんまの竜田揚げおろしポン酢かけ、モンブラン
11月	茨城の特産	奥久慈丼、さつまいものバター醤油煮、梅サラダ、白菜の柚子胡椒漬け、けんちん汁、れんこんの五目揚げ、アップルパイ
12月	友部リクエスト	レタスチャーハン、大根ときのこのピリ辛炒め、クリスマスサラダ、サーモンフライ、コンソメスープ、ミルクゼリーフルーツのせ
1月	イタリアン	サフランライス、ハーブチキン、マリネサラダ、野菜のトマト煮、ポトフ風コンソメスープ、シーフードグラタン、ティラミス
2月	節分	太巻き、筑前煮、節分豆サラダ、甘酢ガリ、清まし汁、いちごパパロア、いわしの梅煮
3月	ひなまつり	彩り散らし寿司、きのこアスパラガスのサラダ、ふきと筍のピリ辛炒め、とり天、はまぐりの清まし汁、かぶの塩昆布漬け、葛饅頭桜

7. 部門別実績報告 博友会

御前山フロイデガルテン

仲田 竜一

【概要】

フロイデガルテンとは、ドイツ語でフロイデは喜び・楽しみ・嬉しさ・愉快、そしてガルテンは庭・庭園等を意味します。私たちは、草花が咲き誇る庭があり、多くの友達がいて、自分らしく生きがいを持ち、喜び・楽しみ・嬉しさ・微笑みの中で生活が送れる施設を目指しています。

ご利用者様を中心に、介護者が寄り添い、個性に応じた対応の元で、いつもの生活・自然な感情等を大切にし、職員ひとりひとりが心をこめて、当たり前の毎日を支え、応援していきたいと考えております。

人員配置	施設長（管理者）	1 名
	介護職員	18名以上
	生活相談員	1 名
	看護職員	2 名以上
	機能訓練指導員	1 名
	介護支援専門員	1 名
	管理栄養士	2 名
	医師（非常勤）	2 名
	歯科衛生士	1 名

- (3) 業務内容、職場環境の改善による生産性向上
→業務完全提案書年間 53 件提出 見守り
ベッドセンサーシステム導入

【実績】

特養入所	年間目標：18,250 床 年間実績：17,526 床 達成率：96.0%
ショートステイ	年間目標：3,650 床 年間実績：4,246 床 達成率：116.3%

特養・ショート合計	年間目標：21,900 床 年間実績：21,772 床 達成率：99.4%
-----------	---

【業務内容】

< 指定介護老人福祉施設 >（定員 50 名）

寝たきりや認知症などで、常時介護が必要な状況であっても自宅で十分な介護を受けることが困難な要介護者（原則要介護 3 以上）に対し、快適な生活環境の提供を行い、日常生活のお手伝いをします。

< ショートステイ >（定員 10 名）

在宅で要介護者を介護しているご家族様が、旅行や外出等で不在になる際や、自宅での介護に疲れた時等に、短期間施設に入所し、食事・入浴・排泄等の介護サービスを提供します。

【目標】

- (1) ニーズに即した終末期ケアの提供
→医師を交えた家族面談実施、終末期ケア 14 件実施
- (2) ご利用者様の健康維持による入院者数の削減
→他部署との連絡ツールとして情報共有会議の活用し迅速に対応

7. 部門別実績報告 博友会

御前山デイサービスセンター

森 達也

【概要】

令和3年度も世界的に新型コロナウイルスの蔓延が治まりませんでした。感染症対策を継続して行った事により、クラスター発生なく事業所運営をすることができました。

【実績】

御前山デイサービスセンターでは、令和3年度も昨年に引き続き「リハビリ機能強化型デイサービス」としての運営を行い、登録者約100名の方々の身体機能や生活機能の向上を行う事で、住み慣れた地域、在宅での生活を可能な限り長く続けて頂けるよう支援して参りました。また、「常陸大宮市 介護予防・日常生活支援総合事業」では、介護予防対象者の登録者約7名の方の介護予防を図り介護が必要にならない体づくりを目指し、これまでに蓄積したリハビリ機能強化型デイのノウハウを活かして常陸大宮市の介護予防事業運営への生きがいづくり・仕掛けづくり準備にも注力してまいりました。令和3年度の部門目標は、10,657件で部門実績が、10,779件。達成率は、101.1%となっております。

【人材育成及び地域活動】

人材育成の部分では、資格取得者が2名おり、それぞれ社会福祉士、介護福祉士の国家資格取得に成功しております。

地域活動では「御前山ダムを歩こうかい」と共同で「ミニ産直市」を開催し、地域住民が集まる場を作ると共に、地元農家さんが出店できる機会を作り地元で経済が循環するシステムを作りました。また、「café fun garden」の開催をし、コロナ禍において外食をためらってしまう今、おいしいご飯の提供を提供する事で、地域住民の方の新たな楽しみの一つとして企画いたしました。「常陸牛バーガー」と「ロコモコ丼」の2種類をご用意し、テイクアウト及び配達を実施し、144食売り上げました。

新型コロナウイルスの感染拡大の中、社会保障制度や社会情勢が変化しておりますので、正確な情報をいち早くキャッチし、適切な対策・情報を共有することで、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様から選ばれるサービスと安心して暮らせる地域づくりを目標に今後も取り組んでまいります。

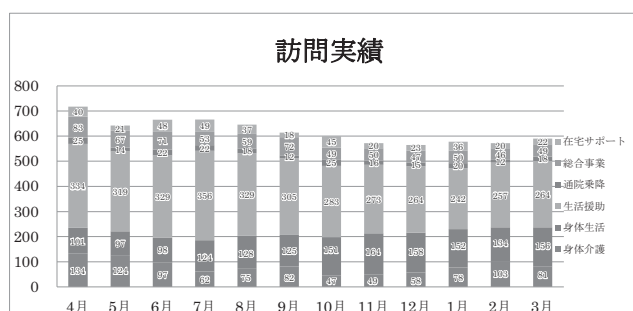
7. 部門別実績報告 博友会 ごぜんやまホームヘルプステーション

係長 皆川 あゆみ

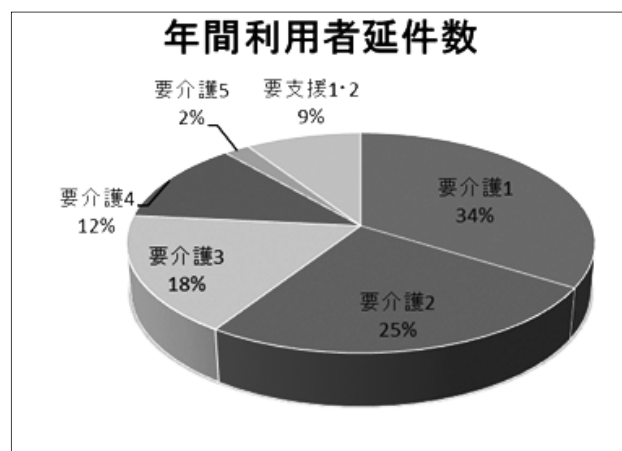
○事業目標

- (1) 「自立支援」を目的とした専門性の高いサービスの提供
- (2) 柔軟な対応と質の高いケアの提供
- (3) ニーズに対応する個別ケアの充実

○利用者月別数



○介護度別利用者（件）



* 在宅サポート（379件）

令和3年度は、前記の目標を上げ、自立支援を目的としたサービスの提供を行うため、利用者の心身の状況や希望を踏まえつつ、安心して在宅生活が継続できるように支援して参りました。関係機関との連携を行い、情報共有を密に行ってきました。利用者への迅速な対応を行い、利用者や家族からの希望に沿ったサービスを行うことが出来ました。アンケートでは利用者及び各事業所からの良い評価をいただくことも出来ました。また、介護保険サービス以外の在宅サポートをはじめたことにより、ご利用

者様のニーズに対応できるサービスが提供できました。医療法人博仁会おおみやホームヘルプステーションとの連携を強化し、担当地域を明確にするなど利用者の受入れ調整等を行うことでより業務の効率化を図り、新規利用者獲得に繋げてまいりました。さらに ICT の活用により情報共有による連携がさらに強化し、サービスの質の向上や、利用者様との信頼関係も深められました。

【目標】

1. 「自立支援」に向けた視点を学び、援助提供に活かす
 - ・「見守り援助」の視点を学び、利用者様の状況を踏まえた自立支援や身体的機能の低下予防にどのようなつながっているのかを理解した上で、自立支援に向けた援助を提供する。
2. 関係機関との連携強化による在宅生活継続の維持
 - ・少しでも長く在宅生活を継続する為に、日常生活における健康面、精神面を安定させることや、小さな変化に気づき、関係機関へ情報提供し連携を強化していく。
3. 変化する利用者ニーズに対応する個別ケアの充実
 - ・こまめなカンファレンスを行い、個々人に合わせた計画書を作成し、計画に沿ったサービスの提供に努める。

7. 部門別実績報告 博友会 ごぜんやま訪問入浴サービスセンター

平山 龍一

ごぜんやま訪問入浴サービスセンターでは、常陸大宮市を中心に在宅で生活される方に対し健康促進、清潔保持を目的とし安心して在宅生活が送れるよう支援して参りました。訪問時にはご利用者様お一人おひとりの身体状況確認を行い入浴支援、医療処置が必要な方には処置等の対応を行っております。また訪問入浴サービス提供にあたり地域の介護支援専門員や医療機関など関係機関との連携を強化し、『住み慣れた自宅で過ごしたい』と、ご本人様やご家族様の強いご希望であるターミナルケアのひとつとして『体のケア』だけでなく精神的負担の軽減が少しでも図れるよう『心のケア』も重視したサービスを提供して参りました。

令和3年度の訪問利用者件数は1296件で、目標達成比率は111%という結果となりました。今後も令和3年度以上にエリアを配慮した予定の管理を徹底し、ニーズのあるご利用者様の受入れを行って参ります。また、ご利用者様の介護度をみてみると、要介護4、要介護5が80%近くとなっており在宅生活者にとって訪問入浴の役割は重要な位置を占めています。(資料1)

また地域別でみてみると県内は常陸大宮市、城里町を中心に栃木県は那須烏山市と栃木県南東部までとサービスエリアを展開し、地域別訪問予定調整を行い、効率よくサービスを提供出来るように努めてきました。(資料2)

引き続きお一人おひとりにあった介護サービスを提供し、介護者される方の身体的・精神的負担の軽減が図れるように、また、身体の清潔保持、心身機能及びQOLの維持・向上を図るためにも、介護技術と質の向上を図ることにより、選ばれる事業所となれるよう日々の業務に取り組んで参ります。

また今後も介護支援専門員を中心とした他職種間との連携を図り、ご利用者様やご家族様が引き続き住み慣れた環境で安心して生活できるよう支援して参ります。

(資料1) 要介護度別利用者数

介護度	件数
要介護1	7件
要介護2	188件
要介護3	70件
要介護4	428件
要介護5	531件
要支援	13件
障害枠	59件
合計	1296件

(資料2) 地域別利用者数

市町村名	件数
常陸大宮市	1018件
城里町	122件
水戸市	6件
常陸太田市	10件
那須烏山市	111件
那珂川町	29件
合計	1296件

7. 部門別実績報告 博友会 在宅介護支援センターごぜんやま

相談員 佐藤 瑛里奈

【概要】

在宅介護支援センターごぜんやまは、常陸大宮市より委託を受けて、高齢者福祉の相談、介護予防事業を実施しています。担当地域は旧御前山中学校区です。

【業務内容】

- (1) 一般介護予防事業及び高齢者福祉事業
 - ① 介護予防把握事業（独居・高齢者世帯、予防事業対象者等の実態把握）
 - ② 介護予防普及啓発事業（リーフレット配布）
 - ③ 地域介護予防活動支援事業（介護予防教室「運動教室あつまーれー」開催支援、地域サロンの立ち上げ、開催支援）
 - ④ 緊急通報システム事業
 - ⑤ 高齢者見守り安否確認事業
- (2) 包括的支援事業
 - ① 総合相談
 - ② 緊急通報システム管理
 - ③ 申請代行手続き
 - ④ 生活支援体制整備事業（協議体活動への参加、情報交換）
- (3) 高齢者等世帯ごみ出し実態調査事業

【目標】

- ・市の委託事業契約に従い業務を遂行する
- ・地域の高齢者を含む対象者が地域で安心して生活できるよう、行政や地域包括支援センター等の関係機関と協力し合い、包括的に支援を行う
- ・民生委員を含む地域住民と連携を図りながら、地域の窓口としての役割を果たす

【実績】

- ・介護予防把握事業（高齢者実態把握） 実人数 127 名（延べ件数 157 件）
- ・介護予防普及啓発事業（リーフレット配布等、普及啓発活動） 実施回数 10 回
- ・介護予防普及啓発事業（脳トレプリント配布等、地域サロン支援） 実施回数 23 回
- ・地域介護予防活動支援事業 参加延べ人数 253 名
- ・あつまーれー開催支援 2 地域
- ・地域サロン開催支援 2 地域
- ・高齢者見守り安否確認事業 実人数 96 名（延べ件数 971 件）

- ・総合相談 実件数 117 件
- ・緊急通報システム管理 設置件数 54 件
- ・申請代行手続き 実件数 22 件
- ・生活支援体制整備事業（協議体への参加、広報誌配布） 実施回数 7 回
- ・高齢者等世帯ごみ出し実態調査事業 調査数 2 件

【トピックス】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のために活動を中止していた地域サロンに対して、継続して再開支援を行いました。
- ・感染防止策を徹底し、介護予防教室「運動教室あつまーれー」を2地域で開催できました。
- ・新たに高齢者等世帯ごみ出し実態調査事業の委託を受け、独居でごみ出しが困難な方の状況調査を行いました。



「運動教室あつまーれー」（野口平地区）の様子



「運動教室あつまーれー」（野田地区）の様子

7. 部門別実績報告 博友会

ごぜんやま総合ケアプランセンター

係長 佐藤 信也

居宅介護支援事業所とは

在宅の要援護者が適切に介護サービスを利用できるよう、ケアマネージャー（介護支援専門員）が在籍し、要介護認定の申請のお手伝いや利用者（要支援、要介護認定者）の居宅サービス計画（ケアプラン）を利用者や家族の立場になって作成をお手伝いいたします。各相談手続は無料です。まずはご相談下さい。

ケアマネージャーの役割

要支援、要介護認定を受けた方からの相談を受け、利用者様の心身の状況や置かれている環境に応じた居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、サービス事業者や関係機関との連絡調整等を取りまとめます。

ケアプランとは

要支援、要介護に認定された方のご希望に沿った介護サービスを利用できるように、必要性和利用限度額や回数に基いて作成される介護サービスの計画です。自分でも作成できますが、依頼頂ければケアマネージャーが作成します。

サービスの流れ

① 要介護認定

○介護保険を利用するために必要な認定です。申請のお手伝いをします。

② ニーズの把握

○要介護認定により介護度1～介護度5となった方を対象にケアマネージャーがご自宅を訪問し利用者様やご家族の状況、ご希望を把握いたします。

③ ケアプランの作成

○利用者様やご家族と相談しながらケアプランを作成します。

④ サービス担当者会議

⑤ サービス事業者との契約

○利用者様は利用する各サービス事業者との契約が必要となります。

⑥ サービス利用スタート

以下のような居宅サービスがご利用できます。
訪問入浴、訪問介護、訪問看護、通所介護（デイサー

ビス）、通所リハビリテーション短期入所療養介護（ショートステイ）、福祉用具レンタルなど

今年度の事業実績と活動報告

- ①医療との連携強化
- ②自立支援に資するケアマネジメントの実践
- ③ケアマネージャーとしての地域連携・資質の向上

実績

新規利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	7	5	5	5	6	10	9	8	3	10	7	6	92

年間実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度実績	279	281	279	278	279	282	285	288	286	278	270	274	3,228

要介護度状況（年間総数）

介護度	総合事業	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	11	77	258	1,150	933	421	381	128	3,228

活動報告

- ①医療と介護の連携強化に関しましては、入院先に対し速やかに情報提供書を作成し提出を行いました。
- ②昨年度はコロナウイルス感染拡大防止の為、集合研修がほぼ中止となりましたが、オンラインでの研修に参加することで知識を高め、ケアマネジメントに関する質の向上を図りました。
- ③行政機関及び医療機関、常陸大宮市北部・南部地域包括支援センターと円滑な業務が図れるよう努力して参りました。

7. 部門別実績報告 博友会

フロイデグループホーム桂

笹崎 圭太

令和3年度のグループホーム桂は、管理者が変わって新体制での1年となりました。

開設18年目となり、地域住民の皆様や城里町行政、地域包括支援センター、関係各所の皆様のご協力を頂きながら、城里町唯一のグループホームとして運営して参りました。1年間安定した運営をできたのは、ひとえに地域の皆様のご理解とご助力のおかげであると思います。感謝申し上げます。

次に地域のニーズの把握として運営推進会議を開催し、城里町行政、地域包括支援センター、地域住民代表、ご家族様代表、小規模多機能ホーム城里と積極的に意見交換を予定しておりました。しかしながら、コロナの影響により緊急事態宣言の中、思うように開催実施できなかったのが現状です。

また、昨年同様に沢山小学校の運動会、11月に予定していた、しろさと町民まつりもコロナの影響により中止を余儀なくされてしまいました。事業所

としてのイベントは毎月開催し、屋内での活動、もしくは散歩など、外出の機会は減ってしまいました。令和3年度も利用者様が楽しく喜んでいただけるようなイベントを計画・開催したいと考えております。

最後に地域における認知症介護の専門施設として役割を果たすために職員教育にも力を入れております。利用者様の緊急時備えるため特定行為従事者研修に2名が参加され資格取得。認知症実践者研修に1名参加資格取得しております。看取り介護についても、知識と役割りを学ぶため事業所内にて勉強会を開催しました。次年度は、看取り介護について体制構築と準備をすすめていきたいと考えております。実績としましては達成率96.2%となりました。来年度は目標達成できるように努力して参ります。

ご利用者様がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らして頂くため、グループホーム桂全職員で認知症ケアの知識・技術の向上・質の向上を図っていききたいと考えております。

7. 部門別実績報告 博友会 フロイデ総合在宅サポートセンター美和

主任 宮田 匠

【概要】

フロイデ総合在宅サポートセンター美和は、平成17年7月に開設し、日頃から地域の皆様に支えられながら無事17年目を迎えることができ、感謝しております。これからも鷺子地区において必要とされる施設そして地域の皆様に愛される施設を目指して今後も取り組んでいく所存であります。

【実績】

美和デイサービスセンターでは、令和3年度の目標として、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにをモットーに、ご利用者様一人一人のニーズに合わせたサービス内容を立案し、提供して参りました。職員の接遇、スキルアップに関しましては、法人主催の接遇研修への参加及び、部門内の疾患別勉強会などを他職種間で知識を共有し質の高いサービス提供に努めました。令和3年度もコロナ禍ということで感染対策にも徹底して取り組み感染者0名を達成しております。また、自立支援、自己決定能力の向上の為、様々なアクティビティー活動を提供し、地域の文化祭へ出展、成果を出し、道の駅北斗星には作品の展示販売を継続するなど、生きがい作りの一環として、ご利用者様の満足度に貢献致しました。この後も活動を継続し、発展させていく所存で御座います。

グループホーム美和では、地域密着型施設として地域住民の方や地域包括支援センター、常陸大宮市社会福祉協議会、居宅支援事業所との連携強化を図って参りました。隔月で開催される運営推進会議におきましては、感染症蔓延防止の観点から、地域行政、地域住民代表、地域包括支援センター等との情報・意見交換に感染拡大時は電話等を使用し、認知症対応型施設としての役割を果たすことができました。また、地域の方々によるサポーター活動として施設外周の除草作業や、各地区における認知症に関する勉強会の開催など地域との交流の確立も図ってまいりました。また、常陸大宮市グループホーム連絡協議会へ参加し、同市内のグループホームとの意見交換などを行い、認知症対応型施設として常にスキルアップを図り地域における認知症への理解度向上に少しでも貢献できるよう努めてまいりました。



令和3年度の目標達成状況としてデイサービス達成率は98.4%、グループホーム美和達成率は98.0%に留まりました。この結果を重く受け止め次年度は新規者の獲得、病院との入退院連携を密に図り、目標達成に向けて取り組んでまいります。

最後に、来年度は積極的に地域行事へ参加し、地域の皆様にご利用頂きやすく、安心して大切なご家族様を任せていただける施設を目指し、PDCAサイクルを活用した一人一人が自分らしく日常生活を送っていただける場所の確立に努力していく所存です。

7. 部門別実績報告 博友会 フロイデ総合在宅サポートセンター城里

黒澤 貴明

【概要】

令和3年度フロイデ総合在宅サポートセンター城里は、『ケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進』『介護保険制度改定におけるLIFEデータ提出及びフィードバック活用の実践』『業務の効率化と人材育成 LIFEDデータ提出に伴う業務の効率化と補助金を活用した機器の導入』という部門方針のもと実践いたしました。

【取り組み】

地域包括ケアシステムの推進といたしましては、地域住民を対象とした「オレンジカフェ」（認知症カフェ）や「健康教室」の開催、地域高齢者クラブへの健康運動実践指導者派遣等を行い地域の方との関係構築に努めました。

人材育成・教育への取り組みとしまして、毎月の事業所内勉強会の他、各種研修会へ積極的に参加し専門職としての知識・技術の向上を図りました。

城里デイサービスセンターでは令和3年4月に事業所よりコロナウイルス感染者が発生してしまいましたが、感染予防対策の徹底と見直しによりその後の発生を防ぐことが出来ております。サービス面においてリハビリ機能に特化し、理学療法士や健康運動実践指導者など専門スタッフを中心に、軽度者から中重度者まで、様々な運動をサービスに取り入れ、ご利用者様の在宅でのサポートに繋がる活動を行って参りました。年間利用者総数 9,038 名（達成率 87.0%）の実績でした。

小規模多機能ホーム城里ではご利用者様の多彩なニーズに対応できるようご本人様だけではなくご家族の皆様とも連携を図り、一人ひとりに合ったサービスの提供を行いました。地域の医療機関や城里町の地域包括支援センターなどへ広報活動を行い、小規模多機能の通い・泊まり・訪問の3つを組み合わせた在宅復帰・在宅支援サービスについて改めてご理解をいただき、新規ご利用者様の獲得に努めました。年間利用者総数は 10,221 名（達成率 96.6%）で前年度を上回る実績を達成することが出来ました。

しろさと配食センターの年間配食数は、4,206 件（達成率 104.6%）でした。今後にご利用者様一人ひとりの食事形態に合わせた食事を提供し、ご自宅でいつまでも安心して過ごしていただけるように、栄養満点のおいしい食事を届けていけるよう努めて参

ります。

今年度も新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、安心してご利用していただける事業所作りと職場内環境の見直しや改善による働きやすい事業所作りに努め、目標達成に向けて職員一丸となって取り組んで参ります。



健康運動実践指導者派遣



地域住民向け健康教室

7. 部門別実績報告 博友会 フロイデ工房しるさと

清水 良則

令和3年度におきましても、就労支援施設として、就労移行支援事業、就労継続支援B型事業のサービスを提供させていただきました。

就労移行支援事業においては、就職の実現を最大の目標に、就労に必要なスキル獲得に向けた様々な作業活動を実施しました。就職活動においては、ハローワーク、障害者就業・生活支援センターなど関係機関との連携も図りながら、就職に関する情報の収集に努めましたが、新型コロナウイルスの影響が非常に大きく、一般の失業者の増加、雇用者の激減もあって、障害者雇用においての求人数は前年の2割程度、国の緊急事態宣言に伴い面接の延期や中止が著しく続き、更に厳しい状況の1年でした。御利用者様にはコロナ対策を講じたうえで、常に就労に向けたスキル獲得の支援活動の一環として実施している作業活動や同様法人内部からの委託作業を中心に、ラスクの生産販売や一般企業から内職作業、官庁から環境美化作業を受注し実施しました。作業の種類を増やすことで御利用される方のスキルに合わせて作業活動実施していただけるよう、職業準備性を高めております。

就労継続支援B型事業においてもご利用される方の就職の実現は大きな目標ですが、事業者にはより多くの工賃の支払いと、一般就労が困難な方の働く場所の提供も大きな役割として求められております。このため作業内容や作業量の確保も重要な課題であり内部作業だけでなく外部委託作業の受注にも努めました。企業から求められる精度や量、納期限など安定した作業を実施したことにより、取引先からの信頼を獲得し作業委託量を増やし作業収入の増額を実現しております。

新規の御利用者様は生活保護受給者の割合が多くなっております。社会経験をお持ちの方のため、将来の生活を安定していただく為に、まずは安定した利用を提案し、自身を持って社会復帰が出来るように支援し、他の御利用者さまにおきましても専門性をさらに向上させ、質の高い就労支援サービスの提供に努めます。

安定した御利用をしていただき、就職者の輩出、新規利用の増加、外注作業の増加に引き続いて努めて参りたいと思います。

7. 部門別実績報告 博友会

大宮フロイデドルフ

五十嵐 信

【概要】

大宮フロイデドルフは、開設から10年を迎え、様々な取り組みを実現すべく計画を進めておりましたが、新型コロナウイルスの蔓延に伴い、昨年同様、これまで経験したことのない対応を迫られた一年となりました。これにより、今まで以上にご利用者様ならびにご家族様に我慢をお願いする事態となり、この場をお借りしてお詫び申し上げるとともに、施設対応へのご理解に対して感謝をお伝えしたいと思います。

【目標と実績】

① 「コロナ禍においても地域のニーズに応える受け入れ体制の構築」

コロナ禍においても地域で介護を必要とされるご利用者様に対して積極的な受け入れと対応を行うことにより地域で必要とされる役割を担う。

→ 入所 目標延人数 10585 件に対し、実績 10462 件 (98.8%)
ショートステイ 目標延人数 7300 件に対し、実績 7114 件 (97.4%)

② 「外国人技能実習生に適切な指導を行い、自立した介護職員に育てる」

外国人技能実習生の指導を継続的に実施し、介護職員として自立できるような技術と知識の習得及び習熟を図る。

→ 技能実習評価試験（専門級）：3 名合格
技能実習評価試験（初級）：1 名合格

③ 「組織教育体制に合わせた教育計画を見直し、実践的な運用を行う」

法人の職員教育体制に基づいた教育計画を事業所として実現し、個々の職員教育に効果を得ていく。

実践的な運用の効果を測定するために計画的な評価を実施、改善する。

→ 介護部 介護職員初任研修を8月から開始。
今年度は2回実施（全12回の研修）

④ 「終末期の対応を円滑に行い、ご利用者様の安心の構築を図る」

終末期対応施設としての役割を担うために、入所系ユニット内での継続的な職員教育の実施、ショートステイユニットでは入所時の対応につながる意向確認として家族面談を実施する。

→ 入所の利用者様 29 名に対し、家族面談を行

い意向確認する。（ショートステイ 利用者様については電話での意向確認実施）

入所の利用者様 2 名、ショートステイ利用者様 2 名の終末期介護を実施する。

【次年度にむけて】

次年度も新型コロナウイルスによる影響が少なからず出てくると思われます。しかし大宮フロイデドルフにおいては感染対策を徹底し、クラスター発生が無いように、全職員で取り組んでいきたいと思いをします。

そしてご利用者様、ご家族の皆様、地域住民の皆様に信頼され、愛される施設となるように、一層、安心安全な生活の提供、職員教育の充実、福祉機器（インカム、見守りセンサー等）導入による業務の効率化を推進してまいります。

7. 部門別実績報告 博友会 フロイデ総合在宅サポートセンター友部

山本 良

【概要】

フロイデ総合在宅サポートセンター友部は志村大宮病院回復期リハビリ病棟「スイス館」の笠間サテライトとしてリハビリ機能強化型デイサービスを9年前に開設。

その後、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護とサービス付き高齢者向け住宅を開設。令和3年度には定期巡回・随時対応型訪問介護看護を新規立ち上げたことで介護予防をはじめ、リハビリニーズの高いご利用者様や医療依存度の高いご利用者様まで幅広く満足いくサービス提供体制の構築に日々努めている。

【令和3年度の部門目標と取り組み】

- ① フロイデケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進
- ② 介護保険制度改定における、LIFE データ提出及びフィードバックの活用の実践
- ③ 業務の効率化と人材育成

三つの目標を掲げ、当事業所もケアタウン友部として地域への浸透と関係づくりを念頭に置き、部門目標を実践して参りました。

介護予防・日常生活支援総合事業であるオレンジカフェやフロイデ元気すこやか教室など実施し事業対象者、要支援者へのサービスの機能強化を図りました。また、一般介護予防事業であるわくわく脳元気教室も継続委託となり、地域の一般高齢者の介護予防支援についても体制が構築されました。今後も更なる連携強化に向けて他医療機関・他事業所とのネットワーク作りを推進して参ります。

LIFE データの提出によるフィードバックで、よりよい改善が図れるよう計画書等に反映することから始めております。

スタッフ教育では、認知症実践者研修や喀痰吸引研修等に参加しスキルアップを図っております。今後は地域住民との関係性を深めフロイデサポーターを養成できるよう努め、健康や生活習慣病などの悩みから介護・看護・生活相談などを共有できる事業所体制を構築し、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担っていきたいと考えております。

【実績】

令和3年度の目標達成状況としてサービス提供件数(延べ数)目標はフロイデ友部デイサービスセンターの達成率は103.5%と目標を達成することができました。看護小規模多機能ホーム友部が目標達成率95.2%、フロイデともべ訪問看護ステーションが109.6%、フロイデアシストハウス友部が目標達成率99.9%、フロイデ定期巡回サービスが41.7%の結果となりましたので次年度は実績を確保し運営の安定化を図っていきたいと考えます。

7. 部門別実績報告 博友会

フロイデアシストハウス大宮

井坂 直人

【運営方針】

入居者様が安心して過ごすことができる環境提供、生きがい、楽しみをもち生活できるよう支援して参ります。また、他職種、関係機関との連携を強化し必要に応じ、福祉サービス等を円滑に利用できるよう生活の助長、社会的孤独感の解消、心身機能向上を図り生活して頂けるよう努めて参ります。

【令和3年度部門目標】

① 関係機関と連携を強化し安定した事業運営満床状態の維持と居宅介護支援事業所、関係機関への営業を強化し新規者、入居待機者を確保するとともに、収益確保の為の自費活動の充実化を図っていく。

② いきがいづくりに繋がる環境整備と地域との信頼関係の構築

入居者様が楽しみをもち生活できるよう季節に合わせた催し物や活動が活発にできる環境の整備を行っていく。また地域の行事や交流をもてる場に入居者様と参加し交流を図っていくとともに、災害時など自力で避難が困難な入居者様のバックアップ体制づくりを推進できるよう事業所として地域との関わりをもち信頼関係を構築していく。

③ 資質の向上と各職員のスキルアップ

法人内外の研修会等に参加し各職員の知識向上を図るとともに、日々の業務改善を行い、質の向上を図っていく。また入居者様が自室へこもりきりにならないよう、共有スペースの有効活用、環境整備を行っていく。

【令和3年度活動報告】

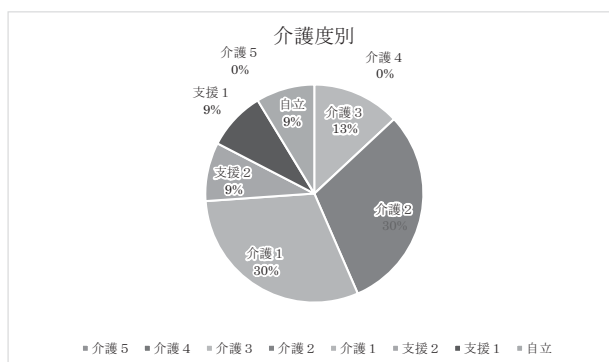
令和3年度は、上記の3つの部門目標を掲げ活動して参りました。事業実績は目標（満室）を目標に稼働率96%でした。

入居者様に関しては70歳代から90歳代と幅広い御年代、介護度別では自立から介護3の方が入居されております。（資料1）地域別では常陸大宮市内、隣接市町村、県外からの入居者様が入居されており（資料2）、入居理由としては退院後、独居生活に不安がある方や近親者の方が近隣に住所があり、近くに住まいを探されている方などです。入居されているなかで介護が必要な方には一人ひとりに合った介護保険サービスの提案と状態等に変化があった際は関係機関と連携、連絡調整を行い、安心して生活で

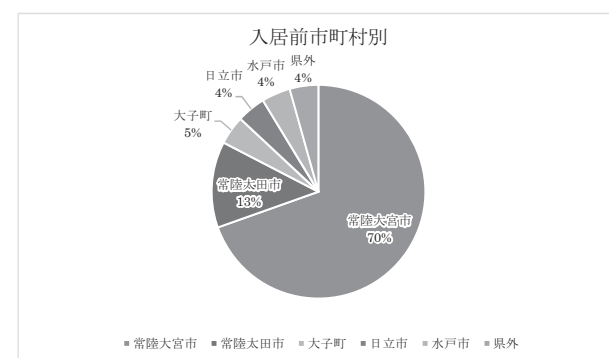
きるよう対応して参りました。生活環境面では今年度は事業所内に介護用品から生活用品、軽飲食物の販売コーナーを設置し気軽に生活用品の購入ができるよう環境整備を行いました。また、入居者様の外出支援など感染症対策を行いながら必要に応じ対応させて頂きました。

今後も入居者様が「安心」「快適」「楽しみをもって」生活が送れるよう関係機関との連携を強化しサービスの提供、支援して参ります。また個々に合わせたサービスの提案、提供、職員の質の向上を図るとともに、より一層、地域との関りを大切にして地域との信頼関係の構築ができるよう努めて参ります。

資料1（介護度別）



資料2（入居前市町村別）



7. 部門別実績報告 博友会 フロイデ工房なか

吉川 裕子

平成 29 年 4 月に新規事業所として那珂市菅谷に就労継続支援事業 B 型事業「フロイデ工房なか」と児童発達支援事業「ロッチェなか」を同時に開設、平成 31 年 3 月には放課後等デイサービスを追加認可いただき、運営して 3 年が経過した多機能型事業所です。

「フロイデ工房なか」は、就労継続支援 B 型のサービスを提供しております。

開設当時から定員 10 名での安定した御利用をいただいております。

継続支援 B 型事業につきましても、就労移行支援事業と同様、ご利用される方の就職の実現は大きな目標ですが、新型コロナウイルスの影響により就職活動は縮小、障害者雇用は非常に厳しい年度となりました。併せて私達事業所に対してはより多くの工賃の支払い、一般就労が困難な方へ、働く場所も大きな役割として求められております。このた

め作業種類、作業量の確保も大きな課題でありました。法人内部の環境整備のほか、企業からの委託を受け、菓子袋へのラベルシール貼りや、電動工具の部品の袋詰めなどの作業のほか、本年度は官公庁より樹木伐採・剪定・除草作業を新たに受注し、年間を通して安定した作業ができたこと、ほとんどの方が欠席することなく、結果として、平均工賃が月額 2 万円を超えることが出来ております。

コロナウィルスの影響により、若干の変更がありますが、過去同様に前年度の工賃の平均月額により段階的に加算が区分され、より多くの工賃を支払った事業所が収益を確保でき評価されているため、今後もより多くの工賃の支払いが可能となるよう「フロイデ工房しろさと」と連携し、効率的作業の実施、作業量の確保、利用率維持に努めるとともに、ご利用される方の就労スキルの向上と就職の実現を目標に取り組んで参ります。

7. 部門別実績報告 博友会 ロッチェなか

小田部 清枝

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所「ロッチェなか」は平成 29 年 4 月に新規事業所として児童発達支援事業所を開設し 5 年目、放課後等デイサービスは 2 年目、引き続いて就労継続支援 B 型事業「フロイデ工房なか」と併設しての事業運営を行っております。

就学前・小学校・中学校・高等学校に通うお子様を対象に、自立支援と日常生活の充実のための支援を行う事業運営を行っております。社会福祉法人博友会・育成就労支援グループの運営として、未就学時期から就学期、さらに卒業後は就労支援事業まで一環した福祉サービスの提供ができる体制が整いました。

本年度におきましては、新型コロナウイルスの影響により、御利用者様の通う教育機関が長期休業の延長、臨時休園や休校となるなど、日々の状況が目まぐるしく変化する年度で、御利用者様の御家族の心労も大きかったと感じております。そのよう

な状況の中で御家族から信頼いただき、少しでもお役に立てるサービスの提供が出来たことは大変有難いと感じております。年間計画、月案、週案、日案を立案し、季節、慣例行事の実施、イベントの開催、遠足、畑での野菜の栽培収穫、調理など、ご利用されるお子様が様々な体験ができるようプログラムを構成し活動を展開しております。

また、那珂市の障がい者(児)関係の機関と連携し、未就学児の療育訓練支援事業に当施設の作業療法士を派遣、療育訓練のサポートをさせていただいており、令和 4 年度においては、ひたちなか市派遣事業も継続され、開催の増加が計画されております。営業・広報活動も継続し、SNS 等のソーシャルメディアの活用、施設の内覧会を毎月実施し、集客活動に努めております。今後もこれまでの営業活動を強化し、施設での活動をより多くの方に発信して安定した事業の運営に努めて参ります。

8. 各委員会活動報告 博仁会 接遇向上委員会

SFG(志村フロイデグループ)全体活動としてコア6を中心に運営しておりますが、平成27年度に養成しましたインストラクター職員の減少もあり、今年度は法人内でインストラクターが不在の部署を中心に育成に努めました。座学とロールプレイングの実務試験を剣に取り組み26名の新しくインストラクターが誕生しました。サックスカード委員会も2年目を迎え、教育・環境・調査・広報・サックスカード委員会が横の糸で連携しながら活動を展開しております。

ハードとソフトの両面が重要と他部門による毎月の環境パトロールと今年度はコロナウイルス感染の関係で1回の外部審査員の民生委員の方をお願いしてオンラインでの環境美化コンクールを継続しています。

調査委員会では外部の患者様やご利用者様、また職員自身の自己チェックも兼ねたアンケートも継続して実施しております。

広報委員会は、毎月の教育委員会が考えます標語やロールプレイングを広報し、また接遇新聞には、各部署のマイスターの紹介や各部署でのロールプレイングの様子も掲載し、法人全体の取り組みを掲載しています。

良いサービスは善い接遇からとの合言葉で接遇委員会活動を行なっています。

活動実績

【教育委員会】

接遇委員会教育委員では、毎月の接遇標語の作成とロールプレイングの立案を行っております。法人全体での接遇向上のために前年度と同様に接遇向上大会を年3回計画し、『良いサービスは善い接遇から』と全体での意思統一を図りました。

今年度はみだしなみチェックシートの修正を行いました。また、新たに接遇インストラクターの養成を行い、新たに26名の接遇インストラクターが誕生しました。

コロナウィルスの蔓延防止のため、リモートを活用しての接遇研修を実施しました。

1. 接遇向上大会開催

第42回 令和3年6月

※コロナワクチン蔓延防止のため、各部署にて身だしなみのチェックシートを用いて実施

第43回 令和3年10月19日(火)

会場：SC大宮 カフェ「エルマウ」

接遇インストラクター研修

参加者：26名

第44回 令和4年2月25日(金)

会場：ZOOMでの開催

※各部署にてリモートで参加

職員向けアンケートの結果報告

各部署にて作成したロールプレイング発表(8部署)

※コロナウィルス蔓延防止の為、中止

2. 接遇標語・ロールプレイング作成

令和3年4月(No224)～令和4年3月(No236)

【調査委員会】

調査委員では利用者様・ご家族様向けのアンケートによる調査と職員向けのアンケートを行い、接遇の状況を確認し、報告させて頂いています。

日々の接遇向上に向けての取り組みができているのかを確認しながら接遇向上に努めていきます。

1. 令和3年 7月 利用者様向けアンケート実施
2. 令和3年 11月 職員向けアンケート実施

【環境整備委員会】

1. 環境パトロール

- ・定期的な環境パトロール実施
- ・評価票の作成と見直し

5月 御前山デイサービス

6月 ガルテン事務在宅栄養

7月 ガルテン施設

8月 大宮フロイデドルフ

9月 グループホーム桂

10月 サポートセンター美和

11月 サポートセンター緒川

12月 サポートセンター大宮

12月 アシストハウス大宮

1月 志村デイサービス(さくらデイ)

1月 フリュージェル

2月 サポートセンター山方

2. 環境美化コンクール

・第29回環境美化コンクール(9/4)

- 最優秀賞 フロイデ総合在宅サポートセンター
水戸河和田
優秀賞 フロイデ総合在宅サポートセンター
水戸けやき台

【広報委員会】

1. 接遇新聞発行

- 第21号(令和3年6月1日)
第22号(令和3年9月1日)
第23号(令和3年12月1日)
第24号(令和4年3月1日)

① 私の部署の接遇マイスター担当部署

- 6月：リハビリ事業
9月：連携センター
12月：薬剤
3月：診療サービス課

② 各部門の接遇ロールプレイの様子担当部署

- 6月発刊：CCS
9月発刊：栄
12月発刊：管理部
3月発刊：薬剤

2. 接遇標語ポスター作成担当部署

- 4月：地域医療連携センター
5月：博友会
6月：栄養科
7月：療養病棟科
8月：リハビリ事業部
9月：CCS部
10月：地域医療連携センター
11月：博友会
12月：栄養科
1月：療養病棟科
2月：リハビリ事業部
3月：CCS部

3. 接遇標語・ロールプレイ配信

No.224～235

9月のテーマ「動作」

【今月の標語】

丁寧な所作は、認知症の方にも安心感を与えます。
落ち着いた行動を心掛けましょう。

☐ 場面に応じた配慮を表現しましょう
☐ 臨機応変な対応で相手に安心感を与えましょう

お：落ち着いた動作
も：もちろん感謝対策
て：丁寧を心掛ける
な：なんでも臨機応変対応で安心感
し：信頼される関係

接遇向上委員会
発刊期間：09月1日～30日

接遇新聞
Welcome
第24号 No.1
2022年3月1日
発行：接遇向上委員会
編集：広報委員

サンクスカードバッチまで1か月！！

サンクスカード集計期限となる3月末まであと1ヶ月程となりました。現在12月末時点で72枚、1月末時点では42枚、今年度合計で419枚という状況です。
まだまだサンクスカード制度が浸透していない部署もあるかと思いますが、改めてサイボウズ掲示板より詳細をご覧ください、一緒に働く多くの職員へ「ありがとう」の気持ちを伝えていきましょう！
たくさんカードを受けとった人・送った人にはインセンティブも予定していますので積極的な運用をお願い致します。

わたしの部署の接遇練習風景

今日は、薬剤科！

薬剤科は、朝夕共に当会事務が担当のターミナルを開設し、24時間体制で業務を行っています。それに合わせて業務がスムーズに回り、自然に業務が回るように役割ロールプレイングを実施しています。電話の相手にも

わたしの部署の接遇マイスター③
診療サービス課

河野さんは接遇研修生候補生として、研修生で研修内容や業務の進捗を確認していき、日々の業務に活かすための、電子カルテへの入力確認や、診療室への患者様の誘導、検査の案内等を行っています。常に自然な笑顔の笑顔、丁寧な言葉遣いで対応しています。私たちだけでなく、患者様に

【サンクスカード委員会】

令和3年度サンクスカード実施期間（令和3年4月1日から令和4年3月31日）

サンクスカードが贈られた枚数 727 枚

サンクスカードが贈られた枚数上位の方3名を表彰いたしました。



- 1位 (33 枚) 安藤彩夏さん
2位 (31 枚) 大畠美由紀さん
3位 (20 枚) 横山美恵子さん

8. 各委員会活動報告 博仁会

医療介護安全推進委員会

【目的】

医療法人博仁会における医療事故を防止するための必要な啓発を図るとともに、医療事故が発生した場合の適切な対策を協議する。

【活動内容】

- ① 医療相談業務
- ② 医療介護安全管理推進会による研修会の企画と実施
- ③ インシデント・アクシデント報告書の集計・評価・分析
- ④ 事故発生時の状況把握、対応
- ⑤ 事故後の改善策の検討・実施・評価
- ⑥ 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための改善結果・効果を記録する
- ⑦ 医療安全活動実績の記録
- ⑧ 医療安全地域連携（医療安全ラウンド）

【医療介護安全推進部会 開催状況】

毎月1回 開催 令和3年度 12回 開催
医療安全地域連携 ラウンド・カンファレンス
3月31日
医療安全ラウンド（5S活動）
7月1日、10月29日

【インシデント・アクシデント+転倒転落報告書数】

年間：1,111件 月平均：92.6件

レベル0	23件
レベル1	176件
レベル2	757件
レベル3a	134件
レベル3b	15件
レベル4	6件
レベル5	0件
レベル6	0件

発生月別報告書数

4月	90件
5月	98件
6月	91件
7月	71件
8月	103件
9月	92件
10月	116件

11月	114件
12月	94件
1月	99件
2月	71件
3月	72件

発生部門別報告書数

一般病棟	172件
老健入所	175件
緩和ケア病棟	85件
コミュニティケアサービス	241件
外来	18件
フリューゲル	5件
チロル館	69件
訪問リハビリ・デイケア	2件
スイス館	185件
医師	1件
リハビリ部	75件
画像検査	3件
薬局	55件
診療サービス課	1件
栄養科	23件
連携室	1件

*重複あり

【医療介護安全推進大会実績】

コロナ禍に伴い オンライン/USBによる研修
医療安全研修案内情報提供（個人希望参加）

新人・新入職員研修

令和3年2月実施

（博仁会病院294名・CCS304名参加）

（内容）：医療機器・診療用放射線の安全利用

- 1 医療被ばくの基本的な考え方について
- 2 放射線診療の正当化について
- 3 医療被ばくの防護の最適化について
- 4 放射線の過剰被ばくその他の放射線診療に関する事例発生時の対応等について
- 5 放射線診療を受ける者への情報提供について
- 6 MRIの安全利用について

評価：医療放射線安全の事例報告に伴い勉強会を施行。医療機器、医療放射線安全について、事故防止への課題・対策、認識が深められた。医療安全の取り組みは、医療にかかわるすべての人が対象であり、リスクは常に身近なところにあるという意識づけとともに、事例報告を共有し、今後の業務に取り入れていく。

また、安全体制の整備と安全の推進を行っていく。

【画像検査センターで発生したMRIのアクシデント】



【インシデントアクシデント報告書数】

4月	51件
5月	66件
6月	53件
7月	39件
8月	53件
9月	42件
10月	66件
11月	77件
12月	38件
1月	48件
2月	33件
3月	32件

年間 598 件 月平均 49.8 件

【転倒転落報告書数】

4月	39件
5月	32件
6月	38件
7月	32件
8月	50件
9月	50件
10月	50件
11月	37件
12月	56件
1月	56件
2月	38件
3月	40件

年間 513 件 月平均 42.8 件

8. 各委員会活動報告 博仁会

感染対策委員会

感染対策委員 小倉 十三子

【活動】

1. 月1回の委員会の開催
2. 年2回以上の全職員を対象とする講習会の開催による職員の啓蒙
3. 毎月、院内の病原菌分離状況と感染状況の報告
4. アウトブレイク時の迅速な対応
5. 院内の感染症発症状況の情報公開
6. 職員の安全管理と職業感染対策
7. 感染対策に関する講習会・研究会への参加
8. ICTメンバーによる病棟ラウンドとMTG
9. 経済性にも配慮した感染防止のため、機器、物品、薬品等の変更
10. 新型コロナウィルス感染症の病院対策本部と合同MTG参加
11. 各施設感染ラウンド実施と報告

【目標】

- ①新型コロナウィルス感染予防策の徹底
- ②定期的なマニュアルの見直し
 - ・感染経路別と標準予防策の見直し

【活動内容】

4月 標語「手洗い強化月間」
年間計画・目標の作成・運営予定
13日、27日 病院本部感染対策とICT合同MTG
28日 感染対策委員会開催
27日 SFG施設感染ラウンド
5月 標語「手洗い強化月間」
各部署にて手指衛生のチェックと評価実施
当院の新型コロナ感染症対策
21日 水戸医療センター、水府病院、志村病院、感染対策予防合同カンファレンス Zoom 参加
26日 感染対策委員会開催
29日 SFG施設感染ラウンド
6月 標語「手指衛生強化月間」
1日、29日 病院本部感染対策とICT合同MTG
23日 感染対策委員会開催
27日 SFG施設感染ラウンド
7月 標語「手袋の正しい外し方を覚えよう」
13日、27日 病院本部感染対策とICT合同MTG
28日 感染対策委員会開催
31日 SFG施設感染ラウンド
8月 標語「ガウンの正しい外し方を覚えよう」
10日、24日 病院本部感染対策とICT合同MTG
25日 感染対策委員会開催
29日 SFG施設感染ラウンド
9月 標語「エプロンの正しい脱ぎ方を覚えよう」
インフルエンザ勉強会開催 29日、30日

17日 水戸医療センター、水府病院、志村病院と感染対策予防合同カンファレンスZoom参加
21日 病院本部感染対策とICT合同MTG
22日 感染対策委員会開催
26日、29日 SFG施設感染ラウンド
10月 標語「マスクのつけ方、外し方を覚えよう」
1日 SFG施設感染ラウンド
5日、8日 インフルエンザ勉強会開催
5日、19日 病院本部感染対策とICT合同MTG
27日 感染対策委員会開催
11月 標語「インフルエンザ・新型コロナ対策強化月間」
2日、16日、30日 病院本部感染対策とICT合同MTG
19日 水戸医療センター、水府病院、志村病院と感染対策予防合同カンファレンスZoom参加
24日 感染対策委員会開催
20日 SFG施設感染ラウンド
12月 標語「感染予防対策強化月間」
14日、28日 病院本部感染対策とICT合同MTG
22日 感染対策委員会開催「感染経路別予防策」「標準予防策」マニュアル改訂
22日 SFG施設感染ラウンド
1月 標語「感染予防対策強化月間」
11日 ISO 更新審査 感染対策
11日、25日 病院本部感染対策とICT合同MTG
26日 感染対策委員会開催
28日 SFG施設感染ラウンド
2月 標語「個人防護具の正しい着脱順を覚えよう」
4日 「感染症」WEB講演会参加
18日 水戸医療センター、水府病院、志村病院と感染対策予防合同カンファレンスZoom参加
1日、8日 病院本部感染対策とICT合同MTG
16日 感染対策委員会開催各病棟の手指衛生回数グラフ化、COVID-19PCR 検査機器 IDNOW 説明
3月 標語「感染予防対策強化月間」
15日、30日 病院本部感染対策とICT合同MTG
23日 感染対策委員会開催
30日 SFG施設感染ラウンド



8. 各委員会活動報告 博仁会

褥瘡対策委員会

【委員会紹介】

疾患の治療や療養の過程で低栄養状態である方、脳血管疾患や廃用の進行により自力での体位変換ができない状態の方、終末期の高齢者や長期間寝たきりの方。これらの方の皮膚は脆弱な状態になりやすく、わずかな圧迫やずれ等の刺激でも容易に褥瘡を発生し、更には悪化することがあります。当院の褥瘡対策委員会では、各病棟の事例をもとに効果的な褥瘡の発生予防や早期治癒のため対策を検討したり、勉強会により褥瘡対策ケアの質の向上を図る等、ご利用者様に安心して治療・療養をしていただくために活動しています。

【活動目的】

- (1) 事前の予防により、患者様、ご利用者様が日常生活においてよりよい生活をお送りできる。
- (2) 褥瘡の早期発見、早期対応に努め、患者様が本来の疾患の治療に専念できる。

以上の2点においての対策を検討し、さまざまな視点から討議しています。

【委員会目標】

- 褥瘡予防に対する知識、又他職種共同によるケアの質を向上させる。
- 皮膚障害の早期発見、早期介入を定着させ、褥瘡発生0件を目指す。

【年間活動】

- 4月：各部署前年度の反省、令和3年度の目標、症例報告（ドイツ・チロル・スイス）
- 5月：令和3年度の褥瘡委員会の目標、症例報告（ドイツ・チロル）、薬剤使用量報告
- 6月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス・緩和ケア）、薬剤使用量報告
- 7月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス）、薬剤使用量報告、勉強会報告（ドイツ・緩和）
- 8月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス）、薬剤使用量報告、勉強会報告（スイス・訪問看護）
- 9月：症例報告（ドイツ・チロル）、薬剤使用量報告、マットレス入替えのお知らせ、勉強会報告（薬剤科・外来）
- 10月：症例報告（ドイツ・チロル・フロイデ入所）、勉強会報告（チロル・栄養科）
- 11月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス・フロイデ入所）、薬剤使用量報告、勉強会報告（リハビリ・フロイデ入所）
- 12月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス・緩和ケア）、薬剤使用量報告、勉強会報告（フロイデ通所・サポートセンター山方）
- 1月：症例報告（ドイツ・チロル）、薬剤使用量報告
- 2月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス・緩和ケア）、薬剤使用量報告、勉強会報告（ガルテン・

ドルフ・ケアプランセンター）

3月：症例報告（ドイツ・チロル・スイス）、薬剤使用量報告、来年度の目標

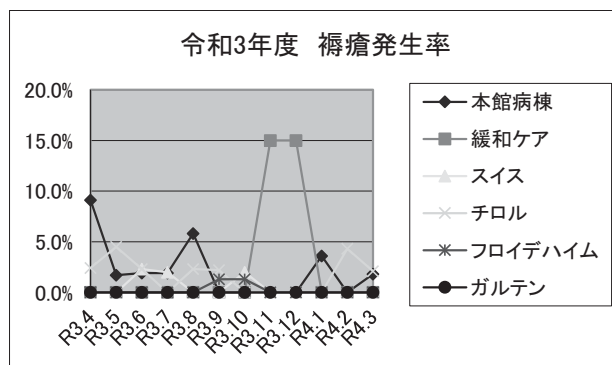
【内容】

褥瘡の基礎知識習得や写真による比較、DESIGN-Rによる評価を定着させるために、令和3年度も前年に引き続き毎月の症例検討と勉強会を行いました。

また、令和4年1月18日にZOOMにて開催された第10回褥瘡対策研究会ではモルテン様によるオスカー多機能マットレスの説明会を行いました。自分の力で寝返りが困難な方、人による体位変換が受けることが出来ない方が「自動体位変換機能」と「体位指定機能」を使い、4つのポジショニングセルで人の手に近いやさしい体位交換を行うことが出来ます。褥瘡の予防、ケアは介護士から医師、看護師他、多職種での情報交換を行うことが必要となってきます。褥瘡に対しては各部署とも同じようなリスクを抱えています。毎月、委員会の際に報告される症例に対しては委員全員で効果的な対策を検討するということで、今後に活かせるようにしてきました。褥瘡対策委員会では、医師、看護師はもちろん、栄養科、リハビリ科、薬剤師等による、それぞれの観点から意見交換を行い、患者様に向き合って褥瘡の改善に努めていきます。

【まとめ】

当委員会では、西村医師をはじめとした博仁会・博友会の各職種のスタッフが「褥瘡」という課題に取り組むことで、スキルアップに努めています。当院の褥瘡の発生数は減少していますが、低栄養状態の高齢者や終末期の方の入院、入所前からの重症な褥瘡症例の報告は増えています。様々な視点から褥瘡対策を考えることで治癒に繋げていくことも重要ですが、安楽な体位の検討等、QOLの維持向上を考慮していくことも今後の課題となります。私たちは、褥瘡状態のみでケアを検討するのではなく、患者様の全身状態とニーズから導き出したケアが提供できる病院を目指していきたいと思います。



8. 各委員会活動報告 博友会 サービス向上委員会

令和3年度 サービス向上委員会活動報告

医療法人博仁会・接遇向上委員会、社会福祉法人博友会・サービス向上委員会が一体化してSFG全体での委員会となり6年目の活動でした。

全法人接遇向上大会、環境美化コンクール、接遇発表大会、顧客満足度調査、職員向け接遇アンケートを行っております。

顧客満足度調査

対象・社会福祉法人 博友会 全事業所御利用者様
対象者：令和3年4月1日～6月30日の間に利用実績のある御利用者様

実施時期：令和3年7月

【評価・改善】

サービス改善への貴重なご意見をより多く得るためにも、回答率の低い部門に関しては、アンケートの配布・回収方法など検討し、継続して実施していく必要があると考えます。

いただいた御意見について、真摯に受け止め、部門間での情報の共有と職員への水平展開を実施し、改善に努めてまいります。

職員接遇アンケート

対象：社会福祉法人 博友会 職員全員
実施期間：令和3年12月

- ①あいさつ・笑顔 ②みだしなみ
③動作 ④言葉遣い ⑤電話対応
について自己判定の調査を実施

【評価・改善】

各部門において結果の周知と改善を実施しております。

環境美化コンクール

第29回

実施日：令和3年10月24日(土)

テーマ：「清潔で心地良い環境づくり」

対象部署：御前山デイサービス

ガルテン事務在宅栄養

ガルテン施設

大宮フロイデドルフ

グループホーム桂SC友部

第30回

実施日：令和4年2月6日(土)

テーマ：「清潔で心地良い環境づくり」

対象部署：サポートセンター美和

アシストハウス大宮

【評価・改善】

新型コロナウイルス感染予防の為、両会共、ZOOMを使用してのオンライン審査となりました。

それぞれのテーマに向け、各部署工夫を凝らし、各事業所それぞれ思い思いの環境美化を実施することができました。このコンクールを機会に年間を通じてテーマを感じ取れるような環境作りの工夫、事業所内の清掃・整理・整頓を心掛けてもらいたいと考えております。

苦情報告

令和3年度苦情報告は上期2件、下期2件、計4件の苦情がありました。

苦情に関する是正処置は終了しています。

【評価・改善】

SFG全体にて委員会活動を行っております。

法人内での意識掛けをはじめ、職員の教育などより良いサービスが提供出来るように努めて参ります。

確認の怠り、態度、安全運転に対する苦情がありました。

確実な確認、確実な伝達、適切な接遇心掛けを職員へ再度周知徹底し、再発の防止に努めました。

いただいた御意見について今後も真摯に受け止め、より良いサービスを提供してまいります。

8. 各委員会活動報告 博友会 感染予防委員会

感染予防委員会は1)施設内の感染予防に努める。
2)各部署に、常に必要な情報を提供し感染症発生時に的確な対応が出来るようにする。3)日常生活の上で感染症が発生しない環境を整え、職員の理解を深める。という目標を掲げ、利用者を守るため施設に感染症を持ち込まない事を基本に、全職員で感染予防に努めております。

<具体的活動内容>

- (1) 職員に対する感染症の予防指導（年に2回感染症についての勉強会実施）
- (2) 施設内で発生しやすい感染症の予防策や注意点を各部署に対して日常的に指導する。
- (3) 医療法人博仁会の院内感染対策委員会と情報を共有し、施設に必要な情報を分かりやすく各部署に伝達し、感染予防に役立てる。
- (4) メディアによる全国的な情報や地域、他施設で発生した感染症などの情報提供を速やかに朝礼で行なう。
- (5) インフルエンザ・新型コロナウイルスに対する予防接種の完全実施。

<年間活動内容>

4月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染対策の強化・ワクチン接種実施
5月～6月	新型コロナワクチン接種1回目・2回目実施（入所利用者・職員） 全職員対象に手洗い実演動画を使用し勉強会後、手拭チェック実施
6月	感染予防「食中毒について」の資料を配布し全職員対象に事業所毎に勉強会実施
7月	手洗いチェック結果集計した。実施者226名
8月～10月	ガウンテクニックについて、各部署にポスター配布（着脱指導継続実施） ゾーニングの確認、各事業所毎にコロナ発生時のシュミレーション実施
10月～12月	インフルエンザ予防接種実施（入所利用者・職員）
1月～	新型コロナワクチン接種3回目実施（入所利用者・職員） ※新型コロナ感染症、感染状況に応

じて面会の一時中断・面会緩和を実施

【全体の活動評価】

私たちのサービスの対象者のほとんどが高齢者であることから集団感染に対する予防策を講じることは重要な課題です。職員自身が媒体者にならないように、マスク着用・手洗い・手指消毒や環境整備、更に新型コロナ・インフルエンザ予防接種の推進など、令和3年度も感染予防に対する職員教育に力を入れてきました。結果として、今年度博友会全体でノロウイルス・インフルエンザ感染症の発症はありませんでした。新型コロナウイルスの流行によりデイ利用者、職員2名の感染はありましたが、マニュアルに基づいて早急な対応をした結果、感染の拡大を未然に防ぐ事が出来ました。

現在もコロナウイルスが変異を繰り返し拡大しており、今後更に活動を強化し職員一人ひとりが感染予防を意識した対応ができるよう啓発活動を推進していきたい。

8. 各委員会活動報告 博友会 教育委員会

開催月	研修内容	参加人数
4月	各部門教育	
5月	各部門教育	
6月	食中毒について	全職員対象
7月	身体拘束適正化について	全職員対象
8月	BCPについて	全職員対象
9月	法令遵守の介護事業経営と実地指導・監査対応オンラインセミナー	管理者、他
10月	感染症対策について	全職員対象
11月	メンタルヘルスケア研修会	管理者、他
12月	各部門教育	
1月	電子帳簿保存法について	管理者、他
2月	各部門教育	
3月	各部門教育	

年度考察

令和3年の教育委員会の活動としては、新型コロナウイルス感染対策の基本事項（ベースライン）に基づき、3密を避ける教育・研修の対応となった。

教育委員会としては、法人運営に必要な教育・研修を管轄する委員会と協同し実施した。部門教育が中心となったが、工夫をして教育が実施されていることを確認している。

また、外部研修機関を上手く活用したオンライン研修も実施できている。今後の教育・研修のあり方を少しずつだが、形にできていると感じる。

令和4年度は、オンライン研修の活用を進めると共に、オンライン研修の課題である教育・研修後の成果を確認できる体制作りを進めていきたい。

8. 各委員会活動報告 博友会 地域広報委員会

令和3年度の活動報告

令和3年度も、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、各地域の地域行事が軒並み中止となってしまいました。しかし、各事業所が工夫したうえで専門職の派遣や、地域住民へのリハビリ体操のDVD配布等出来る事を実施して参りました。また、今年度御前山地区では、「御前山ダム歩こうかい」への参加を通し、「ミニ産直市」を開催致しました。更にコロナ禍の為、外食も憚れる今だからこそ、テイクアウトと配達のための「café fun garden」を開催し、常陸牛バーガーや常陸牛ロコモコ丼の販売をさせて頂きました。

今後も、新型コロナウイルスの流行はしばらく続くと思いますが、今年度実施してきたことを糧にし、また地域ニーズの収集を行う事で各事業所が地域包括ケア拠点として、地域住民の生活を支えられる事業所を目指し、取り組んで参ります。

令和3年度 活動内容（一部抜粋）

	内容	内容
御前山 フロイデガルテン	御前山フロイデガルテン秋祭り 中止	ミニ産直市開催 Café fun garden 開催
大宮フロイデドルフ	大宮フロイデドルフ秋祭り中止	家族会開催
グループホーム桂	しろさと町民まつり 中止	家族会開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター美和	北斗星への女子クラブ作品展示・販売	クデカフェ開催氷之沢・高部地区
フロイデ総合在宅 サポートセンター城里	しろさと町民まつり 中止	オレンジカフェ開催健康教室開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター友部	シルバーリハビリ体操教室開催	オレンジカフェ開催元気すこやか教室開催
フロイデアシスト ハウス大宮	敬老会開催	常陸大宮市 市民運動会 中止

8. 各委員会活動報告 博友会 食事委員会

活動内容

毎回	喫食状況の把握
4月	年間計画の作成
5月	デイリクエスト献立調査・集計
6月	デイリクエスト献立実施
7月	入所部門嗜好調査の検討・アンケート作成
8月	入所部門嗜好調査の実施・集計・分析
9月	入所部門嗜好調査結果公示・配布
10月	おやつアンケート実施
11月	入所リクエスト献立調査・集計
12月	入所リクエスト献立の実施
1月	在宅部門嗜好調査の検討・アンケート作成
2月	在宅部門嗜好調査の実施・集計・分析
3月	在宅部門嗜好調査結果公示・配布

【入所部門嗜好調査】

- *実施日 令和3年8月18日～8月24日
- *配布枚 回収113枚 回収率94%
- *対象 御前山フロイデガルテン入所者・大宮フロイデドルフ入所者桂GH・サポートセンター美和GH
- *考察 各事業所によって、ご利用者様の食事内容、嚥下機能が異なるため、それぞれの施設にあった食事を提供していかなければならない。嗜好調査を実施することで、その施設での問題点は何かを把握することができ、改善につなげることができた。

【在宅部門嗜好調査】

- *実施日 令和4年2月11日～2月25日
- *配布 441枚 回収343枚 回収率77.8%
- *対象 御前山ガルテンデイサービス・サポートセンター美和デイサービス・サポートセンター城里デイサービス・サポートセンター友部・御前山配食サービスセンター・城里配食サービスセンター・小規模多機能城里・アシストハウス友部・看護小規模多機能友部
- *考察 味、見た目などそれぞれの部分で不満もあるが、全体的には満足してくれている結果になった。個人個人嗜好が異なるため、全員が満足できる食事にすることは難しいのかもしれないが個別対応により、より多くのご利用者様に満足してもらえる食事を提供していけるよう努めていく。

【全体の評価】

食事の献立は、どこの施設でも統一となっているが、対象者はそれぞれの施設で異なっている。

自分の施設の結果だけではなく、ほかの施設の意見も参考にしながら、それぞれの施設と連携を取り、栄養SG全体でよりよい食事を提供していけるよう協力し合い食事を提供していく。

8. 各委員会活動報告 博友会 業務改善委員会

令和3年度の活動報告

令和3年度の業務改善提案件数は209件と昨年度比91.7%の結果となりました。職員数に対して提案件数が少ない部門があるため、対象部門の委員と連携し提案促進を促し提案件数の増加を目指して参ります。また、業務改善により職場内環境の見直しと改善を図り、働きやすい事業所作りを行ってまいります。

	令和3年度	令和2年度	前年比
御前山フロイデガルテン	53件	26件	204%
栄養SG	37件	34件	109%
通所係	8件	12件	67%
訪問介護係	2件	1件	200%
介護支援G	11件	16件	69%
訪問入浴係	0件	2件	0%
GH桂	12件	14件	86%
SC美和	0件	2件	0%
事務SG	17件	30件	57%
SC城里	11件	16件	69%
就労支援	5件	5件	100%
大宮フロイデドルフ	15件	32件	47%
SC友部	33件	35件	94%
アシストハウス大宮	1件	1件	100%
健康管理G	4件	2件	200%
合計	209件	228件	91.7%

8. 各委員会活動報告 博友会 リスクマネジメント委員会

ヒヤリハット件数報告

ヒヤリ・事故総数 546 件 (2020 年度総数 409 件)

レベル	合計	前年合計	差異
レベル 0	289	18	271
レベル 1	158	232	-74
レベル 2	87	139	-52
	534	389	145

レベル	合計	前年合計	差異
レベル 3 a	8	13	-5
レベル 3 b	1	4	-3
レベル 4	4	3	1
レベル 5	0	0	0
レベル 6	0	0	0
	13	20	-7

評 価

全体のヒヤリハット提出件数は 534 件、事故報告は 13 件であった。
前年度よりヒヤリハットの提出件数が増加、事故報告書の件数が減少した。

ヒヤリハット提出件数の増加については 7 月より導入を開始したヒヤリハットレベル 0 専用簡易書式により、提出難度の低減によるものが大きいと言える。比較してレベル 1 レベル 2 の提出件数が前年度より低く抑えられた要因はレベル 0 書式導入による危機意識・リスク管理意識の改善、毎月の委員会による事故報告書の再分析により全体のリスクマネジメント能力が多少強化されたことによるものと考えられる。

次年度対策。

次年度は前年度導入した書式の運用を安定させるべく経過観察を行っていく。
其々のヒヤリハット書式を運用していった上で出てきた問題に対処していく。
委員会主導の危険予知トレーニングなど新しい取り組みから全体のリスクマネジメント意識の向上を図っていく。

8. 各委員会活動報告 博友会 防災管理委員会

1. 委員会活動

6月	令和3年度委員会活動について (委員長・副委員長選任)	12月	職員緊急連絡通報訓練
8月	地震想定における避難訓練	3月	夜間想定避難訓練の実施
8月	発電機使用説明	3月	発電機使用説明

2. 消防訓練等

施設	上期	下期
御前山フロイデガルテン	令和3年7月16日	令和4年3月24日
	火災避難訓練・消防用設備説明	火災避難訓練 消防用設備説明
グループホーム 桂	令和3年9月16日	
サポートセンター 美和		令和4年3月20日
サポートセンター 城里	令和3年7月26日	令和4年3月23日
サポートセンター 友部 アシストハウス 友部	令和3年7月12日	令和4年3月18日
大宮フロイデドルフ	令和3年8月17日	令和4年3月30日
アシストハウス大宮		令和4年3月14日

3. 教育活動

実施日	内容
令和3上期	各拠点で避難訓練時、防災設備に関する説明実施
令和4下期	各拠点で避難訓練時、防災設備に関する説明実施

4. 防火管理者の養成

実施日	令和3年度
実施	取得者なし

5. その他

実施日	内容	実施日	内容
令和3年6月	日常自主点検チェック	令和3年12月	備蓄に関する確認、 入れ替え実施
令和3年6月	ポスター掲示	令和3年12月	ポスター掲示
令和3年8月	発電機自主点検	令和3年12月	日常自主点検チェック
令和3年9月	日常自主点検チェック	令和4年2月	ポスター掲示
令和3年10月	ポスター掲示	令和4年3月	発電機自主点検

コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各事業感染対策を強化し訓練を実施してまいりました。地域との方の参加は今年度に関しては控えて頂きました。また各集団での会議等難しい状況もあり、Zoomを使用した会議を実施し、委員会活動が活発になるように取り組んでまいります。事業継続計画(BCP)を作成し災害時の対応を具体化するように計画を作成しました。

8. 各委員会活動報告 博友会 車両安全管理委員会

【交通安全啓蒙活動】

① ポスター制作

対象：博友会全部門

期間：令和3年4月～令和4年3月

内容：毎月、交通安全の標語を掲げた交通安全啓蒙ポスターを作成。

各部門へメールで配布し、目のつきやすい場所に掲示してもらうことで職員に交通安全やマナーに対する意識の向上を訴えました。

評価：ポスターを掲示することで、日々行っている運転業務における「安全」ということの重要性が職員全体に認識されているものと思われます。

今後も啓蒙活動を継続し、交通事故0を目指してまいります。

② 事故分析

期間：令和3年4月～令和4年3月（月1回の委員会開催時に検証）

内容：令和3年度の事故報告総数は13件（前年比＋3件）自損事故8件、物損事故5件、人身事故は御座いませんでした。

評価：検証の結果、利用者様自宅での事故が38%と最も多く事業所での送迎注意点などが共有出来ない事例が御座いました。その他事故に関しては危険予測の不備が目立ち、令和4年度には職員向けの運転に関する勉強会を開催し、より一層の交通事故防止の啓発活動に注力します。また令和4年度より義務化されるアルコールチェッカーの導入も早急に行い法令順守を徹底して参ります。

事業所別事故報告数

事業所名	保有台数	事故報告件数	事故率
御前山通所・在宅SG（配食）	20台	4件	0.2件／1台
フロイデグループホーム桂	1台	0件	0
大宮フロイデドルフ	2台	0件	0
就労支援（ロッチェ那珂含）	10台	3件	0.3件／1台
サポートセンター城里	9台	2件	0.22件／1台
サポートセンター美和	8台	2件	0.25件／1台
サポートセンター友部	12台	1件	0.08件／1台
ごぜんやま訪問介護	4台	0件	0
介護支援グループ	3台	1件	0.33件／1台

■ 第 二 部 ■

1. 学術活動

(1) 理事長執筆取材講演実績

○ 執筆・インタビュー

- 1 寄稿 後藤由夫先生の思い出
尚仁会誌 令和3年5月 第72号 令和2年度 頁64
- 2 インタビュー記事 感染収束 接種加速カギ
読売新聞社 令和3年6月11日 頁13
- 3 巻頭言 ポストコロナの地域医療構想には「高度急性期病院(仮称)」が必要
茨城県病院協会会報 令和3年7月発行 No.106 頁1～2
- 4 令和3年茨城県医師会定例代議員会 会長挨拶
茨城県医師会報 令和3年8月 No.812 頁5～6
- 5 特集 医療・介護発！今取り組みたい「街づくり」
医療、介護、福祉、生活支援を継ぎ目なく提供
交流拠点のカフェはコロナ景気に黒字に転換
日経 ヘルスケア 令和3年8月 No.382 頁36～39
- 6 日本医療法人協会70周年記念座談会
激動の2001年～2020年を振り返り医療法人が果たす役割を確認しよう
医療法人70年の歩み 令和3年10月 頁046～069
- 7 日本医療法人協会地域支部の取り組み
茨城県支部 茨城県医療法人協会の活動について
医療法人70年の歩み 令和3年10月 頁073
- 8 那珂医師会新役員紹介
那珂医師会顧問に就任して
那珂医師会会報 令和3年11月 53号 頁2
- 9 茨城県養護教諭会
ポストコロナの少子化対策を考える
すこやか 令和3年12月 46号 頁2
- 10 年頭所感
今こそポストコロナに向けて活動の再開を
茨城県医師会報 令和4年1月 No.817 頁3
- 11 新年のごあいさつ
在宅療養支援病院を中小病院の機能の一つへ
日本医療法人協会ニュース 令和4年 No.451 頁12

12 連載 理事が語る

教育セミナー「志村フロイデグループの地域リハビリテーション活動」
日本リハビリテーション病院・施設協会誌 令和4年1月発行 第182 頁26～27

13 巻頭言

自見はなこ先生をみんなで応援しよう！
茨城県医師連盟だより 令和4年1月 No.38 頁1

14 特集これからの地域共生社会と病院経営の未来

地域共生社会に向けて医療・介護・生活の在宅療養支援病院が果たす役割
多世代プラットフォームづくりから官民協働のまちづくりまで
病院 令和4年3月 Vol.81 No.3 頁225～231

○ 講演

1 令和3年度日医かかりつけ医機能研修制度応用研修会

「地域包括ケアシステムにおけるかかりつけ医の役割」
日本医師会介護保険課 令和3年7月18日

2 一水会6月定例会

「新型コロナウイルス感染症に対する茨城県医師会の取り組みとポストコロナにおける地域医療構想への提案」
一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム 令和3年6月2日

3 第62回全日本病院学会in岡山シンポジウム2

コロナ禍・超少子高齢人口減少時代、持続可能へのチャレンジ！～地域医療構想会議における、ダウンサイジング・再編・連携・統合の検証～
「行政と連携しながら取り組む民間中小病院を中心としたまちづくりの新たな展開」
全日本病院学会岡山支部 令和3年8月21日

4 教育セミナー

「志村フロイデグループの地域リハビリテーション活動」
日本リハビリテーション病院・施設協会 令和3年8月配信

5 茨城県若手リハ専門職卒後研修

「社会保障概論」
茨城県地域リハビリテーション支援センター 令和3年8月29日

6 第2回在宅医療推進のための会

「感染症を念頭においた地域包括ケアシステムの構築に向けて」
公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団 令和3年9月10日

7 Web開催「中小病院の病院建替えとコロナ後の事業継続」

「中小病院の建築と病院を中心としたまちづくり」 令和3年9月配信

8 超高齢社会の課題を解決する国際会議第3回NIKKEI

第4回 Well Aging Summit Asia-Japan 社会参加セッション
「高齢者の社会参加を目指した病院を中心としたまちづくりの実践」

- 9 第6回北関東信越ブロック学会及び第13回茨城県作業療法士学会
「地域包括ケアシステムにおける地域リハビリテーションの活動の重要性」
茨城県作業療法士会 令和3年11月21日
- 10 アジア太平洋ヘルスサポート学会
シンポジウム「地域包括ケアシステムをいかに実装するか」
「博仁会における実践事例」
アジア太平洋ヘルスサポート学会 令和3年11月26日
- 11 全国連携ナイトスクール 第3回病院×地域包括ケア」
「進化する地域包括ケアシステムと病院を中止としたまちづくりの実践」
NPO全国連携実務者ネットワーク 令和4年1月20日
- 12 第9回認知症医療介護推進フォーラム「パンデミックや自然災害を踏まえた認知症の共生と予防」
「コロナ禍における認知症支援の取り組み」
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 令和4年2月20日

○ 常勤医師執筆講演実績

学会発表

大仲功一

学会名： 第18回茨城県リハビリテーション医学研究会
テーマ： 茨城JRATの組織化(2019年12月)とその後2年間の活動経過
日付： 令和3年2月20日
会場： 厚生連研修センター

堀川諭

学会名： 第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
テーマ： 回復期リハビリテーション病棟入棟時における脳損傷患者の自動車運転再開可否判断に関わる予測因子の検討
日付： 令和3年11月13日
会場： 名古屋国際会議場

講演

大仲功一

講演会名： 第5回茨城DPAT隊員研修会
テーマ： JRATについて
日付： 令和3年10月
会場： 動画配信

講演会名： 令和3年度茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座
テーマ： 高次脳機能障害とはどのような障害か
日付： 令和4年1月
会場： 動画配信

講演会名： 茨城県地域リハビリテーション広域支援センター水戸保健医療圏連絡協議会勉強会
テーマ： 災害リハビリテーションと地域リハビリテーション
日付： 令和4年3月1日
会場： オンライン(ZOOM)

1. 学術活動

(2) 学会発表

博仁会

1. 地域包括ケアの強化から地域共生実現に向けて

大宮デイケアセンター 柳林 洋平

令和3年9月3日～4日(第42回 全国デイ・ケア研究大会2020～2021 in 倉敷)

2. コロナ禍で利用休止となったケースの実態調査～利用休止者へのアプローチ～

リハビリテーション事業部 國井 崇洋

令和3年11月18日～19日(リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫2021)

3. 施設内新人症例報告会におけるチェックシートを用いた能力評価 ―新人1例に対しての実践報告―

リハビリテーション事業部 伊藤 彰良

令和3年12月4日～5日(第56回 日本理学療法学会)

4. ReoGo-Jを使用する事で右上肢の運動失調が軽減し右手の使用頻度が増加した症例

リハビリテーション事業部 渡部 誠文

令和4年2月3日～4日(第9回慢性期リハビリテーション学会)

5. パーソン・センタード・ケア～最期までその人らしく生き抜くためにできるケアとは～

療養病棟科 中村 久枝

令和4年2月3日～4日(第9回慢性期リハビリテーション学会)

6. 当院回復期におけるリハ助手によるロボット療法の実践報告

リハビリテーション事業部 藤咲 良樹

令和4年2月4日～5日(回復期リハビリテーション病棟協会 第39回研究大会in東京)

博友会

1. 地域資源を活用した相互関係の構築

フロイデ総合在宅サポートセンター美和 宮田 匠

令和3年9月3日～4日(第42回 全国デイ・ケア研究大会2020～2021 in 倉敷)

2. 各種行事

第21回 全法人目標・成果発表大会

令和3年4月30日

博仁会

【入院】

- 急性期一般入院基本料4の算定維持、医療安全・感染対策・褥瘡予防による安全で安心なケアサービスの提供
 - 平均在院日数の短縮、特に入院患者の62%を占める主要疾患（肺炎・廃用・脳疾患・尿路感染）についてDPC入院期間Ⅱでの退院の徹底による機能評価係数Ⅱの効率性係数の向上
 - 一般病棟重症度、医療・看護必要度27%以上の達成と必要度Ⅱによる評価開始
- 地域包括ケア入院医療管理料1（12床）の算定と地域包括ケアシステムの取組
 - 自宅等からの入院患者の受入れ（サブアキュート強化）、地域包括ケアに関する実績評価への対応。外来と入院の連携、クリニック、介護施設、在宅、ケアマネとの連携（基本在宅、時々入院）
 - 在宅復帰率70%維持
- 回復期リハビリテーション病棟入院料1の算定とアウトカム評価
 - 回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカム評価への対応
 - リハビリテーション実績指数（FIM得点の改善度）40以上
 - 在宅復帰率の向上 80%以上 平均在院日数の短縮 60日
 - 重症患者の受入れと在宅復帰の促進 重症患者比率30%以上
- 療養病棟入院料1の算定維持
 - 医療区分2、3の患者受入れ促進 80%以上
- 緩和ケア病棟入院料1の算定維持
 - ACPを充実 QOLの向上支援（在宅復帰率15%以上・待機期間14日以内）
 - 緩和ケア病棟利用率の向上にむけて連携・PRの強化・早期面談

【外来】

- かかりつけ医機能の強化
- 呼吸器センター外来のPR・外来化学療法の実施
- 訪問診療件数増加
- オンライン診療の導入
- 検査・健診センターの利用者増

【老健】

- 多職種共同による科学的介護情報システムへの対応
- 事業継続計画（BCP）の策定

【特養・GH】

- 個別ケアの充実及びACPに基づく終末期ケアの提供
- 利用者の状態把握（ADLデータの収集とフィードバック活用）
- ベトナム・モンゴル技能実習生の受け入れ継続・日本語教育

【在宅】

- SFG情報会議の運営による法人内サービスの連携強化
- スマートデバイス活用による在宅サービス間連携強化と医療介護の情報連携
- 障害者福祉サービスの拡大に向け、障害者相談支援員の育成

【CCS部】

- フロイデケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進
- 介護保険制度改定における、LIFEデータ提出及びフィードバックの活用の実践
- 業務の効率化と人材育成
 - LIFEデータ提出に伴う業務の効率化と補助金を活用した機器の導入等

【介護部】

- 質の高い介護の提供
- 介護サービスの標準化
- 介護人材の確保

博友会

- 社会福祉法人として地域での役割を認識し、地域課題の発見、解決に向け、地域包括ケアを深化させる。
- 事業継続できる法人運営のための収益確保と事業継続計画（BCP）を策定する。
- 科学的介護に裏付けられた、質の高いサービス提供を実現する。
- 生産性向上と働き方改革を推進し、ひとり一人のワークライフバランスを実現する。

看護学校

- 看護学生校の確保と経営の安定化
 - 定員40名充足
 - 新型コロナ対策
 - チューター制による学習支援体制強化
 - 受験者増加のための広報強化
 - 国試合格率100%（看護・介護福祉）
 - 地域との連携（北富田地区授業への参加継続）
 - 学生ボランティア活動

2. 各種行事

茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会

事務局 川崎 仁史

【活動実績】

令和3年6月23日(水)：第50回事務局会議
 令和3年8月27日(金)：第39回定例会
 令和3年10月14日(木)：第51回事務局会議
 令和3年11月17日(水)：第40回定例会
 令和4年2月24日(木)：第41回定例会

【脳卒中患者の退院実績】

茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会にて把握が可能であった「脳卒中患者の退院実績（令和3年2月～令和4年1月）」について、急性期病院全体での合計は2,910例であった。また、その内訳は表1の通りであった。回復期リハ病院全体での合計は460例であり、その内訳は表2の通りであった。

【表1】 脳卒中患者における急性期病院からの退院先（令和3年2月～令和4年1月）

退院先	患者数
自宅	1,444
回復期リハ病院	458
老健	35
その他	973
計	2,910

【表2】 脳卒中患者における回復期リハ病院からの退院先（令和3年2月～令和4年1月）

退院先	患者数
自宅	316
老健	88
その他	56
計	460

【活動内容】

令和2年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）による影響を大きく受ける年となった。しかし、Zoomを活用したweb会議を導入したことにより、事務局会議および定例会は予定通りに開催することができた。

令和3年度の活動は、「web上での施設同士の面会を具体的にどのように実施するか？」という点の見直しを繰り返すことが中心となったが、「脳卒中連携における治療・リハ・ケア上の課題」「各施設での取組の工夫」「COVID-19拡大下での家族との連携方法」「脳卒中地域連携パス運用上の課題」等の話題について、施設間での情報交換の場を提供することができた。

COVID-19による影響はまだまだ続くものと考えられるが、研究会としての活動基盤を固めることができたため、次年度以降も取組を継続し、脳卒中における地域連携の質の向上を図っていきたい。

2. 各種行事

Café fun garden

コロナ禍でなかなか外食が憚られる現在、地域住民の皆様に食の楽しみを持っていただきたく、1日限定のカフェを令和4年2月13日に開催致しました。

今回のメニューとして用意したのは、「常陸牛バーガー」と「常陸牛ロコモコ丼」の2種類。その他にドリンクも多種多様に準備し、今回は、つづく農園様の苺を使用した「イチゴミルク」も販売し、バーガー、ロコモコ丼同様に大変好評でございました。特に配達も実施したことにより、なかなか外出できない前期高齢者の方々からも多数の注文を承り、「またやるの?」「これからも続けてほしい」等お声を頂きました。

今回実施させて頂き、コロナ禍での外食の楽しみだけでなく、日頃なかなか外出等出来ない地域住民の方々にも「食」の楽しみを再認識して頂けたと感じています。今後 cafe に関わるお食事だけでなく、「健康」を意識したメニューや「昔懐かしい」をテーマにしたメニューなど、多種多様なメニュー考案を行い、提供をしていきたいと考えております。

Café fun garden

☆野口平で1日限定の
喫茶店を開店いたします 

○令和4年 2月13日 9:30~16:00

○御前山フロイデガルテン 正面駐車場

※完全予約制になりますので、メニューが決まりましたら
『0295-54-2555』へお電話下さい。(予約なしの来場はお断り
させていただきます)

ご相談いただければお持ち帰り・配達も可能です。

Menu

Aセット

- ・常陸牛のロコモコ丼
- ・コーンポタージュ
- ・特製プリン
- ¥500

Bセット

- ・常陸牛バーガー
- ・コーンポタージュ
- ・特製プリン
- ¥500

・ドリンク

- ・リンゴジュース ¥200
- ・クリームソーダ (店舗限定) ¥200
- ・ホットコーヒー ¥50
- ・イチゴミルク (限定30個) ¥200

つづく農園の苺も使っています

ご来店お待ちしております (=°ω°)♪

2. 各種行事

ミニ産直市

御前山ダムを歩こうかいという会が毎年3月～11月の第3日曜日に開催されており、補助という形で携わらせて頂いていた。その中で主催者よりもっと多世代がこの会に参加してほしいという相談を受けた。そこで、御前山ダム歩こうかいを多世代の方に知ってもらう事、御前山地域の活性化、また、地域住民にとってコロナ禍での楽しみ、生き甲斐の一つになればという思いで開催した。ミニ産直市は、御前山ダムを歩こうかいの開催時間に合わせて開催し、11月21日と3月20日にそれぞれ9:00～11:30という短時間で行われた。

ミニ産直市には、地元農家さんや地元のパン屋さんに声をかけ出店して頂くと共に、御前山フロイデガルテンからは、女子クラブやフランクフルト等を出店し、パンhofからはキッチンカーが出店した。第2回では、謎解きイベントも同時開催し、お子様連れの家族の来場も増えた。

歩こうかいの参加者からは歩き終わった後に「いろいろ買えるからありがたい」との声を頂いた。出店者からも「地域の方と触れ合え、自分が作った野菜が売れていくのは嬉しい」、地域住民からは、「こういう催しがこれから増えていくと良い」等の声が挙がった。

今後も定期開催できるよう地域住民と交流を深め、御前山フロイデガルテンが地域包括ケア拠点となるよう、また、地域住民主体での活動をもっと増やしていくべく活動していきたい。



御前山

ミニ産直市



2022年3月20日(日)

9:00 ～ 11:00

御前山ダム公園



御前山ダム歩こうかいと共同開催！

ミニ産直市だけの参加もOK！

地元の野菜や特産品、
近隣施設の紐細工作品等
を販売予定です。




御前山ダム歩こうかい実行委員会
御前山フロイデガルテン

令和3年度（2021年度）

法人年報

第17号

令和5年5月30日 印刷

令和5年6月7日 発行

編集発行 医療法人 博仁会

茨城県常陸大宮市上町313

電話 (0295)-53-1111

FAX (0295)-52-2705

URL: <http://www.hakujinkai.com/>

E-mail: hakujin@onyx.dti.ne.jp

社会福祉法人 博友会

茨城県常陸大宮市野口平146-1

電話 (0295)-54-2555

FAX (0295)-54-2550

URL: <http://www.hakuyukai-sfg.com>

E-mail: [jimug@hakuyukai-sfg.com](mailto:jimusg@hakuyukai-sfg.com)

学校法人 志村学園

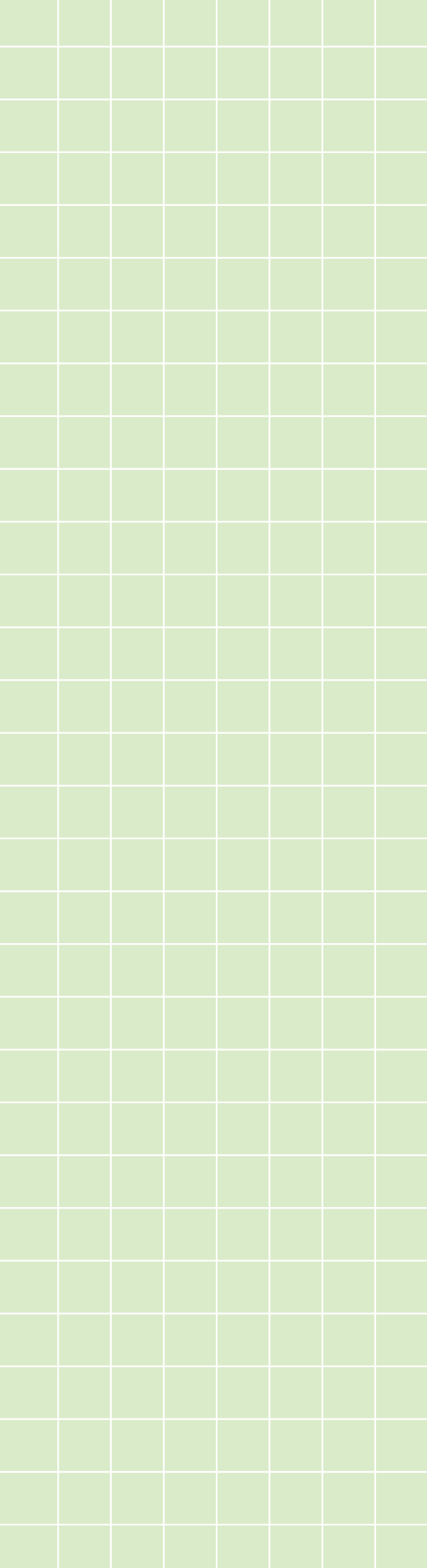
茨城県常陸大宮市下村田2304-4

電話 (0295)-54-1422

FAX (0295)-54-1422

URL: <http://www.ihnc.ac.jp>

E-mail: info@ihnc.ac.jp

A vertical green grid pattern on the left side of the page, consisting of a series of small squares.

医 療 法 人 博 仁 会
社 会 福 祉 法 人 博 友 会
学 校 法 人 志 村 学 園